

地質・土質調査成果電子納品要領(案)

付属資料

平成 17 年 4 月

農林水産省農村振興局設計課
施工企画調整室

地質・土質調査成果電子納品要領(案)

付属資料

一 目 次

付属資料 1 地質情報管理ファイル	付 1-1
1 地質情報管理ファイルの構造図	付 1-1
2 地質情報管理ファイルの DTD	付 1-2
3 地質情報管理ファイルの XML 記入例	付 1-4
付属資料 2 ボーリング交換用データ	付 2-1
1 ボーリング交換用データの記入項目	付 2-1
1-1 ボーリング交換用データのデータ様式	付 2-1
1-2 ボーリング交換用データの記入項目	付 2-2
2 ボーリング交換用データの記入方法	付 2-8
2-1 A 様式:標題情報	付 2-8
2-2 B 様式:土質・岩種区分	付 2-20
2-3 C 様式:色調区分	付 2-37
2-4 D1 様式:観察記事	付 2-38
2-5 D2 様式:観察記事枠線	付 2-39
2-6 E1 様式:標準貫入試験	付 2-40
2-7 E2 様式:標準貫入試験詳細データ	付 2-42
2-8 E3 様式:ルジオൺ試験	付 2-44
2-9 E4 様式:ルジオൺ試験詳細データ	付 2-46
2-10 F 様式:相対密度・相対稠度	付 2-47
2-11 G1 様式:硬軟区分	付 2-49
2-12 G2 様式:コア形状区分	付 2-52
2-13 G3 様式:割れ目区分	付 2-54
2-14 G4 様式:風化区分	付 2-56
2-15 G5 様式:変質区分	付 2-59
2-16 H 様式:孔内水平載荷試験	付 2-61
2-17 I 様式:ボーリング孔を利用した透水試験	付 2-63
2-18 J 様式:PS 検層	付 2-65
2-19 K 様式:その他の原位置試験	付 2-67
2-20 L 様式:試料採取	付 2-68
2-21 N 様式:地盤材料の工学的分類	付 2-70
2-22 O1 様式:地質時代区分	付 2-71
2-23 O2 様式:地層・岩体区分	付 2-74
2-24 P 様式:孔内水位	付 2-75
2-25 Q1 様式:掘削工程	付 2-77
2-26 Q2 様式:孔径・孔壁保護	付 2-78
2-27 Q3 様式:掘進速度	付 2-80
2-28 Q4 様式:コアチューブ・ビット	付 2-81
2-29 Q5 様式:給圧	付 2-82
2-30 Q6 様式:回転数	付 2-83

2-31 Q7 様式:送水条件	付 2-84
2-32 R 様式:断層・破碎帶区分	付 2-86
2-33 S1 様式:コア採取率	付 2-88
2-34 S2 様式:最大コア長	付 2-89
2-35 S3 様式:RQD	付 2-90
2-36 T1 様式:岩級区分	付 2-91
2-37 U1 様式:保孔管	付 2-93
2-38 U2 様式:計測機器	付 2-95
2-39 V1 様式:地下水検層試験	付 2-96
2-40 V2 様式:地下水検層試験詳細データ	付 2-98
2-41 V3 様式:地下水検層試験判定結果	付 2-99
2-42 Y 様式:備考	付 2-101
2-43 Z 様式:フリー情報	付 2-102
3 ボーリング交換用データの構造図	付 2-103
4 ボーリング交換用データの DTD	付 2-113
5 ボーリング交換用データの XML 記入例	付 2-124

付属資料 3 電子柱状図の標準様式 付 3-1

1 土質ボーリング柱状図様式	付 3-1
2 岩盤ボーリング柱状図様式	付 3-3
3 土質ボーリング柱状図の作図例	付 3-5
4 岩盤ボーリング柱状図の作図例	付 3-6

付属資料 4 地質図の記載方法 付 4-1

1 地層・岩体の表記	付 4-1
2 地質時代の表記	付 4-2
3 地層・岩体の分布を示すために用いる色	付 4-2
4 地質学的属性を表す記号	付 4-3

付属資料 5 コア写真管理ファイル 付 5-1

1 コア写真管理ファイルの構造図	付 5-1
2 コア写真管理ファイルの DTD	付 5-2
3 コア写真管理ファイルの XML 記入例	付 5-3

付属資料 6 土質試験及び地盤調査管理ファイル 付 6-1

1 土質試験及び地盤調査管理ファイルの構造図	付 6-1
2 土質試験及び地盤調査管理ファイルの DTD	付 6-2
3 土質試験及び地盤調査管理ファイルの XML 記入例	付 6-4

付属資料 7 データシート交換用データ 付 7-1

1 数値データの記入方法	付 7-1
2 標題情報	付 7-2

2-1	標題情報の記入項目	付 7-2
2-2	標題情報の記入方法	付 7-3
2-3	共通 DTD : 標題情報の構造図	付 7-8
2-4	共通 DTD : 標題情報の定義内容	付 7-9
3	グラフ情報	付 7-10
3-1	グラフ情報の記入項目	付 7-10
3-2	グラフ情報の記入方法	付 7-12
3-3	共通 DTD : グラフ情報の構造図	付 7-26
3-4	共通 DTD : グラフ情報の定義内容	付 7-29
4	土質試験データシート交換用データの DTD	付 7-32
4-1	土粒子の密度試験	付 7-32
4-2	土の含水比試験、電子レンジを用いた土の含水試験	付 7-35
4-3	土の粒度試験	付 7-37
4-4	石分を含む地盤材料の粒度試験	付 7-49
4-5	土の細粒分含有率試験	付 7-53
4-6	土の液性限界・塑性限界試験	付 7-56
4-7	フォールコーンを用いた土の液性限界試験	付 7-59
4-8	土の収縮定数試験	付 7-62
4-9	土の保水性試験	付 7-65
4-10	砂の最小密度・最大密度試験	付 7-73
4-11	土の湿潤密度試験	付 7-76
4-12	土懸濁液の pH 試験、土懸濁液の電気伝導率試験	付 7-80
4-13	土の強熱減量試験	付 7-83
4-14	土の有機炭素含有量試験	付 7-85
4-15	土の水溶性成分試験	付 7-88
4-16	地盤材料の工学的分類	付 7-92
4-17	土の透水試験	付 7-95
4-18	土の段階載荷による圧密試験	付 7-101
4-19	土の定ひずみ速度載荷による圧密試験	付 7-108
4-20	土の一軸圧縮試験	付 7-112
4-21	土の三軸試験の供試体作成・設置	付 7-116
4-22	土の三軸圧縮試験 [UU, CU, CUb, CD]	付 7-120
4-23	土の K ₀ 圧密非排水三軸圧縮 (KOCUbC) 試験、土の K ₀ 圧密非排水三軸伸張 (KOCUbE) 試験	付 7-130
4-24	不飽和土の三軸圧縮試験	付 7-138
4-25	粗粒土の三軸試験の供試体作成・設置	付 7-146
4-26	土の繰返し非排水三軸試験	付 7-152
4-27	地盤材料の変形特性を求めるための繰返し三軸試験、土の変形特性を求めるための中空円筒供試体による繰返しねじりせん断試験	付 7-159
4-28	土のねじりせん断試験用中空円筒供試体の作製・設置	付 7-170
4-29	土の中空円筒供試体によるねじりせん断試験	付 7-174
4-30	土の圧密定体積一面せん断試験、土の圧密定圧一面せん断試験	付 7-182
4-31	突固めによる土の締固め試験	付 7-190
4-32	締固めた土のコーン指數試験	付 7-195
4-33	CBR 試験	付 7-199
5	地盤調査データシート交換用データの DTD	付 7-208
5-1	固定ピストン式シンウォールサンプラーによる土試料の採取、ロータリー式二重管サンプラーによる土試料の採取、ロータリー式三重管サンプラーによる土試料の採取、ロータリー式スリーブ内蔵二重管サンプラーによる試料の採取	付 7-208
5-2	オランダ式二重管コーン貫入試験	付 7-213

5-3	スウェーデン式サウンディング試験	付 7-216
5-4	原位置ベーンせん断試験	付 7-219
5-5	孔内水平載荷試験	付 7-222
5-6	ポータブルコーン貫入試験	付 7-225
5-7	簡易動的コーン貫入試験	付 7-228
5-8	ボーリング孔を利用した砂質・礫質地盤の地下水位測定	付 7-231
5-9	観測井による砂質・礫質地盤の地下水位測定	付 7-234
5-10	ボーリング孔内に設置した電気式間隙水圧計による間隙水圧の測定	付 7-237
5-11	単孔を利用した透水試験	付 7-240
5-12	締め固めた地盤の透水試験	付 7-248
5-13	トレーサーによる地下水流动層検層	付 7-251
5-14	孔内水位回復法による岩盤の透水試験	付 7-256
5-15	注水による岩盤の透水試験	付 7-262
5-16	ルジオン試験	付 7-267
5-17	道路の平板載荷試験	付 7-270
5-18	現場 CBR 試験	付 7-273
5-19	地盤の平板載荷試験	付 7-276
5-20	砂置換法による土の密度試験	付 7-280
5-21	突き砂による土の密度試験	付 7-286
5-22	水置換による土の密度試験	付 7-289
5-23	コアカッターによる土の密度試験	付 7-294
5-24	RI 計器による土の密度試験	付 7-297
5-25	変位杭を用いた地表面変位測定	付 7-301
5-26	沈下板を用いた地表面沈下量測定	付 7-304
5-27	クロスアーム式沈下計を用いた盛土内鉛直変位測定	付 7-307
5-28	水管式地盤傾斜計を用いた地表面の傾斜変動量測定	付 7-310
5-29	伸縮計を用いた地表面移動量測定	付 7-314
5-30	地中ひずみ計を用いた地すべり面測定	付 7-317
5-31	ロータリー式スリーブ内蔵二重管サンプラーによる環境化学分析のための試料の採取、 打撃貫入法による環境化学分析のための試料の採取	付 7-320
5-32	環境化学分析のための表層土試料の採取	付 7-325
5-33	観測井からの環境化学分析のための地下水試料の採取	付 7-330

付属資料 8 土質試験結果一覧表データ 付 8-1

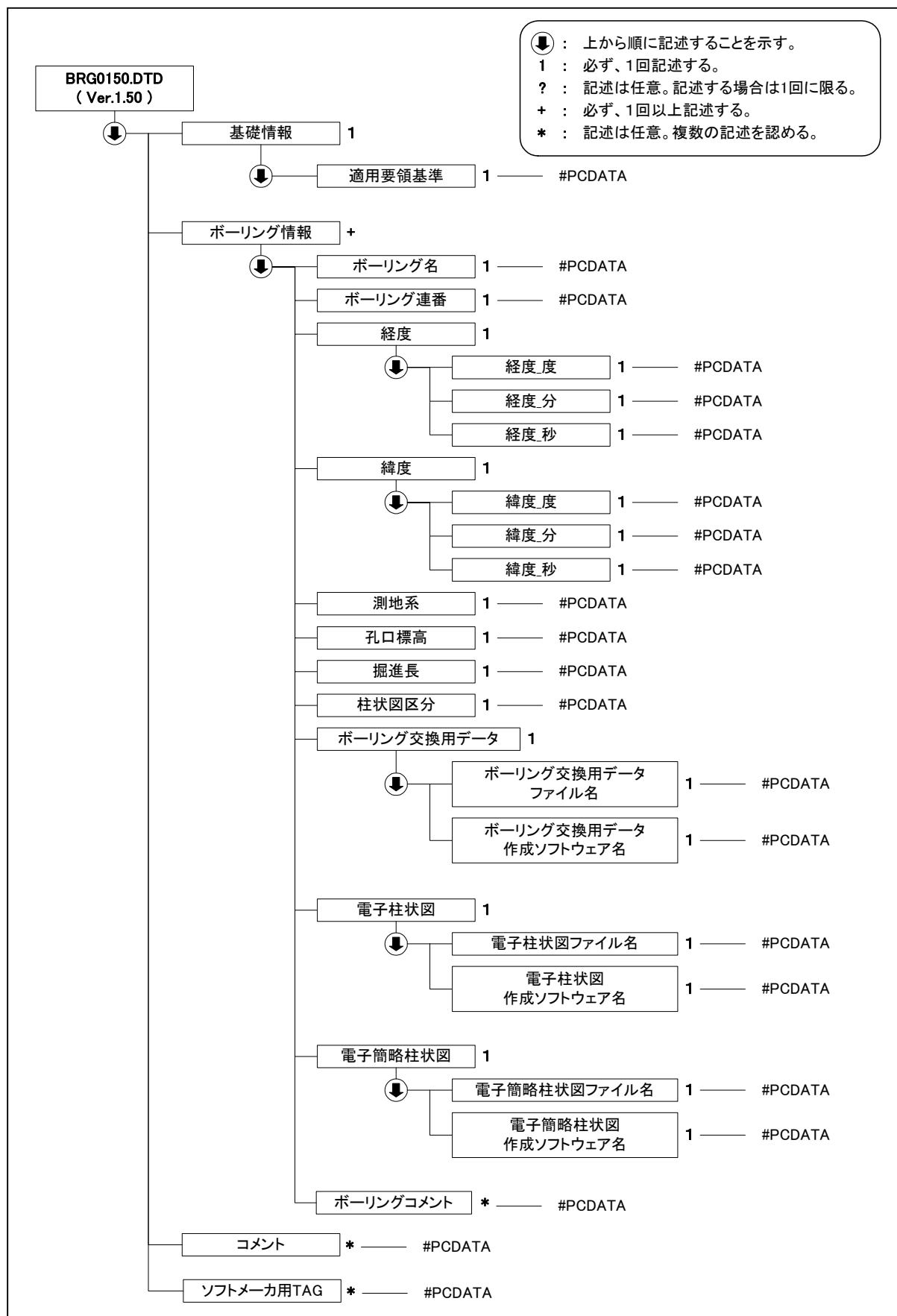
1	土質試験結果一覧表データの記入項目	付 8-1
2	土質試験結果一覧表データの記入方法	付 8-3
3	土質試験結果一覧表データの構造図	付 8-12
4	土質試験結果一覧表データの定義内容	付 8-15
5	土質試験結果一覧表データの記入例	付 8-17

付属資料 9 その他管理ファイル 付 9-1

1	その他管理ファイルの構造図	付 9-1
2	その他管理ファイルの定義内容	付 9-2
3	その他管理ファイルの記入例	付 9-3

付属資料1 地質情報管理ファイル

1 地質情報管理ファイルの構造図



2 地質情報管理ファイルの DTD

地質情報管理ファイルの DTD(BRG0150.DTD)を以下に示す。なお、DTD ファイルは、N N - C A L S のホームページ(<http://www.nncals.jp/>)から入手できる。

```
<!ELEMENT BORING (基礎情報, ポーリング情報+, コメント*, ソフトメーカ用 TAG*)>
<!ATTLIST BORING DTD_version CDATA #FIXED "1.50">

<!--*****基礎情報*****-->
<!-- 基礎情報 -->
<!--*****適用要領基準*****-->
<!ELEMENT 基礎情報 (適用要領基準)>
  <!ELEMENT 適用要領基準 (#PCDATA)>

<!--*****ポーリング情報*****-->
<!-- ポーリング情報 -->
<!--*****柱状図区分, ポーリング交換用データ, 電子柱状図, 電子簡略柱状図, ポーリングコメント*****-->
<!ELEMENT ポーリング情報 (ポーリング名, ポーリング連番, 経度, 緯度, 測地系, 孔口標高, 掘進長, 柱状図区分, ポーリング交換用データ, 電子柱状図, 電子簡略柱状図, ポーリングコメント*)>
  <!ELEMENT ポーリング名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT ポーリング連番 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 経度 (経度_度, 経度_分, 経度_秒)>
    <!ELEMENT 経度_度 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 経度_分 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 経度_秒 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 緯度 (緯度_度, 緯度_分, 緯度_秒)>
    <!ELEMENT 緯度_度 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 緯度_分 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 緯度_秒 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 測地系 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 孔口標高 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 掘進長 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 柱状図区分 (#PCDATA)>

<!--*****ポーリング交換用データ*****-->
<!-- ポーリング交換用データ -->
<!--*****ボーリング交換用データファイル名, ボーリング交換用データ作成ソフトウェア名*****-->
<!ELEMENT ボーリング交換用データ (ボーリング交換用データファイル名, ボーリング交換用データ作成ソフトウェア名)>
  <!ELEMENT ボーリング交換用データファイル名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT ボーリング交換用データ作成ソフトウェア名 (#PCDATA)>

<!--*****電子柱状図*****-->
<!-- 電子柱状図 -->
<!--*****電子柱状図ファイル名, 電子柱状図作成ソフトウェア名*****-->
<!ELEMENT 電子柱状図 (電子柱状図ファイル名, 電子柱状図作成ソフトウェア名)>
  <!ELEMENT 電子柱状図ファイル名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 電子柱状図作成ソフトウェア名 (#PCDATA)>

<!--*****電子簡略柱状図*****-->
<!-- 電子簡略柱状図 -->
<!--*****電子簡略柱状図ファイル名, 電子簡略柱状図作成ソフトウェア名*****-->
<!ELEMENT 電子簡略柱状図 (電子簡略柱状図ファイル名, 電子簡略柱状図作成ソフトウェア名)>
  <!ELEMENT 電子簡略柱状図ファイル名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 電子簡略柱状図作成ソフトウェア名 (#PCDATA)>

<!--*****ボーリングコメント*****-->
<!-- ボーリングコメント -->
```

```
<!--*****  
<!ELEMENT ポーリングコメント (#PCDATA)>  
  
<!--*****  
<!--      コメント      -->  
<!--*****  
<!ELEMENT コメント (#PCDATA)>  
  
<!ELEMENT ソフトメーカー用 TAG (#PCDATA)>
```

3 地質情報管理ファイルの XML 記入例

地質情報管理ファイル(BORING.XML)の記入例を以下に示す。なお、サンプル XML ファイルは、N N - C A L S のホームページ(<http://www.nncals.jp/>)から入手できる。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE BORING SYSTEM "BRG0150.DTD">
<BORING DTD_version="1.50">

<基礎情報>
  <適用要領基準>農村振興土木 200504-01</適用要領基準>
</基礎情報>

<ボーリング情報>
  <ボーリング名>B-001</ボーリング名>
  <ボーリング連番>1</ボーリング連番>
  <経度>
    <経度_度>135</経度_度>
    <経度_分>49</経度_分>
    <経度_秒>58. 2000</経度_秒>
  </経度>
  <緯度>
    <緯度_度>34</緯度_度>
    <緯度_分>59</緯度_分>
    <緯度_秒>53. 2000</緯度_秒>
  </緯度>
  <測地系>0</測地系>
  <孔口標高>102. 00</孔口標高>
  <掘進長>50. 00</掘進長>
  <柱状図区分>土質</柱状図区分>
  <ボーリング交換用データ>
    <ボーリング交換用データファイル名>BED0001.XML</ボーリング交換用データファイル名>
    <ボーリング交換用データ作成ソフトウェア名>ボーリングデータ簡易作成 LT2.0</ボーリング交換用データ作成ソフトウェア名>
  </ボーリング交換用データ>
  <電子柱状図>
    <電子柱状図ファイル名>BRG0001.PDF</電子柱状図ファイル名>
    <電子柱状図作成ソフトウェア名>Adobe Acrobat 4.0J</電子柱状図作成ソフトウェア名>
  </電子柱状図>
  <電子簡略柱状図>
    <電子簡略柱状図ファイル名>BRG0001.P21</電子簡略柱状図ファイル名>
    <電子簡略柱状図作成ソフトウェア名>ボーリング CAD2.0</電子簡略柱状図作成ソフトウェア名>
  </電子簡略柱状図>
  <ボーリングコメント>○○○○にて調査</ボーリングコメント>
</ボーリング情報>

<ボーリング情報>
  <ボーリング名>B-002</ボーリング名>
  <ボーリング連番>2</ボーリング連番>
  <経度>
    <経度_度>135</経度_度>
    <経度_分>47</経度_分>
    <経度_秒>26. 4000</経度_秒>
  </経度>
  <緯度>
    <緯度_度>35</緯度_度>
    <緯度_分>53</緯度_分>
    <緯度_秒>15. 8000</緯度_秒>
```

</緯度>
<測地系>0</測地系>
<孔口標高>123.00</孔口標高>
<掘進長>60.00</掘進長>
<柱状図区分>岩盤</柱状図区分>
<ボーリング交換用データ>
<ボーリング交換用データファイル名>BED0002.XML</ボーリング交換用データファイル名>
<ボーリング交換用データ作成ソフトウェア名>ボーリングデータ簡易作成 LT2.0</ボーリング交換用データ作成ソフトウェア名>
</ボーリング交換用データ>
<電子柱状図>
<電子柱状図ファイル名>BRG0002.PDF</電子柱状図ファイル名>
<電子柱状図作成ソフトウェア名>Adobe Acrobat 4.0J</電子柱状図作成ソフトウェア名>
</電子柱状図>
<電子簡略柱状図>
<電子簡略柱状図ファイル名>BRG0002.P21</電子簡略柱状図ファイル名>
<電子簡略柱状図作成ソフトウェア名>ボーリング CAD2.0</電子簡略柱状図作成ソフトウェア名>
</電子簡略柱状図>
<ボーリングコメント>○○○○にて調査</ボーリングコメント>
</ボーリング情報>

<ボーリング情報>
<ボーリング名>B-3</ボーリング名>
<ボーリング連番>3</ボーリング連番>
<経度>
<経度_度>135</経度_度>
<経度_分>41</経度_分>
<経度_秒>41.2000</経度_秒>
</経度>
<緯度>
<緯度_度>34</緯度_度>
<緯度_分>57</緯度_分>
<緯度_秒>18.2000</緯度_秒>
</緯度>
<測地系>0</測地系>
<孔口標高>10.00</孔口標高>
<掘進長>50.00</掘進長>
<柱状図区分>地すべり</柱状図区分>
<ボーリング交換用データ>
<ボーリング交換用データファイル名>BED0003.XML</ボーリング交換用データファイル名>
<ボーリング交換用データ作成ソフトウェア名>ボーリングデータ簡易作成 LT2.0</ボーリング交換用データ作成ソフトウェア名>
</ボーリング交換用データ>
<電子柱状図>
<電子柱状図ファイル名>BRG0003.PDF</電子柱状図ファイル名>
<電子柱状図作成ソフトウェア名>Adobe Acrobat 4.0J</電子柱状図作成ソフトウェア名>
</電子柱状図>
<電子簡略柱状図>
<電子簡略柱状図ファイル名>BRG0003.P21</電子簡略柱状図ファイル名>
<電子簡略柱状図作成ソフトウェア名>ボーリング CAD2.0</電子簡略柱状図作成ソフトウェア名>
</電子簡略柱状図>
<ボーリングコメント>○○○○にて調査</ボーリングコメント>
</ボーリング情報>

<コメント>○○○○にて調査</コメント>
<ソフトメーカー用 TAG></ソフトメーカー用 TAG>

</BORING>

付属資料2 ボーリング交換用データ

1 ボーリング交換用データの記入項目

1-1 ボーリング交換用データのデータ様式

ボーリング交換用データのデータ様式一覧は以下に示すとおりである。

表 1-1 ボーリング交換用データのデータ様式一覧

様式番号	入力項目	様式番号	入力項目
A	標題情報	N	地盤材料の工学的分類
B	土質・岩種区分	01	地質時代区分
C	色調区分	02	地層・岩体区分
D1	観察記事	P	孔内水位
D2	観察記事枠線	Q1	掘削工程
E1	標準貫入試験	Q2	孔径・孔壁保護
E2	標準貫入試験詳細データ	Q3	掘進速度
E3	ルジオン試験	Q4	コアチューブ・ビット
E4	ルジオン試験詳細データ	Q5	給圧
F	相対密度・相対稠度	Q6	回転数
G1	硬軟区分	Q7	送水条件
G1S	硬軟区分判定表	R	断層・破碎帯区分
G2	コア形状区分	S1	コア採取率
G2S	コア形状区分判定表	S2	最大コア長
G3	割れ目区分	S3	RQD
G3S	割れ目区分判定表	T1	岩級区分
G4	風化区分	T1S	岩級区分判定表
G4S	風化区分判定表	U1	保孔管
G5	変質区分	U2	計測機器
G5S	変質区分判定表	V1	地下水検層試験
H	孔内水平載荷試験	V2	地下水検層試験詳細データ
I	ボーリング孔を利用した透水試験	V3	地下水検層試験判定結果
J	PS 検層	Y	備考
K	その他の原位置試験	Z	フリー情報
L	試料採取		

1-2 ボーリング交換用データの記入項目

ボーリング交換用データの記入項目一覧を以下に示す。

表 1-2 ボーリング交換用データの記入項目一覧

様式	データ種別	項目名称	単位	形式
A	標題情報	調査基本情報		
		事業・工事名	-	文字
		調査名	-	文字
		調査目的	-	コード
		調査対象	-	コード
		ボーリング名	-	文字
		ボーリング総数	-	整数
		ボーリング連番	-	整数
	経度緯度情報	経度 - 度	度	整数
		経度 - 分	分	整数
		経度 - 秒	秒	実数
		緯度 - 度	度	整数
		緯度 - 分	分	整数
		緯度 - 秒	秒	実数
		取得方法コード	-	コード
		取得方法説明	-	文字
		読み取り精度	-	コード
		測地系	-	コード
	ローカル座標	座標定義	-	文字
		座標値	-	文字
	調査位置	調査位置住所	-	文字
		メッシュコード1次	-	コード
		メッシュコード2次	-	コード
		メッシュコード3次	-	コード
	発注機関	名称	-	文字
		テクリスコード	-	コード
	調査期間	開始年	年	整数
		開始月	月	整数
		開始日	日	整数
		終了年	年	整数
		終了月	月	整数
		終了日	日	整数
	調査会社	名称	-	文字
		TEL	-	文字
		主任技師/管理技術者	-	文字
		現場代理人	-	文字
		コア鑑定者	-	文字
		ボーリング責任者	-	文字
	ボーリング基本情報	孔口標高	m	実数
		総掘進長	m	実数
		柱状図様式の種類	-	コード
		掘進角度	度	実数
		掘進方向	度	実数
		地盤勾配	度	実数

様式	データ種別	項目名称		単位	形式
A	標題情報	試錐機	名称	-	文字
			能力	m級	整数
			方法	-	コード
		エンジン	名称	-	文字
			能力	-	整数
			単位	-	文字
		ハンマー落下用具	コード	-	コード
			名称	-	文字
		N値記録用具 又は装置	コード	-	コード
			名称	-	文字
		ポンプ	名称	-	文字
			能力	-	整数
			単位	-	文字
		櫛種類	コード	-	コード
			名称	-	文字

様式	データ種別	項目名称		単位	形式
B	土質・岩種区分	下端深度		m	実数
		土質・岩種区分1		-	文字
		土質・岩種記号1		-	文字
		分類コード1		-	コード
		土質・岩種区分2		-	文字
		土質・岩種記号2		-	文字
		分類コード2		-	コード
C	色調区分	下端深度		m	実数
		色調名		-	文字
D1	観察記事	上端深度		m	実数
		下端深度		m	実数
		記事		-	文字
D2	観察記事枠線	枠線下端深度		m	実数
E1	標準貫入試験	開始深度		m	実数
		0~10cm打撃回数		回	整数
		0~10cm貫入量		cm	整数
		10~20cm打撃回数		回	整数
		10~20cm貫入量		cm	整数
		20~30cm打撃回数		回	整数
		20~30cm貫入量		cm	整数
		合計打撃回数		回	整数
		合計貫入量		cm	整数
		備考		-	文字
E2	標準貫入試験 詳細データ	開始深度		m	実数
		打撃	打撃回数		整数
			貫入量		整数
			累積貫入量		整数
		備考		-	文字

様式	データ種別	項目名称	単位	形式
E3	ルジオン試験	ルジオン試験番号	-	整数
		試験深度	上端深度 下端深度	m m
		圧力最大スケール(Pmax)	MPa	実数
		注入量最大スケール(Qmax)	l/min/m	実数
		圧力開始点(Psta)	MPa	実数
		注入量開始点(Qsta)	l/min/m	実数
		ルジオン値区分	-	コード
		ルジオン値・換算ルジオン値	l/min/m	実数
		限界圧力	MPa	実数
E4	ルジオン試験詳細 データ	ルジオン試験番号	-	整数
		有効圧力	MPa	実数
		注入量	l/min/m	実数
F	相対密度 ・相対稠度	下端深度	m	実数
		相対密度	コード 状態	コード 文字
		相対稠度	コード 状態	コード 文字
		コード	-	コード
G1S	硬軟区分判定表	記号	-	文字
		区分	-	文字
		説明	-	文字
		下端深度	m	実数
G1	硬軟区分	硬軟区分	-	コード
		下端深度	m	実数
	G2S	コード	-	コード
		記号	-	文字
		区分	-	文字
		説明	-	文字
G2	コア形状区分	下端深度	m	実数
		コア形状区分	-	コード
G3S	割れ目区分判定表	コード	-	コード
		記号	-	文字
		区分	-	文字
		説明	-	文字
G3	割れ目区分判定表	下端深度	m	実数
		割れ目区分	-	コード

様式	データ種別	項目名称	単位	形式
G4S	風化区分判定表	コード	-	コード
		記号	-	文字
		区分	-	文字
		説明	-	文字
G4	風化区分	下端深度	m	実数
		風化区分	-	コード
G5S	変質区分判定表	コード	-	コード
		記号	-	文字
		区分	-	文字
		説明	-	文字
G5	変質区分	下端深度	m	実数
		変質区分	-	コード
H	孔内水平載荷試験	試験深度	m	実数
		試験方法	コード	-
			方法	-
		積荷パターン	-	文字
		試験結果	初期圧	kN / m ²
			降伏圧	kN / m ²
			変形係数	kN / m ²
			割線弾性係数	kN / m ²
			接線弾性係数	kN / m ²
				実数
I	ボーリング孔を利用した透水試験	試験深度	上端深度	m
			下端深度	m
		試験方法	コード	-
			方法	-
		透水係数		cm/s
J	PS検層	P波試験	上端深度	m
			下端深度	m
			起振方式	-
			速度	m/s
		S波試験	上端深度	m
			下端深度	m
			起振方式	-
			速度	m/s
K	その他の原位置試験	試験名	-	文字
		試験深度	上端深度	m
			下端深度	m
		試験結果等	-	文字
L	試料採取	採取深度	上端深度	m
			下端深度	m
		試料番号	-	文字
		採取方法	コード	-
			採取方法	-
		試験名	-	文字

様式	データ種別	項目名称	単位	形式
N	地盤材料の工学的分類	下端深度	m	実数
		地盤材料の工学的分類記号	-	文字
01	地質時代区分	上端深度	m	実数
		下端深度	m	実数
		地質時代区分	コード 名称	- 文字
02	地層・岩体区分	上端深度	m	実数
		下端深度	m	実数
		地層名	-	文字
P	孔内水位	測定年月日	年 月 日	年 月 日
		掘削状況	コード 状況	- 文字
		孔内水位		m
		水位種別・備考	コード 備考	- 文字
		測定年月日	年 月 日	年 月 日
		掘進深度		m
		ケーシング下端深度		m
		下端深度		m
Q1	掘削工程	孔径		mm
		孔壁保護	コード 保護方法 実施理由	- 文字 文字
		測定年月日	年 月 日	年 月 日
		掘進深度		m
		ケーシング下端深度		m
Q2	孔径・孔壁保護	下端深度		m
		孔径		mm
		孔壁保護	コード 保護方法 実施理由	- 文字 文字
		下端深度		m
		掘進速度		cm/h
Q3	掘進速度	下端深度		m
		掘進速度		cm/h
		下端深度		m
Q4	コアチューブ・ビット	コアチューブ名		-
		ビット名		-
		下端深度		m
Q5	給圧	給圧		MPa
		下端深度		m
Q6	回転数	回転数		rpm
		下端深度		m
Q7	送水条件	送水圧		MPa
		送水量		l/min
		排水量		l/min
		送水種類	コード 送水種類	- 文字

様式	データ種別	項目名称	単位	形式	
R	断層・破碎帯区分	上端深度	m	実数	
		下端深度	m	実数	
		性状	コード	-	
			性状	-	
		備考	-	文字	
S1	コア採取率	下端深度	m	実数	
		コア採取率	%	整数	
S2	最大コア長	下端深度	m	実数	
		最大コア長	cm	整数	
S3	RQD	下端深度	m	実数	
		RQD	%	整数	
T1S	岩級区分判定表	項目名		文字	
		判定	コード	-	
			記号	-	
			説明	-	
T	岩級区分	下端深度	m	実数	
		岩級区分	-	コード	
U1	保孔管	下端深度	m	実数	
		種別	-	コード	
		備考	-	文字	
U2	計測機器	設置区間	上端深度	m	
			下端深度	m	
		機器種別	-	文字	
		備考	-	文字	
V1	地下水検層試験	地下水検層試験番号	-	整数	
		試験区間	上端深度	m	
			下端深度	m	
		掘削深度	m	実数	
		孔内水位	m	実数	
		試験方法	-	コード	
		電解質溶液濃度	%	実数	
V2	地下水検層試験詳細データ	測定時間	分	文字	
		地下水検層試験番号	-	整数	
		測定深度	m	実数	
		比抵抗値	投入前	·cm	
V3	地下水検層試験判定結果		投入直後	·cm	
			各経過時間	·cm	
	区間	上端深度	m		
Y	備考		下端深度	m	
	地下水検層結果	-	文字		
Z		タイトル	-	文字	
		区間	上端深度	m	
			下端深度	m	
		備考内容	-	文字	
フリー情報		-	文字		

2 ボーリング交換用データの記入方法

2-1 A 様式: 標題情報

ボーリング柱状図に含まれる標題情報は、A 様式に定める項目を入力する。

A様式: 標題情報	
事業・工事名	○○農政局○○○○事業
○ 調査名	○○幹線用水路地質調査業務
○ 調査目的・調査対象	調査目的 1 5 調査対象 0 8
○ ボーリング名	B-2
○ ボーリング本数	ボーリング総数 1 0 ボーリング連番 1 1
○ 経度・緯度	東経 1 3 5 度 4 9 分 5 8 . 2 0 0 0 秒 北緯 3 4 度 5 9 分 5 3 . 2 0 0 0 秒 取得方法 0 2 1/1,000地形図を0.1mm単位で読み取り
○ ローカル座標*	読み取り精度: 小数点以下 2 枠まで 測地系 0 座標定義 X 座標値 3000.000 座標定義 Y 座標値 4000.000 座標定義 DL. 座標値 50.00
○ 調査位置	名称 ○○県○○郡○○町字○○ メッシュコード 5 2 3 5 0 3 3 9
○ 発注機関	名称 ○○農政局○○○○事業所 テクリスコード 0 3 0 0 6 0 0 7
○ 調査期間	1 9 9 9 年 0 5 月 0 1 日 ~ 1 9 9 9 年 0 5 月 2 0 日
○ 調査会社	調査業者名 株式会社○○コンサルタンツ 電話番号 012-3455-6789 主任技師 ○○○○ 現場代理人 △△△△ コア鑑定者 ×××× ボーリング責任者 □□□□
○ 基本情報	孔口標高 T.P. 0 . 2 3 m 総掘進長 2 3 . 0 0 m 柱状図様式の種類 1 掘進角度 1 5 . 0 0 度 掘進方位 1 0 . 0 0 度 地盤勾配 1 5 . 0 0 度
○ 試錐機	名称 ○○○○ 能力 1 5 0 m級 方法 □□
○ エンジン	名称 △△△△ 能力 単位 □□
○ ハンマー落下用具	コード 2 名称 □□
○ N値記録用具又は装置	コード 2 名称 □□
○ ポンプ	名称 ××× 能力 单位 □□
○ 檻種類	コード 1 名称 □□

*ローカル座標は必要な項目分だけ繰返し記入可能とする。
上記は3項目分繰返し記入した例である。
*テクリスコードを発注者機関コードに読み替えるものとする。
*檻種類については、記入する必要はない。

○必須入力

【解説】

標題情報は、個々のボーリングの一般的な事項を整理・登録するもので、データベースから必要な情報を取り出す際に重要な役割を持つ、いわばインデックス部にあたる事項である。

(1) 事業・工事名(文字)

成果物(報告書)に表記される事業名または工事名を入力する。入力に当たっては、記号等を省略しないこと。

例： 農政局 事業

農政局	事業
-----	----

(2) 調査名(文字)

成果物(報告書)に書かれている調査件名を入力する。入力に当たっては、記号等を省略しないこと。

例： 幹線用水路地質調査業務

幹線用水路地質調査業務

(3) 調査目的・調査対象(コード)

ボーリング調査目的と調査対象のコードを入力する。

調査目的は、「表 2-1 調査目的コード表」より 2 衔コードで入力する。

例：用水路(管水路)

1	5
---	---

調査対象は、「表 2-2 調査対象コード表」より 2 衔コードで入力する。

例：地下水路

0	8
---	---

表 2-1 調査目的コード表

コード	目的
51	測量
52	かんがい事業計画
53	排水事業計画
54	ほ場整備事業計画
55	農地再編開発事業計画
56	農道整備事業計画
57	地域農業開発計画
58	農村整備事業計画
59	農地防災事業計画
60	土地改良施設管理事業計画
61	ほ場整備設計
62	農地造成
63	農道
64	用水路(開水路)
65	用水路(管水路)
66	排水路
67	畑地かんがい
68	頭首工
69	ため池
70	用水機場
71	排水機場
72	集落排水

表 2-2 調査対象コード表

コード	目的
01	構造物基礎
02	舗装路盤(道路路盤・空港路盤)
03	鉄道路盤
04	トンネル・地下空洞
05	橋梁・高架
06	ダム・溜池
07	地上水路
08	地下水路
09	護岸
10	砂防
11	掘削・掘削のり面
12	盛土・埋立て盛土のり面
13	地すべり・斜面崩壊
14	環境
15	地盤沈下
16	地震
17	水資源調査
18	地熱温泉調査
19	資源調査
20	岩石(土)材料調査
21	その他

73	農村環境整備
74	干拓・埋立て
75	農業用ダム
76	トンネル
77	橋梁
78	機械設備
79	電気・通信設備
80	情報処理システム
81	土構造 / 防災
82	営農飲雑用水
83	地質 / 土質
84	環境調査・解析・保全
85	水文・水利
99	その他

(4) ボーリング名(文字)

調査で使用したボーリング名を入力する。

例: 現場で使用したボーリング名が “ B-2 ” であった場合

B-2

(5) ボーリング本数

当該調査のボーリング本数に関する、次の事項を記入する。

1) ボーリング総数(整数)

調査したボーリングの総本数を入力する。

例: 調査ボーリング総数が 10 本の場合

		1	0
--	--	---	---

2) ボーリング連番(整数)

ボーリング総数に対するボーリングの通し番号を記入する。調査ボーリング総数が 10 本の場合は、1 ~ 10 の範囲で入力する。

例: 1 本目のボーリングの場合

			1
--	--	--	---

(6) 経度・緯度

当該調査の経度・緯度に関する次の事項について記入する。

1) 経度(整数・実数)

ボーリング孔口の経度について入力する。小数点以下の精度は必要に応じて 1/10 ~ 1/10,000 の範囲とする。

例: 135 度 49 分 58.2 秒の場合(小数点以下の秒精度 1 衔の場合)

1	3	5	4	9	5	8	.	2	0	0	0
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

例: 135 度 49 分 58.2345 秒の場合(小数点以下の秒精度 4 衔の場合)

1	3	5	4	9	5	8	.	2	3	4	5
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

2) 緯度(整数・実数)

ボーリング孔口の緯度について入力する。入力方法は経度と同じである。

例:34 度 59 分 53.2 秒の場合(小数点以下の秒精度 1 衔の場合)

3	4	5	9	5	3	.	2	0	0	0
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

例:34 度 59 分 52.2345 秒の場合(小数点以下の秒精度 4 衔の場合)

3	4	5	9	5	2	.	2	3	4	5
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

3) 取得方法(コード・文字)

経度ならびに緯度の取得方法について入力する。

表 2-3に基づき取得方法コードを入力する。また、取得方法に関する補足説明を必要に応じて入力する。

例:測量により経緯度を取得した場合

0	1	許容範囲 30
---	---	---------

例:経度・緯度を地形図で読み取って取得した場合

0	2	1/1,000 地形図を 0.1mm 単位で読み取り
---	---	----------------------------

例:ディファレンシャル GPS(仮想基準点方式)の GPS システムで経緯度を取得した場合

0	3	ディファレンシャル GPS(仮想基準点方式)
---	---	------------------------

表 2-3 経度・緯度取得方法コード

コード	方 法
01	測量(GPS 測量含む)
02	地形図読み取り
03	単独測位 GPS システム
09	その他の方法・不明

注) コード「01」の GPS 測量は公共測量作業規程に基づき実施した場合。

市販の単独 GPS システムを用いた場合、コード「03」を記入する。

4) 経度・緯度の読み取り精度(コード)

表 2-4に基づき経度・緯度の読み取り精度を入力する。

取得方法で「03：単独測位 GPS システム」を選択した場合、読み取り精度は必ず「0：整数部まで」を記入すること。

例:秒の精度が 1/10 秒までの場合

1

表 2-4 経緯度の読み取り精度コード

入力値 (コード)	秒の精度
--------------	------

0	整数部まで	
1	1/10 秒(約 3m)まで	(小数部 1 桁)
2	1/100 秒(約 30cm)まで	(小数部 2 桁)
3	1/1,000 秒(約 3cm)まで	(小数部 3 桁)
4	1/10,000 秒(約 3mm)まで	(小数部 4 桁)

例として、1/2.5 万の地形図での読み取り精度を示せば、以下のとおりになる。

日本は南北に細長く、北海道と九州では 1 秒当たりの長さが若干異なるが、関東付近では緯度の 1 秒が 1/2.5 万の地形図上で 1.23mm、経度の 1 秒が 1/2.5 万の地形図上で 1.01mm に相当する。従って、1/2.5 万地形図上で 1mm 精度で位置情報を取得した場合には、経度・緯度はそれぞれ 0.99 秒、0.81 秒となり、整数部までの精度しか確保できないことが分かる。この場合は、コード “0” を入力する。

同様の考え方で、表 2-5 に図面縮尺と、地形図上で 1mm 単位で位置情報を取得した場合の読み取り精度の関係を示す。読み取りの際に 1mm 以上の精度が確保できる場合には、1mm との比率によって、精度を再算定する必要がある。

表 2-5 図面縮尺と読み取り精度の関係

図面縮尺	地形図上における 1 秒当たりの長さ(mm)		1mm の秒数		1mm 単位で位置情報 を取得した場合の精度
	経度	緯度	経度	緯度	
1/25,000	1.01 mm	1.23 mm	0.99	0.81	整数部まで (コード:0)
1/10,000	2.51 mm	3.08 mm	0.40	0.32	
1/5,000	5.03 mm	6.16 mm	0.20	0.16	
1/2,500	10.05 mm	12.32 mm	0.10	0.081	1/10 まで (コード:1)
1/1,000	25.13 mm	30.81 mm	0.040	0.032	
1/500	50.26 mm	61.62 mm	0.020	0.016	
1/250	100.51 mm	123.24 mm	0.0099	0.0081	1/100 まで (コード:2)

注) 地形図上での 1 秒当たりの長さは関東付近を対象とした値

5) 測地系(コード)

経度・緯度の表記について、従来測地系か測地成果 2000 に準拠する世界測地系に基づくかをコードで入力する。

例: 旧測地系

0

表 2-6 測地系の選択コード

コード	座標系
0	旧測地系
1	新測地系

(7) ローカル座標(文字)

事業単位・施工単位での独自の座標について入力する。座標定義については任意に設定可能であり、必要な項目分だけ繰返し記入を行う。

例: X=3000.000, Y=4000.000, DL.=50.00 の場合

X	3000.000
Y	4000.000
DL.	50.00

例: STA 100+10m R2.0 (上り) の場合

ST1	100
ST2	10
STD	R2.0
上下線	上り

(8) 調査位置

1) 名称(文字)

調査現場の住所・位置名称を入力する。

道路調査や広域調査等で調査場所が複数の場合は、"/"(半角)で区切り複数の場所を記入する。

地すべりブロックを記入する場合は、括弧書きでブロック名を記入する。

例: 県 郡 町字

県 郡 町字

例: 地すべりブロック名を記入する場合

県 郡 町字 (ブロック)

2) メッシュコード(コード)

ボーリング孔口の標準メッシュコード^{(*)1}を記入する。

標準メッシュには、1/20万地勢図の大きさに相当する第1次地域区画(1次コード)、1/2.5万地形図の大きさに相当する第2次地域区画(2次コード)、及び第2次地域区画を縦横10等分した第3次地域区画(3次コードあるいは基準メッシュ)がある。

例: 東経 139°40'19.6"、北緯 35°52'02.1" の場合、メッシュコードは次のとおりに

なる。1次メッシュ:5339、2次メッシュ:65、3次メッシュ:43

5	3	3	9	6	5	4	3
---	---	---	---	---	---	---	---

(*)1出典先: 統計に用いる標準地域メッシュ及び標準地域メッシュコード

(昭和48年7月12日 行政管理庁 公示143号)

【参考資料】 標準メッシュの算出方法

東経 $139^{\circ} 40' 19.6'$ 、北緯 $35^{\circ} 52' 02.1'$ の場合を例題として説明する。

・1次コード

1次コードは、4桁のコードからなり最初の2桁はこの地点が含まれる $1/20$ 万地勢図の南西端の点の緯度を 1.5 倍した数字、次の2桁は同じ点の経度の下の2桁の数字(すなわち、経度から 100 を引いた値)となっている。図 2-1 からわかるように例題の緯度・経度を含む $1/20$ 万地勢図「東京」の南西端は北緯 $35^{\circ} 20'$ 東経 139° であるから、コードは 5359 となる。

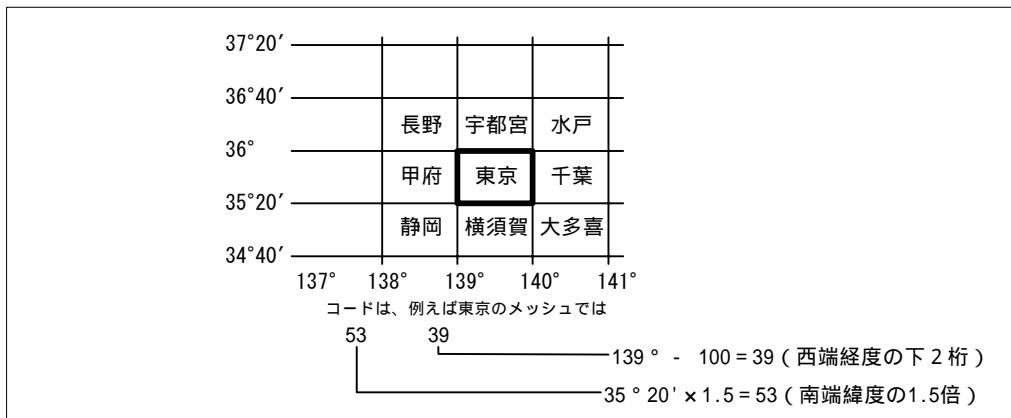


図 2-1 第1次地域区画のコードの付け方

・2次コード

2次コードは、第1次地域区画を縦横8等分した範囲を表し $1/2.5$ 万地形図に相当する。そのコードの付け方は、0から7までの数字を用いて行う。図 2-2 に示したように、左の下のすみのメッシュが 00、右上のすみのメッシュが 77 であり、その間は 0 から 7 までの数字が縦横の順に並べられてコードがつけられる。例題の緯度・経度を含む $1/2.5$ 万地形図「浦和」は、左下から上方へ 7 つ目、右方へ 6 つ目の位置にあるのでコードは 65 である。

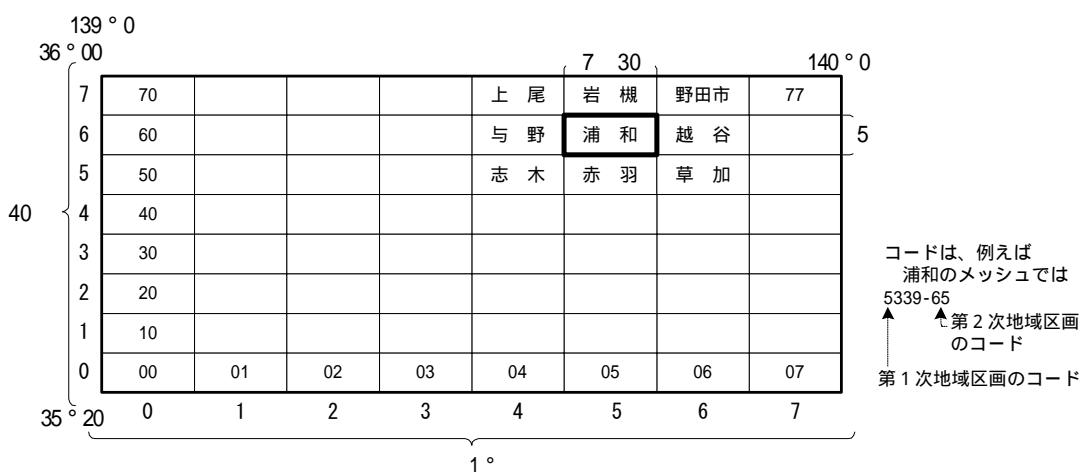


図 2-2 第2次地域区画のコードの付け方

・3次コード

3次コードは、第2次地域区画を縦横10等分した範囲に対して付されたものである。コードのつけ方は、0から9までの数字を用いて行う。図2-3に示したように、左下のすみのメッシュが00、右上のすみのメッシュが99であり、その間は縦横の順に数字が並べられている。例題の緯度・経度は、左下から上方へ5つ目、右方へ4つ目に位置するのでコードは43である。

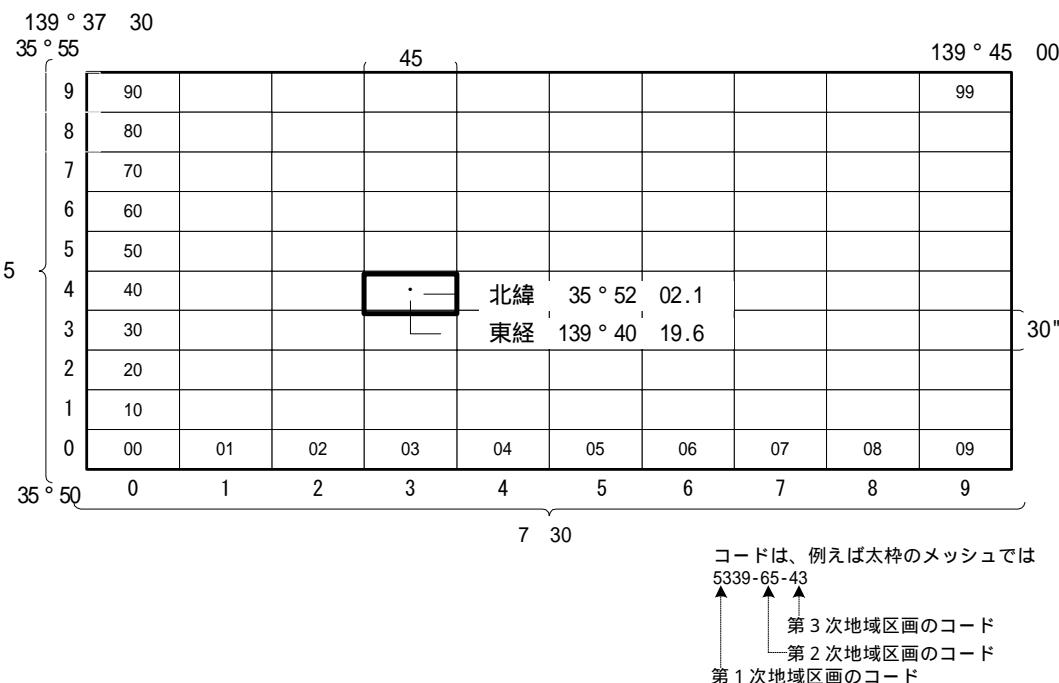


図 2-3 第3次地域区画のコードの付け方

(9) 発注機関

1) 名称(文字)

発注機関事業(務)所の名称を記入する。

例: 農政局 事業所

農政局	事業所
-----	-----

2) テクリスコード(コード)

発注者機関毎に固有の番号として付されるもので、発注機関の指示に従い記入する。

例: 北陸農政局土地改良技術事務所

0	3	0	0	6	0	0	7
---	---	---	---	---	---	---	---

(10) 調査期間(整数)

調査開始から終了までの期間を年・月・日で入力する。

例: 自)1999年5月1日 ~ 至)1999年5月20日

1	9	9	9	年	0	5	月	0	1	日	~	1	9	9	9	年	0	5	月	2	0	日
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(11) 調査会社(文字)

調査会社名・電話番号・主任技師・現場代理人・コア鑑定者・ボーリング責任者について省略

せずに入力する。

例:調査会社名 株式会社 コンサルタンツ

株式会社 コンサルタンツ

例:電話番号 012-3455-6789

012-3455-6789

(12) 基本情報

1) 孔口標高(実数)

孔口標高を入力する。標高基準は、T.P.(東京湾平均海面:トーキョーペール)を使用する。単位はmとし、小数点以下2桁(cm)まで入力する。標高がプラスの場合は+符号を省略するが、マイナスの時は、1桁目に-符号を入れて記入する。参考として、表2-7に主要な標高基準について、T.P.との関係を示す。

例:T.P. +0.23m

0 . 2 3

表2-7 主要な標高基準

基準面ペール	読み方	意味	使用区分	東京湾平均海面との関係[m]	備考
A.P.	エーピー	アラカワペール	荒川、中川 多摩川、東京	-1.1344	
Y.P.	ワイピー	エドガワペール	江戸川、利根川	-0.8402	
O.P.	オーピー	オオサカペール	大阪湾、淀川	-1.3000	
K.P.	ケーピー	キタカミペール	北上川	-0.8745	
S.P.	エスピー	シオガマペール	塩釜港、鳴瀬川	-0.0873	
O.P.	オーピー	オモノペール	雄物川	±0.0000	大阪湾のO.P.と異なる
N.P.	エヌピー	ナゴヤペール	名古屋港	-1.412	
M.S.L.	エムエスエル	ミーンシー レベル	木曾川	±0.0000	東京湾平均海面
A.P.	エーピー	アワペール	吉野川	-0.8333	荒川のA.P.と異なる
T.P.	テーピー	トーキョーペール	東京湾	±0.0000	

2) 総掘進長(実数)

最終掘削深度を入力する。最終深度での標準貫入試験による貫入量は掘進長に含めないこととする。単位はmとし、小数点以下2桁(cm)まで入力する。

例:総掘進長 23m

2 3 . 0 0

3) 柱状図様式の種類(コード)

ボーリング柱状図の出力様式の種類を表2-8から選択し、コードを入力する。

例:土質ボーリング柱状図

1

表 2-8 ボーリング柱状図様式の種類

コード	様式の種類	備 考
1	土質ボーリング柱状図様式	2-8~2-9 参照
2	岩盤ボーリング柱状図様式	2-10~2-11 参照
9	その他(上記 1~2 以外)	-

4) 挖進角度・掘進方位(実数)

掘進角度・掘進方位を入力する。

掘進角度は鉛直下方を 0 度、鉛直上方を 180 度とする。掘進方位は真北から右回り(時計回り)の方位角度で入力する。北は 0 度、南は 180 度とする。掘進角度・掘進方位ともに単位は度とし、小数点以下 2 衔まで入力する。

例:掘進角度 15 度、掘進方位 10 度の場合

1	5	.	0	0	1	0	.	0	0
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

5) 地盤勾配(実数)

ボーリング地点の地盤の勾配を入力する。単位は度とし、小数点以下 2 衔まで入力する。

例:地盤の勾配が 15 度の場合

1	5	.	0	0
---	---	---	---	---

(13) 試錐機

試錐機の名称、能力等について以下を入力する。

1) 名称(文字)

試錐機の名称を入力する。

例:

--

2) 能力(整数)

試錐機の能力について入力する(単位は m 級)。

例:150m 級の場合

1	5	0
---	---	---

3) 方法(コード)

掘削方法は表 2-9より選択して入力する。

例:ケーシング方式

1

表 2-9 挖削方法コード

コード	方法
1	ケーシング方式
2	コアチューブ方式
3	両者併用
9	その他

(14) エンジン

エンジンの名称、能力、単位について以下を入力する。

1) 名称(文字)

エンジンの名称を入力する。

例:

2) 能力(整数)

エンジンの能力について入力する。

例:10PS の場合

		1	0
--	--	---	---

3) 単位(文字)

エンジンの能力の単位を入力する。

例:10PS の場合

(15) ドライブハンマー落下用具(コード・文字)

ドライブハンマー落下用具のコードを記入する。その他の場合は 9 と入力し、名称を入力する。

例:半自動型

2	<input type="text"/>
---	----------------------

表 2-10 ドライブハンマー落下用具のコード

コード	方法
1	全自動型
2	半自動型
3	トンビ法
4	コーンプーリー法
9	その他(不明含む)

(16) N 値記録用具又は装置(コード・文字)

N 値記録用具又は装置のコードを記入する。その他の場合は 9 と入力し、名称を入力する。

例:野帳

2	
---	--

表 2-11 N 値記録用具又は装置のコード

コード	記録用具又は装置
1	自動記録装置
2	野帳
9	その他(不明含む)

(17) ポンプ

ポンプの名称、能力、単位について以下を入力する。

1) 名称(文字)

ポンプの名称を入力する。

例: × × ×

×	×	×
---	---	---

2) 能力(整数)

ポンプの能力について入力する。

例:ポンプ容量 120 l/min の場合

	1	2	0
--	---	---	---

3) 単位(文字)

ポンプの能力の単位を入力する。

例:ポンプ容量 120 l/min の場合

l/min

(18) 檜種類 (コード)

農林水産省の場合、檜の種類について記入する必要はない。

2-2 B 様式：土質・岩種区分

ボーリング柱状図に含まれる土質・岩種区分情報は、B 様式に定める項目を入力する。

【解説】

【土質ボーリング】

土質ボーリングにおける土質区分は、地盤材料の工学的分類方法(表 2-14、表 2-15 参照)を考慮しつつ、表 2-13 の土質コード表から記載を行う。現場における肉眼判定の場合は、地盤材料の工学的分類方法における粒度やコンシステンシーによる区分の境界をはっきり判断することは困難であるが、表 2-15 の地盤材料の分類名と現場土質名の対応表を参考に現場土質名の記載を行う。

なお、粒度試験や液性限界・塑性限界試験を実施し、地盤材料の工学的分類が可能である場合は、「N 様式:地盤材料の工学的分類」に分類名を記載する。

土質ボーリングにおける岩盤の記載は、土質区分コード(表 2-13参照)に基づき、硬岩、中硬岩、軟岩・風化岩の区分を用い、岩種名については「D1 様式・観察記事」に記載することを原則とするが、必要に応じて岩種区分コード(表 2-16参照)を用いて岩種名を記載することを認めることとする。ただし、土質区分コード・岩種区分コードの併用は受発注者間協議の上で決定するものとする。

【岩盤ボーリング】

岩盤ボーリングにおける岩種区分は、表 2-16の岩種区分コード表を参考に岩種名の記載を行う。岩盤ボーリングにおける土質の記載は、表 2-13の土質コード表から記載を行う。土質コード表に無い未固結の堆積物については、表 2-16の岩種区分コード表から選択する。

(1) 下端深度(実数)

土質・岩種区分を行う下端深度を入力する。単位は m とし、小数点以下 2 衔(cm)まで入力する。
最終深度で標準貫入試験を行った場合は、貫入量を含んだ深度とする。

例:30.15m

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) 土質区分・岩種区分(文字)

「ボーリング柱状図作成要領(案)解説書 JACIC 平成 11 年 5 月」に従って、判定結果を文字で記入する。通常は、「土質・岩種区分 1」の欄に土質名・岩種名を記入するが、互層表現が必要な場合には、「土質・岩種区分 2」の欄を利用し、土質名・岩種名の記載を行う。互層を表現する場合は土質名・岩種名を優勢な順に並べることとし、「土質・岩種区分 1」の欄には互層を構成する優勢な土質名・岩種名を、「土質・岩種区分 2」の欄には互層を構成する劣勢な土質名・岩種名を記載することとする。

土質名については、表 2-15 の現場土質名を参考に表 2-13 の土質区分コード表から記載を行う。
岩種名については、表 2-16 の岩種区分コード表から記載を行うこととするが、別途記載の「岩種名称を修飾する形容詞句」を参考に、形容詞句を付けて表現しても構わない。

例:礫混じり砂質シルト

土質・岩種区分 1	土質・岩種区分 2
礫混じり砂質シルト	

例:砂・粘土互層

土質・岩種区分 1	土質・岩種区分 2
砂	粘土

例:中硬岩

土質・岩種区分 1	土質・岩種区分 2
中硬岩	

例:粗粒花崗岩(粒度に関する形容詞句を付加した場合)

土質・岩種区分 1	土質・岩種区分 2
粗粒花崗岩	

例:普通輝石紫蘇輝石安山岩(鉱物に関する形容詞句を付加した場合)

土質・岩種区分 1	土質・岩種区分 2
普通輝石紫蘇輝石安山岩	

例:混在岩

土質・岩種区分 1

混在岩

土質・岩種区分 2

--

例:砂岩・頁岩互層(砂岩優勢互層の場合)

土質・岩種区分 1

砂岩

土質・岩種区分 2

頁岩

(3) 土質記号・岩種記号(文字)

土質名・岩種名に対応する土質記号、岩種記号を入力する。互層表現を行った場合は、「土質・岩種記号 1」、「土質・岩種記号 2」の両方に土質記号・岩種記号を記入する。

土質記号・岩種記号は一覧表のものを参考に、現場の地質状況等を考慮し、自由に設定しても構わない。記号を新設する場合は、大文字アルファベット「A～Z」、小文字アルファベット「a～z」、数字「0～9」、ハイフン「-」、アンダースコア「_」の組み合わせとし、先頭は必ずアルファベットを使用する。

例:砂・粘土互層

土質・岩種記号 1

S

土質・岩種記号 2

CH

例:砂岩を細分する場合

土質・岩種記号 1

Ss1
Ss2

土質・岩種記号 2

例:粗粒花崗岩(粒度に関する形容詞句を付加した場合)

土質・岩種記号 1

CGr

土質・岩種記号 2

--

例:普通輝石紫蘇輝石安山岩(鉱物に関する形容詞句を付加した場合)

土質・岩種記号 1

av-hy-An

土質・岩種記号 2

--

(4) 分類コード(コード)

1) 土質区分

- (a) ボーリング変換用データについては、「土質・岩種区分 1」及び「土質・岩種区分 2」の文字データを利用して、データ変換を行うことを基本とする。コードは地盤の統一的な分類を行うために付けるものである。
- (b) 土質区分コードは5桁で表現する。先頭1桁は、大分類を表すコードであり、土質の場合は“0”を入力する(表 2-12参照)。先頭2桁目から5桁目の全4桁には表 2-13の土質コードを入力する。
- (c) 土質は、第1分類によって入力し、必要に応じて第2分類、第3分類を組み合わせる。
- (d) 現行のコードで表現できない場合(コンクリート等)には、コード「99999」を入力し、「D1 様式:観察記事」欄に詳細を入力する。
- (e) 柱状図で用いる図模様は表 2-13のものを基本とする。

2) 岩種区分

- (a) ボーリング変換用データについては、「土質・岩種区分 1」及び「土質・岩種区分 2」の文字データを利用して、データ変換を行うことを基本とする。コードは地盤の統一的な分類を行うために付けるものである。
- (b) 分類コードは表 2-16から選択し、5桁で入力する。
- (c) 岩種区分で、「粗粒」などの形容詞句を付けて岩種名称を表現した場合、表 2-16から形容詞句を抜いた名称を選択し、入力する(例:「粗粒花崗岩」の場合、表 2-16から花崗岩のコード「32110」を選択し入力する)。
- (d) 表 2-16にない岩種の記載を行う場合、コード「99999」を入力し、「D1 様式:観察記事」欄に詳細を入力する。ただし、表中の岩種名称に形容詞句を付加し細分する場合や現場におけるフィールドネームなど別称で呼ぶ場合などは、コード「99999」を使用してはいけない。
- (e) 柱状図で用いる図模様は表 2-16のものを参考に現場の地質状況に応じて自由に設定して構わない。

例:礫混り砂質シルト

分類コード 1	分類コード 2
0 3 1 2 2	

例:砂・粘土互層

分類コード 1	分類コード 2
0 2 1 0 0	0 3 2 0 0

例:中硬岩

分類コード 1	分類コード 2
0 7 2 0 0	

例:粗粒花崗岩(花崗岩のコードを入力)

分類コード1	分類コード2
3 2 1 1 0	

例:普通輝石紫蘇輝石安山岩(安山岩のコードを入力)

分類コード1	分類コード2
3 1 0 5 0	

例:混在岩

分類コード1	分類コード2
2 0 1 7 0	

例:砂岩・頁岩互層

分類コード1	分類コード2
2 0 0 2 0	

表 2-12 分類コード

種別	地質分類	コード(5桁)	備考
土質	0. 土質(地盤材料)	0	表 2-13参照
岩盤	1. 未固結堆積物	1	表 2-16参照
	2. 堆積岩	2	
	3. 火成岩	3	
	4. 溶岩類、及び火碎岩	4	
	5. 变成岩	5	
	6. 鉱物脈など	6	
	9. その他	9 9 9 9 9	
		-	

注)マイロナイト、断層角礫などの断層岩については「R 様式:断層・破碎帶区分」で記載を行う。

表 2-13 土質区分コード表

第 1 分 類				
区分	分 類 名	コード	図模様	
岩 石 材 料	岩 硬 岩 (HR)	7100		
	岩 中 硬 岩 (MR)	7200		
	盤 軟 岩、風化岩 (WR)	7300		
	玉 石 (B)	7400	○○○	○○○
特 殊 土 材 料	浮石(軽石) (Pm)	8100	△△△△△△△△	△△△△△△△△
	シ ラ ス (Si)	8200	△△△△△△△△	△△△△△△△△
	ス コ リ ア (Sc)	8300	▲▲▲▲▲▲▲▲	▲▲▲▲▲▲▲▲
	火 山 灰 (VA)	8400	- - - - - - - -	- - - - - - - -
	ロ 一 ム (Lm)	8500	\\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\	\\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\
	黒 ボ ク (Kb)	8600		
	マ サ (WG)	8700	- + - + - + - +	- + - + - + - +
そ の 他	廃棄物 (W)	9100	X X X X	X X X X
	改良土 (I)	9200	X X X X	X X X X
	瓦 磁 (BG)	9300	X X X X	X X X X
	盛 土 (BS)	9400	X X X X	X X X X
	埋 土 (FI)	9500	X X X X	X X X X
	表 土 (SF)	9600	X X X X	X X X X
	空 洞 (CV)	9700	X X X X	X X X X
	硬質粘土 (HC)	9800	====	====
	固結粘土 (CC)	9900	=====	=====

第 2 分 類				
区分	分 類 名	コード	図模様	
補助記号	礫 質 (G)	10		
	砂 質 (S)	20		
	シルト質 (M)	30		
	粘土質 (C)	40		
	有機質 (O)	50		
	火山灰質 (V)	60		

第3分類			
区分	分類名	コード	図模様
補助記号	玉石混り (-B)	1	
	砂利・礫混り (-G)	2	
	砂混り (-S)	3	
	シルト混り (-M)	4	
	粘土混り (-C)	5	
	有機質土混じり (-O)	6	
	火山灰混り (-V)	7	
	貝殻混り (-Sh)	8	

表 2-14 地盤材料の工学的分類方法(JGS 0051-2000)

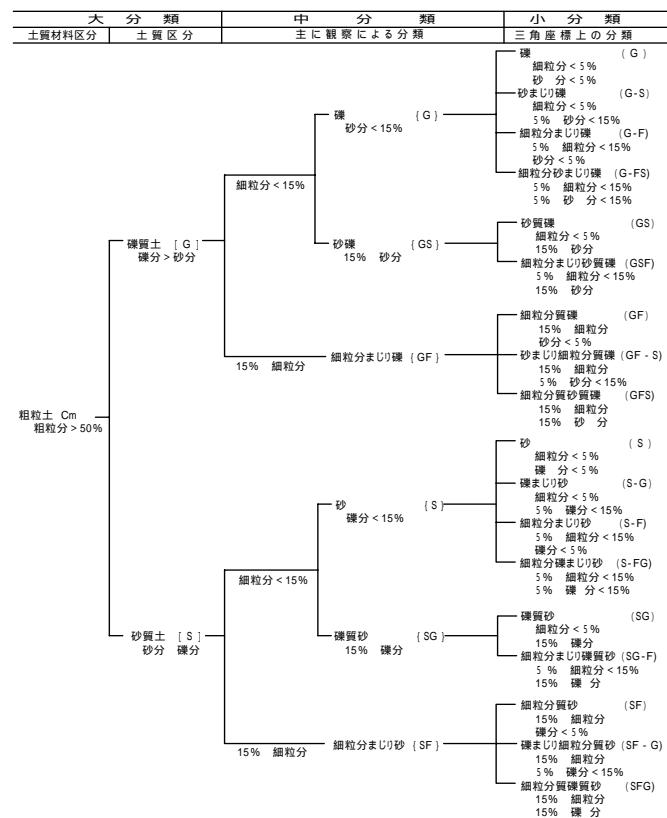
(f) 地盤材料の工学的分類体系



注:含有率%は地盤材料に対する質量百分率

(g) 土質材料の工学的分類体系

(b-1) 粗粒土の工学的分類体系



(c) 細粒分 5%未満の粗粒土の細分類

均等係数の範囲	分類表記	記号
Uc > 10	粒径幅の広い	W
Uc < 10	分級された	P

(d) 細粒分 5%以上混入粗粒土の細分類

細粒分の判別結果	記号	分類表記
粘性土	C S	粘性土まじり 粘性土質
有機質土	O	有機質土まじり 有機質
火山灰質土	V	火山灰質土まじり 火山灰質

(e) 細粒分 5%以上混入細粒土の細分類

砂分混入量	礫分混入量	土質名称	分類記号
砂分 < 5%	礫分 < 5%	細粒土	F
5% 砂分 < 15%	礫分 < 15%	礫まじり細粒土	F - G
15% 砂分	礫分	礫質細粒土	F G
5% 砂分 < 5%	礫分 < 15%	砂まじり細粒土	F - S
15% 砂分	礫分 < 15%	砂礫まじり細粒土	F - SG
5% 砂分 < 5%	5% 砂分 < 15%	砂質細粒土	F S
15% 砂分	5% 砂分 < 15%	砂礫質細粒土	F S - G
5% 砂分 < 5%	5% 砂分	砂礫質細粒土	F S G

注: 含有率%は土質材料に対する質量百分率

(b-2) 主に細粒土の工学的分類体系

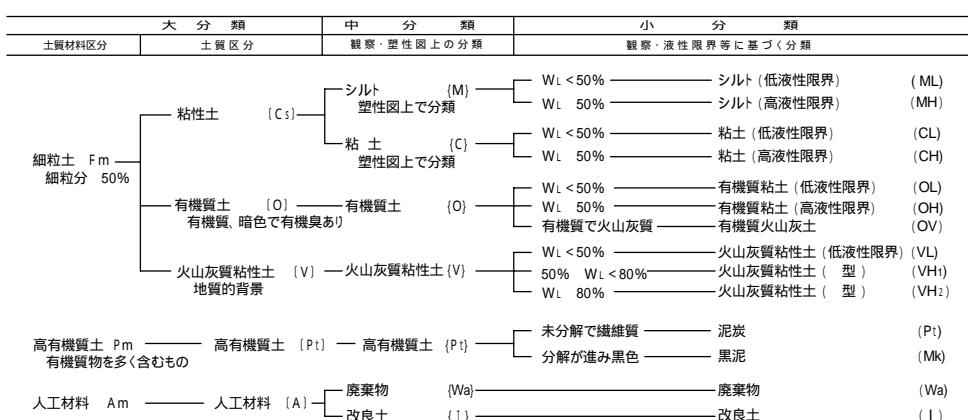


表 2-15 地盤材料の分類名と現場土質名との対応

(a) 粗粒土			
地盤材料の分類名			
大分類	中分類	小分類	
粗粒土 Cm	礫質土 [G]	礫 { G }	礫 (G) 砂まじり礫 (G-S) 細粒分まじり礫 (G-F) 細粒分砂まじり礫 (G-FS)
		砂礫 { GS }	砂質礫 (GS) 細粒分まじり砂質礫 (GS-F)
		細粒分まじり礫 { GF }	細粒分質礫 (GF) 砂まじり細粒分質礫 (GF-S) 細粒分質砂質礫 (GFS)
		砂 { S }	砂 (S) 礫まじり砂 (S-G) 細粒分まじり砂 (S-F) 細粒分礫まじり砂 (S-FG)
	砂質土 [S]	礫質砂 { SG }	礫質砂 (SG) 細粒分まじり礫質砂 (SG-F)
		細粒分まじり砂 { SF }	細粒分質砂 (SF) 礫まじり細粒分質砂 (SF-G) 細粒分質礫質砂 (SFG)

現場土質名		
大区分	小区分	
礫 (粗礫・中礫・細礫)		
砂まじり礫		
腐植物(貝殻・火山灰) まじり礫		
砂礫		
粘土まじり砂礫		
粘土質礫 (砂礫)		
有機質礫 (砂礫)		
火山灰質礫 (砂礫)		
凝灰質礫 (砂礫)		
砂 (粗砂・中砂・細砂)		
礫まじり砂		
粘土 (シルト) まじり砂		
腐植物(貝殻・火山灰) まじり砂		
砂礫		
粘土まじり砂礫		
粘土 (シルト) 質砂		
有機質 (火山灰質・凝灰質) 砂		

地盤材料の工学的分類方法における細粒分は、粘性土・有機質土・火山灰質土に細区分できる。

(b) 細粒土等		
地盤材料の分類名		
大分類	中分類	小分類
細粒土 Fm	粘性土 { C }	シルト (M) シルト (低液性限界) (ML) シルト (高液性限界) (MH)
		粘土 (CL) 粘土 (低液性限界) 粘土 (CH) 粘土 (高液性限界)
	有機質土 { O }	有機質粘土 (OL) 有機質粘土 (低液性限界) 有機質粘土 (OH) 有機質粘土 (高液性限界) 有機質火山灰土 (OV) 有機質火山灰土
		火山灰質粘性土 (VL) 火山灰質粘性土 (VH1) 火山灰質粘性土 (VH2) 火山灰質粘性土 (VH2)
		高有機質土 (Pt) 泥炭 (Pt) 高有機質土 (Mt) 黒泥 (Mt)
	人工材料 Am	廃棄物 (Wa)
		改良土 ()

現場土質名		
大区分	小区分	
砂質シルト		
礫(砂)まじりシルト		
腐植物(貝殻)まじりシルト		
シルト		
シルト (砂)質粘土		
礫 (砂)まじり粘土		
腐植物 (貝殻) まじり粘土		
火山灰まじり粘土		
粘土		
有機質粘土		
火山灰まじり有機質土		
有機質火山灰		
ローム		
凝灰質粘土		
(火山灰質粘性土)		
泥炭		
黒泥		
廃棄物, 改良土, 瓦礫, 盛土, 埋土, 硬質粘土, 固結粘土, 岩盤 (硬岩・中硬岩・軟岩)		
その他		

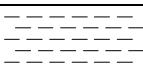
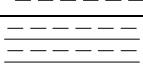
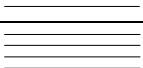
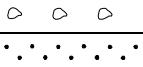
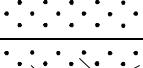
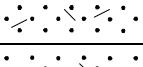
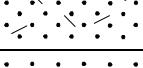
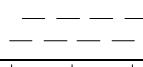
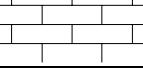
(h) 岩種区分

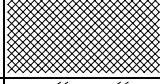
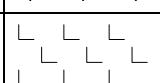
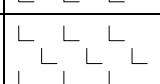
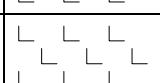
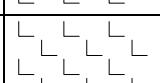
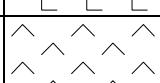
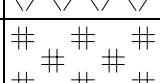
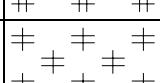
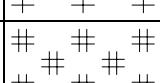
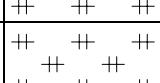
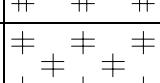
表 2-16 岩種区分コード

大分類	分類コード	日本語名称	対応英語	記号	図模様
(1)未固結堆積物					
	11010	角礫	angular gravel	Ag	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
	11020	泥	mud	Md	— — — — — — — — —
	12010	火山碎屑物	volcaniclastic material	Vc	△ <△ <△ <△ <△ <△ <△ <△ △ <△ <△ <△
	12020	火山礫	lapilli	Lp	▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲
	12030	火山岩塊	block, volcanic block	Vbl	▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲
	12040	火山弾	volcanic bomb	Vbn	▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲
	13010	崩積土	detritus	Dt	△ △ △ △ △ △ △ △ △
	13020	崖錐堆積物	talus deposit	Tl	△ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △
	13030	段丘堆積物	terrace deposit	Tr	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
	13040	河床堆積物	river bed deposit	Rd	○ ● ○ ● ○ ● ○ ● ○ ● ○ ● ○ ● ○
	13050	氾濫原堆積物	flood plain deposit	Fpd	· — · — · — · — · — · — · — ·
	13060	扇状地堆積物	alluvial fan deposit	Afd	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
	13070	湖成堆積物	lake deposit	Ld	— · — · — · — · — · — · — · —
	13080	泥流堆積物	mud flow deposit	Mf	△ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △
	13090	土石流堆積物	debris flow deposit	Df	△ △ △ △ △ △ △ △ △
	14010	火碎流堆積物	pyroclastic flow deposit	Pyf	△ <△ <△ <△ <△ <△ <△ <△ △ <△ <△ <△
	14020	火山灰流堆積物	ash flow deposit	Afl	— <— <— <— — <— <— <— — <— <— <—
	14030	軽石流堆積物	pumice flow deposit	Pfl	△ △ △ △ △ △ △ △ △
	14040	スコリア流堆積物	scoria flow deposit	Sfl	▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲

大分類	分類コード	日本語名称	対応英語	記号	図模様
	14050	火山岩塊火山灰流堆積物	block and ash flow deposit	Bfl	
	14060	火碎降下堆積物	pyroclastic fall deposit	Pyfa	
	14070	火山灰降下堆積物	ash fall deposit	Afa	
	14080	軽石降下堆積物	pumice fall deposit	Pfa	
	14090	スコリア降下堆積物	scoria fall deposit	Sfa	

(2)堆積岩

	20010	礫岩	conglomerate	Cg	
	20020	砂岩	sandstone	Ss	
	20030	シルト岩	siltstone	Slt	
	20040	泥岩	mudstone	Ms	
	20050	頁岩	shale	Sh	
	20060	粘板岩	slate	Sl	
	20070	角礫岩	breccia	Br	
	20080	砂質岩	arenaceous rock	Are	
	20090	アルコース	arkose	Ak	
	20100	ワッケ	wacke	Wk	
	20110	グレイワッケ	graywacke	Gwk	
	20120	泥質岩	argillaceous rock	Arg	
	20130	石灰岩	limestone	Ls	
	20140	ドロマイト	dolomite	Do	
	20150	チャート	chert	Cht	

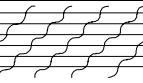
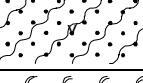
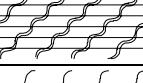
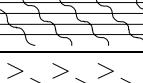
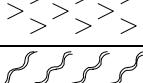
大分類	分類コード	日本語名称	対応英語	記号	図模様
	20160	石炭	coal	C	
	20170	混在岩	mixed rock	Mx	
(3)火成岩					
	31010	玄武岩	basalt	Ba	
	31020	粗面玄武岩	trachybasalt	Trb	
	31030	霞石玄武岩	nepheline basalt	Nb	
	31040	ベイサナイト	basanite	Bn	
	31050	安山岩	andesite	An	
	31060	粗面安山岩	trachyandesite	Tra	
	31070	ネフェリナイト	nephelinite	Nep	
	31080	デイサイト	dacite	Da	
	31090	粗面岩	trachyte	Trc	
	31100	フォノライト	phonolite	Pho	
	31110	流紋岩	rhyolite	Ry	
	31120	緑色岩	greenrock	Grr	
	31130	輝緑凝灰岩	schalstein	Sch	
	32010	斑れい岩	gabbro	Gb	
	32020	かんらん岩	peridotite	Pe	
	32030	輝岩	pyroxenite	Pyx	
	32040	角閃石岩	hornblendite	Hnb	
	32050	ダナイト	dunite	Du	

大分類	分類コード	日本語名称	対応英語	記号	図模様
	32060	蛇紋岩	serpentinite	Sp	#+##+# #+##+# #+##+#
	32070	閃綠岩	diorite	Di	X X X X X X X X X
	32080	石英閃綠岩	quartz diorite	Qd	X X X X X X X X X
	32090	トナル岩	tonalite	Tn	X X X X X X X X X
	32100	花崗閃綠岩	granodiorite	Gd	+ + + + +
	32110	花崗岩	granite	Gr	+ + + + +
	32120	閃長岩	syenite	Sy	+ + + + +
	33010	ドレライト	dolerite	Di	— — — — —
	33020	輝綠岩	diabase	Db	— — — — —
	33030	ひん岩	porphyrite	Po	— — — — —
	33040	石英斑岩	quartz porphyry	Qp	== == == == ==
	33050	花崗斑岩	granite porphyry	Gp	== == == == ==
	33060	文象斑岩	granophyre	Gph	== == == == ==
	33070	珪長岩	felsite	Fel	== == == == ==
	34010	アプライト	aplite	Ap	++ ++ ++ ++ ++
	34020	ペグマタイト	pegmatite	Pg	++ ++ ++ ++ ++

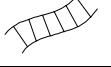
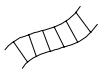
(4)溶岩類、及び火碎岩

	41010	ブロック溶岩	block lava	Blv	^ ^ ^ ^ ^
	41020	アア溶岩	aa lava	Alv	^ ^ ^ ^ ^
	41030	パホイホイ溶岩	pahoehoe lava	Plv	^ ^ ^ ^ ^
	41040	溶岩ドーム	lava dome	Lvd	^ ^ ^ ^ ^

大分類	分類コード	日本語名称	対応英語	記号	図模様
	41050	枕状溶岩	pillow lava	Plv	^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^
	41060	溶岩ローブ	lava lobe	Lvl	^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^
	41070	流動角礫岩	flow breccia	Fbr	^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^
	41080	クリンカー	clinker	Cln	^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^
	41090	溶岩餅	driblet	Drb	^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^
	41100	自破碎溶岩	autobrecciated lava	Abl	▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲
	42010	火山碎屑岩	volcaniclastic rock	Vcr	△△△△△ △△△△△ △△△△△ △△△△△
	42020	火碎岩	pyroclastic rock	Pcr	△△△△△ △△△△△ △△△△△ △△△△△
	42030	凝灰岩	tuff	Tf	^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^ ^
	42040	火山礫凝灰岩	lapilli tuff	Lt	▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲
	42050	火山礫岩	lapillistone	Lp	▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲
	42060	凝灰角礫岩	tuff breccia	Tb	▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲
	42070	火山角礫岩	volcanic breccia	Vb	▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲
	42080	アグロメレート	agglomerate	Agm	▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ^ ^ ^ ^ ^ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲
	42090	アグルチネート	agglutinate	Agt	▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲
	42100	溶結凝灰岩	welded tuff	Wtf	><><><> ><><><> ><><><>
	42110	軽石質凝灰岩	pumice tuff	Ptf	△△△△△ △△△△△ △△△△△ △△△△△
	42120	スコリア質凝灰岩	scoria-tuff	Stf	▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲
	42130	ハイアロクラサイト	hyaloclastite	Hyc	▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲
(5)变成岩					
	50010	ホルンフェルス	hornfels	Hr	[wavy line pattern]

大分類	分類コード	日本語名称	対応英語	記号	図模様
	50020	千枚岩	phyllite	Ph	
	50030	泥質片岩	pelitic schist	Psct	
	50040	黒色片岩	black schist	Bsct	
	50050	砂質片岩	psammitic schist	Ssct	
	50060	緑色片岩	green schist	Gsct	
	50070	石英片岩	quartz schist	Qsct	
	50080	石灰質片岩	calcareous schist	Csct	
	50090	角閃岩	amphibolite	Amp	
	50100	片麻岩	gneiss	Gn	
	50110	大理石	marble	Mb	

(6)鉱物脈など

	60010	石英脈	quartz vein	Qz	
	60020	方解石脈	calcite vein	Ca	
	60030	沸石脈	zeolite vein	Ze	

(9)その他

	99999	(その他、コード表に無い岩石)			
--	-------	-----------------	--	--	--

【参考】岩種名、記号、図模様の考え方

岩種名や柱状図の図模様について次のような課題がある。

1. 全ての岩種名を網羅的に定めること、すなわち、各岩種名ごとにコード体系を整備することは現実的に難しい。
2. 記号、図模様については、現場の地質状況により選定されるのが通例である。また、全ての記号、図模様を岩種名と関連付ける形で定義することも難しい。
3. 地質情報を蓄積再利用していくためには、統一的な分類基準に当てはめて、地質情報のデータベース化を推進することも必要である。

上記課題に対し次のような方法で岩種区分を実施するように定めた。

1. 岩種名については、文字データで記入し、この文字データを交換対象とする。
2. 柱状図の図模様については参考例を記載するのみとして、特にコード等によって図模様を規定することはしない。図模様の最終的な選定や修正については現場の判断にゆだねる。
プログラム的には、岩種の図模様は岩種名(文字データ)と関連付けて表示する。
3. 地質の統一的な分類を行うために、岩種の分類コードを入力する。

岩種区分、岩種記号、図模様、分類コードの関係は図 2-4に示すとおりである。

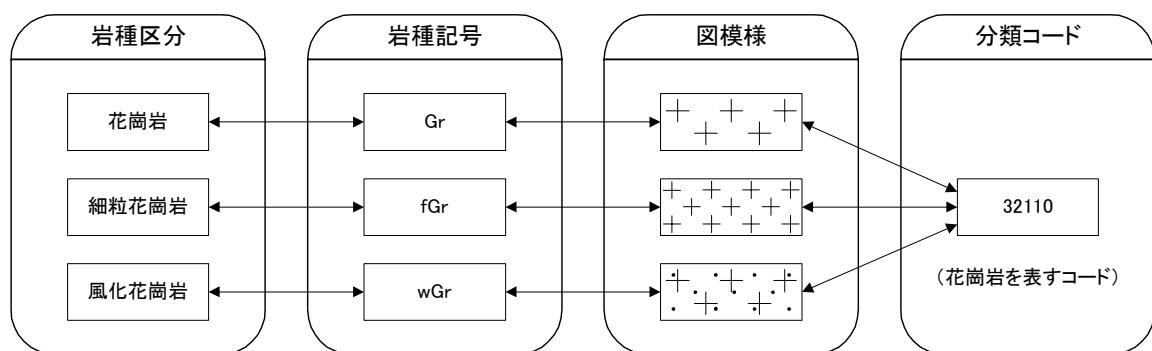


図 2-4 岩種区分と分類コードの関係

【参考】岩石の名称を修飾する形容詞句

岩石の名称を修飾する主な形容詞句を表 2-17に示す。形容詞句は岩石の名称の直前に置いて、“形容詞句+岩石の名称”の形式で記述する。

(出典：「JIS A 0204 地質図・記号、色、模様、用語及び凡例表示」)

表 2-17 岩石名を修飾する形容詞句

a)堆積岩に用いる形容詞句

形容詞句	対応英語(参考)	形容詞句	対応英語(参考)
泥質、泥混じり	muddy	ドロマイト質	dolomitic
砂質、砂混じり	sandy	腐植質、腐植混じり	humic
礫質、礫混じり、含礫	gravelly, pebbly	有機質、炭素質	carbonaceous
石灰質	calcareous	凝灰質	tuffaceous

b)火成岩に用いる形容詞句

形容詞句	対応英語(参考)	形容詞句	対応英語(参考)
超苦鉄質	ultramafic	優白質	leucocratic
苦鉄質	mafic	優黒質	melanocratic
珪長質	felsic, silicic	ガラス質	vitric, glassy
粗粒	coarse-grained	斑状	porphyritic
中粒	medium-grained	無斑晶状	aphyric
細粒	fine-grained		

c)溶岩に用いる形容詞句

形容詞句	対応英語(参考)
水底	subaqueous
海底	submarine
陸上	subaerial, terrestrial

d)火碎岩に用いる形容詞句

形容詞句	対応英語(参考)
軽石質	pumiceous
スコリア質	scoriaceous
溶結	welded

e)火碎流堆積物、火碎降下堆積物及びそれから派生した堆積物に用いる形容詞句

形容詞句	対応英語(参考)	形容詞句	対応英語(参考)
水底	subaqueous	火碎	pyroclastic
海底	submarine	火山碎屑	volcaniclastic
陸上	subaerial, terrestrial	再堆積	reworked

また、岩石の名称は、含有する鉱物を表現する形容詞句及び／又はそのほかの形容詞句によって修飾することができる。形容詞句は岩石の名称の直前に置く。

例 海緑石砂岩、海綿含有砂岩、紅れん石片岩、董青石ホルンフェルス、点紋片岩

火成岩及び火碎岩の場合、鉱物の斑晶を表現する形容詞句は、岩石を形容する形容詞句と岩石の名称との間に置き、“岩石を形容する形容詞句 + 岩石に産出する鉱物の斑晶を表現する形容詞

句 + 岩石の名称 ” の形式で表示しなければならない。岩石に産出する鉱物の斑晶を表現する形容詞句に関する一般的事項は、次による。

- 珪長質斑晶を示す場合は、珪長質鉱物名の後に “ 斑状(phyric) ” を-(ハイフン)で継いで修飾語として岩石の名称の直前に置く。
- 苦鉄質斑晶がまれにしか含まれない場合は、斑晶鉱物名の後に “ 含有(bearing) ” を-(ハイフン)で継いで修飾語として岩石の名称の直前に置く。
- 一種類の苦鉄質斑晶が存在する場合は、それを岩石の名称の直前に置く。
- 複数の苦鉄質斑晶が存在する場合は、苦鉄質鉱物名を斑晶の少ないものから順に並べ、それらの名称を-(ハイフン)で継いで修飾語として岩石の名称の直前に置く。

例	石英斑状	quartz-phyric
	角閃石含有	hornblende-bearing
	普通輝石安山岩	augite andesite
	普通輝石紫蘇輝石安山岩	augite-hypersthene andesite
	かんらん石含有普通輝石安山岩	olivine-bearing augite andesite

以下に、土木地質図で用いられる形容詞句の例を示す。「JIS A 0204 地質図-記号,色,模様,用語及び凡例表示」にある形容詞句以外に、以下に示す形容詞句を必要に応じて用いても良い。

1. 粒度:粗粒、中粒、細粒など

【例】粗粒砂岩、細粒砂岩

2. 色調:灰色、赤色、黄色など

【例】灰白色砂岩、黒色泥岩

3. 時期:古期、新期、現、旧など

【例】古期崖錐堆積物、現河床堆積物

4. 性質等:混じり、質、含

【例】凝灰質砂岩、安山岩質凝灰角礫岩、含礫砂岩、ガラス質凝灰岩、硬質泥岩

5. 化学組成:酸性、塩基性など

【例】酸性凝灰岩、塩基性凝灰岩

6. 産状、状態:縞状、層状、塊状、自破碎状など

【例】層状チャート、自破碎状安山岩

7. 物理的・化学的变化:風化、変質、再固結など

【例】風化花崗岩

8. 円磨度:円、亜円、角など

【例】円礫、角礫

9. その他:強、中、弱、非など

【例】強風化花崗岩、非溶結凝灰岩

2-3 C 樣式: 色調区分

ボーリング柱状図に含まれる色調情報は、C 様式に定める項目を入力する。

【解説】

(1) 下端深度(実数)

色調で区分される地層の下端深度を入力する。単位は m とし、小数点以下 2 桁(cm)まで入力する。最終深度で標準貫入試験を行った場合は、貫入量を含んだ深度とする。

例:30.15m

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) 色調名(文字)

ボーリング試料の色調名を記入する。表現に用いる色は「黒、褐、赤、橙、黄、緑、青、紫、灰、白」を基本色とし、基本色以外は基本色の組合せ(原則として 2 色)とする。基本色の組合せは主色の前に従色を冠する(例:青緑色…青 - 従色、緑 - 主色)。また、必要に応じて「濃」と「淡」の形容詞をつけるとともに、黒みを帯びる時は「暗」の形容詞を付ける。従色が特に微弱な時は「帶」の形容詞を付ける。礫岩など雑多な色を呈する時は、何色と何色の「雜色」、色が入り混じっている時は何色と何色の「斑色」とする。

このほか、赤白色は桃色、褐色は茶色等慣用的な表現を用いたほうが適切なときには、それらを用いてもよいこととする。

例：黃褐

黃褐

2-4 D1 樣式：觀察記事

ボーリング柱状図に含まれる観察記事情報は、D1 様式に定める項目を入力する。

【解説】

(1) 上端深度・下端深度(実数)

観察記事を記入する範囲の上端深度・下端深度を記入する。柱状図の観察記事欄に記入する枠線の位置情報は、D2 様式の「観察記事 枠線下端深度」で記入する。

単位は m とし、小数点以下 2 衔(cm)まで入力する。最終深度で標準貫入試験を行った場合は、貫入量を含んだ深度とする。

例:30.15m

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) 觀察記事(文字)

ボーリング試料の観察結果を入力する。

改行を必要とする場合は、“ `\n` ”(半角、n は小文字)を入力する。

例:含水量少ない。

木片混入。

含水量少ない。専用木片混入。

2-5 D2 様式:観察記事枠線

ボーリング柱状図に含まれる観察記事枠線は、D2 様式に定める項目を入力する。

D2様式:観察記事枠線				
枠線下端深度 (m)				
	1	.	8	0
	3	.	0	0
	7	.	4	0
1	0	.	6	0
2	2	.	4	5
2	3	.	7	0
2	4	.	5	5
2	7	.	9	5
3	0	.	1	5

【解説】

(1) 観察記事枠線下端深度(実数)

ボーリング柱状図において、観察記事欄を区分する枠線位置を下端深度で入力する。

単位は m とし、小数点以下 2 衔(cm)まで入力する。

例:10.60m

	1	0	.	6	0
--	---	---	---	---	---

2-6 E1 樣式：標準貫入試驗

ボーリング柱状図に含まれる標準貫入試験結果情報は、E1 様式に定める項目を入力する。

【解説】

(1) 測定開始深度(実数)

標準貫入試験の測定開始深度を孔口からの深度で記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁(cm)まで入力する。

例:1.15m

		1	.	1	5
--	--	---	---	---	---

(2) 10cm 每の打撃数・貫入量(整数)

10cm 每の打撃回数・貫入量(cm)について入力する。打撃回数・貫入量は、完全に埋めるようにする。ロッド自沈あるいはハンマー自沈の場合は、打撃回数欄に“00”を入力し、貫入量欄に貫入量を入力する。

10cm 每の打撃回数・貫入量を記録していない場合は、空白とし、合計欄にのみ、結果を入力する。

例:1回・10cm

<input type="text"/>	1	<input type="text"/>	1	0
----------------------	---	----------------------	---	---

(3) 合計打撃回数・貫入量(整数)

合計打撃回数・貫入量(cm)を入力する。省略せずに必ず入力すること。

例:合計欄(N 値 20 の場合)

<input type="text"/>	2	0	<input type="text"/>	3	0
----------------------	---	---	----------------------	---	---

(4) 備考(文字)

自沈、貫入不能などの場合は、備考欄に内容を入力する。自沈の場合は、ロッド自沈、ハンマー自沈の区別を入力する。

例:ハンマー自沈

ハンマー自沈

2-7 E2 様式:標準貫入試験詳細データ

自動記録装置を用いて標準貫入試験の詳細データを取得した場合は、E2 様式に定める項目を入力する。

E2 様式:標準貫入試験詳細データ						打撃1回毎の貫入量(mm)				累積貫入量(mm)			備考	
測定開始深度(m)					打撃回数	打撃1回毎の貫入量(mm)				累積貫入量(mm)				
		1	.	1	5		1	1	5	0	1	5	0	
		2	.	1	5		2	1	6	0	3	1	0	
		3	.	1	5		1	1	2	0	1	2	0	
		4	.	1	5		2	1	2	0	2	4	0	
		5	.	1	5		3	5	0	2	9	0		
		6	.	1	5		4	1	1	0	4	0	0	
		7	.	1	5		1	1	8		1	8		
		8	.	1	5		2	1	6		3	4		
		9	.	1	5		3	2	3		5	7		
		10	.	1	5		4	3	1		8	8		
		11	.	1	5		5	1	8	1	0	6		
		12	.	1	5		6	1	3	1	1	9		
		13	.	1	5		7	2	2	1	4	1		
		14	.	1	5		8	1	6	1	5	7		
		15	.	1	5		9	1	9	1	7	6		
		16	.	1	5		10	1	5	1	9	1		
		17	.	1	5		11	1	2	2	0	3		
		18	.	1	5		12	1	1	2	1	4		
		19	.	1	5		13	1	3	2	2	7		
		20	.	1	5		14	1	6	2	4	3		
		21	.	1	5		15	2	0	2	6	3		
		22	.	1	5		16	1	9	2	8	2		
		23	.	1	5		17	1	8	3	0	0		
		24	.	1	5		18	1	7					
		25	.	1	5		19	1	6					
		26	.	1	5		20	1	5					
		27	.	1	5		21	1	4					
		28	.	1	5		22	1	3					
		29	.	1	5		23	1	2					
		30	.	1	5		24	1	1					
		31	.	1	5		25	1	0					
		32	.	1	5		26	1	9					
		33	.	1	5		27	1	8					
		34	.	1	5		28	1	7					
		35	.	1	5		29	1	6					
		36	.	1	5		30	1	5					
		37	.	1	5		31	1	4					
		38	.	1	5		32	1	3					
		39	.	1	5		33	1	2					
		40	.	1	5		34	1	1					
		41	.	1	5		35	1	0					
		42	.	1	5		36	1	9					
		43	.	1	5		37	1	8					
		44	.	1	5		38	1	7					
		45	.	1	5		39	1	6					
		46	.	1	5		40	1	5					
		47	.	1	5		41	1	4					
		48	.	1	5		42	1	3					
		49	.	1	5		43	1	2					
		50	.	1	5		44	1	1					
		51	.	1	5		45	1	0					
		52	.	1	5		46	1	9					
		53	.	1	5		47	1	8					
		54	.	1	5		48	1	7					
		55	.	1	5		49	1	6					
		56	.	1	5		50	1	5					
		57	.	1	5		51	1	4					
		58	.	1	5		52	1	3					
		59	.	1	5		53	1	2					
		60	.	1	5		54	1	1					
		61	.	1	5		55	1	0					
		62	.	1	5		56	1	9					
		63	.	1	5		57	1	8					
		64	.	1	5		58	1	7					
		65	.	1	5		59	1	6					
		66	.	1	5		60	1	5					
		67	.	1	5		61	1	4					
		68	.	1	5		62	1	3					
		69	.	1	5		63	1	2					
		70	.	1	5		64	1	1					
		71	.	1	5		65	1	0					
		72	.	1	5		66	1	9					
		73	.	1	5		67	1	8					
		74	.	1	5		68	1	7					
		75	.	1	5		69	1	6					
		76	.	1	5		70	1	5					
		77	.	1	5		71	1	4					
		78	.	1	5		72	1	3					
		79	.	1	5		73	1	2					
		80	.	1	5		74	1	1					
		81	.	1	5		75	1	0					
		82	.	1	5		76	1	9					
		83	.	1	5		77	1	8					
		84	.	1	5		78	1	7					
		85	.	1	5		79	1	6					
		86	.	1	5		80	1	5					
		87	.	1	5		81	1	4					
		88	.	1	5		82	1	3					
		89	.	1	5		83	1	2					
		90	.	1	5		84	1	1					
		91	.	1	5		85	1	0					
		92	.	1	5		86	1	9					
		93	.	1	5		87	1	8					
		94	.	1	5		88	1	7					
		95	.	1	5		89	1	6					
		96	.	1	5		90	1	5					
		97	.	1	5		91	1	4					
		98	.	1	5		92	1	3					
		99	.	1	5		93	1	2					
		100	.	1	5		94	1	1					
		101	.	1	5		95	1	0					
		102	.	1	5		96	1	9					
		103	.	1	5		97	1	8					
		104	.	1	5		98	1	7					
		105	.	1	5		99	1	6					
		106	.	1	5		100	1	5					
		107	.	1	5		108	1	4					
		109	.	1	5		110	1	3					
		111	.	1	5		112	1	2					
		113	.	1	5		114	1	1					
		115	.	1	5		116	1	0					
		117	.	1	5		118	1	9					
		119	.	1	5		120	1	8					
		121	.	1	5		122	1	7					
		123	.	1	5		124	1	6					
		125	.	1	5		126	1	5					
		127	.	1	5		128	1	4					
		129	.	1	5		130	1	3					
		131	.	1	5		132	1	2					
		133	.	1	5		134	1	1					
		135	.	1	5		136	1	0					
		137	.	1	5		138	1	9					
		139	.	1	5		140	1	8					
		141	.	1	5		142	1	7					
		143	.	1	5		144	1	6					
		145	.	1	5		146	1	5					
		147	.	1	5		148	1	4					
		149	.	1	5		150	1	3					
		151	.	1	5		152	1	2					
		153	.	1	5									

例:1回目・貫入量 150mm・累積貫入量 150mm

2回目・貫入量 160mm・累積貫入量 310mm

	1	1	5	0
	2	1	6	0
		3	1	0

(3) 備考(文字)

自沈、貫入不能、反発などの場合は、備考欄に内容を入力する。自沈の場合は、ロッド自沈、ハンマー自沈の区別を入力する。

例:ハンマー自沈

ハンマー自沈

2-8 E3 様式: ルジオン試験

ボーリング柱状図に含まれるルジオン試験結果情報は、E3 様式に定める項目を記入する。

【解説】

(1) ルジオン試験番号(整数)

ルジオン試験番号を 0001 から連番で付ける。番号は E3 様式及び E4 様式で合わせることとする。

(2) 上端深度・下端深度(実数)

ルジオン試験の試験区間の上端深度と下端深度を記入する。単位はmとし、小数点以下2桁(cm)まで記入する。

例:30.15m

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(3) 壓力管理方法(コード・文字)

圧力管理方法を表 2-18より選択し、コード入力を行う。「9 その他」を選択した場合には文字入力を行う。

例:圧力センサー管理

2

表 2-18 圧力管理方法コード

コード	圧力管理方法
1	口元圧力管理
2	圧力センサー管理
9	その他(不明含む)

(4) Pmax:圧力最大スケール(整数)

圧力最大スケールは MPa 単位で記入する。

例:1(MPa)

1

(5) Qmax:注入量最大スケール(整数)

注入量最大スケールは $l/min/m$ (単位長さ当たりの注水量)単位で記入する。

例:20($l/min/m$)

	2	0
--	---	---

(6) Psta:圧力開始点(実数)

圧力開始点は MPa 単位で小数点以下 3 衔まで記入する。

例:0.200(MPa)

	0	.	2	0	0
--	---	---	---	---	---

(7) Qsta:注入量開始点(実数)

注入開始点は $l/min/m$ 単位で小数点以下 2 衔まで記入する。

例:11.20($l/min/m$)

	1	1	.	2	0
--	---	---	---	---	---

(8) ルジョン値区分(コード)

ルジョン値、換算ルジョン値の区分について、コード入力を行う。

例:換算ルジョン値

2

表 2-19 ルジョン値区分コード

コード	ルジョン値区分
1	ルジョン値
2	換算ルジョン値

(9) ルジョン値・換算ルジョン値(実数)

ルジョン値・換算ルジョン値は $l/min/m$ (単位長さ当たりの注水量)の単位で小数点以下 2 衔まで記入する。

例:15.00($l/min/m$)

	1	5	.	0	0
--	---	---	---	---	---

(10) 限界圧力(実数)

限界圧力は MPa 単位で小数点以下 3 衔まで記入する。測定不能の場合は「-1」を記入すること。

例:0.700(MPa)

	0	.	7	0	0
--	---	---	---	---	---

2-9 E4 様式: ルジオン試験詳細データ

ボーリング柱状図に含まれるルジオン試験詳細データは、E4 様式に定める項目を入力する。

E4様式: ルジオン試験詳細データ								
ルジオン試験番号			有効圧力(MPa)			注入量(l/min/m)		
0	0	0	1	0	.	2	0	0
0	0	0	1	0	.	4	0	0
0	0	0	1	0	.	6	0	0
0	0	0	1	0	.	8	0	0
0	0	0	1	1	.	0	0	0
0	0	0	2	0	.	2	0	0
0	0	0	2	0	.	4	0	0
0	0	0	2	0	.	6	0	0

【解説】

(1) ルジオン試験番号(整数)

E3 様式のルジオン試験番号に対応する番号を記入する。

(2) 有効圧力(実数)

有効圧力の測定値を MPa 単位で小数点以下 3 衔まで記入する。

例:0.200(MPa)

	0	.	2	0	0
--	---	---	---	---	---

(3) 注入量(実数)

注入量の測定値を l/min/m 単位で小数点以下 2 衔まで記入する。

例:3.30(l/min/m)

		3	.	3	0
--	--	---	---	---	---

2-10 F 様式:相対密度・相対稠度

ボーリング柱状図に含まれる相対密度・相対稠度情報は、F 様式に定める項目を入力する。

F様式:相対密度・相対稠度					
下端深度(m)		相対密度		相対稠度	
		コード	状態	コード	状態
	1	. 8 0	0		0
	3	. 0 0	2		1
	7	. 4 0	2		1
1	0	. 6 0	2		1
2	2	. 4 5	2		1
2	3	. 7 0	3		2
2	4	. 5 5	4		3
2	7	. 9 5	5		4
3	0	. 1 5	9	○○○○	○○○○

【解説】

(1) 下端深度(実数)

相対密度・相対稠度を区分する下端深度を入力する。単位は m とし、小数点以下 2 衔(cm)まで入力する。

例:30.00m

	3	0	.	0	0
--	---	---	---	---	---

(2) 相対密度(コード・文字)

相対密度を表 2-20のコード表から該当コードを選んで記入する。その他(9)を選んだ場合にはその状態を記入する。

例:相対密度 「3 中ぐらい」

3	
---	--

例:相対密度 「9 その他」

9	
---	--

(3) 相対稠度(コード・文字)

相対稠度を表 2-21のコード表から該当コードを選んで記入する。その他(9)を選んだ場合にはその状態を記入する。

例:相対稠度 「4 非常に硬い」

4	
---	--

例:相対稠度 「9 その他」

9	
---	--

表 2-20 砂地盤の相対密度の表現法

コード	相対密度	N 値
0	(空白)	-
1	非常に緩い	0 ~ 4
2	緩い	4 ~ 10
3	中ぐらい	10 ~ 30
4	密な	30 ~ 50
5	非常に密な	50 以上
9	その他	-

表 2-21 細粒土の相対稠度区分と状態表現 (ASTM D 2488 参考)

コード	相対稠度 (状態表現)	現場における判別方法 (原位置土に対する親指試験)
0	(空白)	-
1	軟らかい	親指をたやすく押し込める。
2	中位	かなり力を入れないと親指は押し込めない。
3	硬い	親指でへこませることはできるが、親指を貫入させるには大きな力を要する。
4	非常に硬い	親指の爪はたやすく入る。
5	固結した	親指の爪も入らない。
9	その他	-

2-11 G1 様式:硬軟区分

ボーリング柱状図に含まれる硬軟区分情報は、G1 様式に定める項目を記入する。

G1 様式:硬軟区分						
下端深度(m)				硬軟区分 (コード)		
	1	.	6	0	0	1
	2	.	0	0	0	1
	2	.	2	0	0	1
	3	.	9	0	0	1
	4	.	1	6	0	1
	5	.	5	0	0	1
	5	.	8	0	0	1
		.				

【解説】

(1) 下端深度(実数)

硬軟区分を記入する地層の下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 衔(cm)まで記入する。

例:30.15m

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) 硬軟区分(コード)

硬軟区分については、「ボーリング柱状図作成要領(案)解説書 JACIC 平成 11 年 5 月」に従い判定結果を記入する場合、表 2-22～表 2-25 のコード表に従い、コード入力を行うこと。

例:表 2-22 に従って「中硬」と判定した場合

0	1	3
---	---	---

表 2-22 コア硬軟区分判定表

コード	記号	区分	説明
011	A	極硬	ハンマーで容易に割れない。
012	B	硬	ハンマーで金属音。
013	C	中硬	ハンマーで容易に割れる。
014	D	軟	ハンマーでボロボロに砕ける。
015	E	極軟	マサ状、粘土状。

表 2-23 コア硬軟区分例(花崗岩)

コード	記号	区分	説明
021	A	極硬	ハンマーで叩くと金属音、DB で 2 cm/min 以下。
022	B	硬	ハンマーで軽い金属音、DB で 2 ~ 4cm/min 以下。
023	C	中硬	ハンマーで叩くと濁音、容易に割れる。DB で 3cm/min 以上。
024	D	軟	脆弱で指で割れ潰れる。MC で掘進可。
025	E	極軟	粉体になりやすい。MC で無水掘可。

DB:ダイヤモンドビット、MC:メタルクラウン

表 2-24 一軸圧縮強度による区分例((a) Bieniawshki (1974) による区分)

コード	表現	一軸圧縮強度(MPa)	点載荷強度(MPa)
031	非常に強い(very high)	>200	>8
032	強い(high)	100 ~ 200	4 ~ 8
033	普通(medium)	50 ~ 100	2 ~ 4
034	弱い(low)	25 ~ 50	1 ~ 2
035	非常に弱い(very low)	1 ~ 25	<1

表 2-25 一軸圧縮強度による区分例((b) I. A. E. G. による区分)

コード	表現	一軸圧縮強度(MPa)
041	特に強い(extremely strong)	230 以上 MPa
042	非常に強い(very strong)	120 ~ 230 MPa
043	強い(strong)	50 ~ 120 MPa
044	中程度(moderately strong)	15 ~ 50 MPa *2
045	弱い(weak)	1.5 ~ 15 MPa *1

*1:1.5MPa 以下のものは硬質土として扱う。

*2:50MPa 以下を軟岩、以上を硬岩とする。

1MPa 10kgf/cm²

表 2-22～表 2-25以外の区分を新たに作成する場合には、G1S 様式に作成した区分情報を記入して、そこに示した区分コードを G1 様式に記入する。

表 2-26 硬軟区分判定表(G1S 様式)

コード	記号	区分	説明
9xx			

- 1) コードは整数 3 衔とする。他のコードと区分するために、901～999 を使用すること。調査において将来的に区分が変更されたり細区分が追加されることを想定して、10 毎(910、920 ...)にコードを使用することが望ましい。
- 2) 記号は柱状図に示す硬軟区分の記号を記入する。
- 3) 区分欄には硬軟区分を記入する。
- 4) 説明欄には記号または区分の説明を記入する。

以下に G1S 様式の記入例を示す。

表 2-27 硬軟区分判定表(G1S 様式)記入例

コード	記号	区分	説明
910	A	中硬	ハンマーで容易に碎ける。
920	B	軟 1	ピックでキズがつく。
930	C	軟 2	カッターで削れる。
940	D	極軟	指先でへこむ。

以下に G1 様式の「硬軟区分」記入例を示す。

例:表 2-27に従って「中硬」と判定した場合

9	1	0
---	---	---

2-12 G2 様式:コア形状区分

ボーリング柱状図に含まれるコア形状区分は、G2 様式に定める項目を記入する。

G2様式:コア形状区分							
下端深度(m)				コア形状区分 (コード)			
	1	.	6	0	0	1	7
	2	.	0	0	0	1	5
	2	.	2	0	0	1	4
	3	.	9	0	0	1	5
	4	.	1	6	0	1	4
	5	.	5	0	0	1	3
	5	.	8	0	0	1	4
		.					

【解説】

(1) 下端深度(実数)

コア形状区分を記入する地層の下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁(cm)まで記入する。

例:30.15m

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) コア形状区分(コード)

コア形状区分については、「ボーリング柱状図作成要領(案)解説書 JACIC 平成 11 年 5 月」に従い判定結果を記入する場合、表 2-28、表 2-29 のコード表に従い、コード入力を行うこと。

例:表 2-28 に従って「III」と判定した場合

0	1	3
---	---	---

表 2-28 コア形状区分判定表

コード	記号	コア形状
011	I	長さ 50 cm 以上の棒状コア。
012	II	長さが 50 ~ 15cm の棒状コア。
013	III	長さが 15 ~ 5 cm の棒状 ~ 片状コア。
014	IV	長さが 5 cm 以下の棒状 ~ 片状コアでかつコアの外周の一部が認められるもの。
015	V	主として角礫状のもの。
016	VI	主として砂状のもの。
017	VII	主として粘土状のもの。
018	VIII	コアの採取ができないもの。スライムも含む。(記事欄に理由を書く)

表 2-29 コア形状区分の例(花崗岩)

コード	記号	区分	コア長	摘要
021	I	棒状	50cm 以上	
022	II	長柱状	15 ~ 50cm	
023	III	短柱状	5 ~ 15cm	ほとんどが円形のコア
024	IV	岩片状	5cm 以下	不円形コアが多い
025	V	れき状		コア形を残す
026	VI	砂状		岩形、コア形なし

表 2-28、表 2-29以外の区分を新たに作成する場合には、G2S 様式に作成した区分情報を記入して、そこに示した区分コードを G2 様式に記入する。

表 2-30 コア形状区分判定表(G2S 様式)

コード	記号	区分	説明
9xx			

- 1) コードは整数 3 衔とする。他のコードと区分するために、901 ~ 999 を使用すること。調査において将来的に区分が変更されたり細区分が追加されることを想定して、10 毎(910、920...)にコードを使用することが望ましい。
- 2) 記号は柱状図に示すコア形状区分の記号を記入する。
- 3) 区分欄にはコア形状区分を記入する。
- 4) 説明欄には記号または区分の説明を記入する。

以下に G2S 様式の記入例を示す。

表 2-31 コア形状区分判定表(G2S 様式)記入例

コード	記号	区分	説明
910	I	棒状	長さ 50 cm以上の棒状コア。
920	II	長柱状	長さが 50 ~ 20 cmの棒状コア。
930	III	短柱状	長さが 20 ~ 10 cmの棒状～短柱状コア。
940	IV	岩片状	長さが 10 cm以下の短柱状～片状コアでかつコアの外周の一部が認められるもの。
950	V	れき状	主として角礫状のもの。
960	VI	砂状	主として砂状のもの。
970	VII	粘土状	主として粘土状のもの。
980	VIII	採取不可	コアの採取ができないもの。スライムも含む。

注) ローマ数字の記載に当たっては、アルファベット大文字「I」、「V」、「X」の組み合わせにより表現すること。

以下に G2 様式の「コア形状区分」の記入例を示す。

例:表 2-31に従って「れき状」と判定した場合

9	5	0
---	---	---

2-13 G3 様式:割れ目区分

ボーリング柱状図に含まれる割れ目区分は、G3 様式に定める項目を記入する。

G3様式:割れ目区分							
下端深度(m)				割れ目区分 (コード)			
	3	.	9	0	0	1	4
	4	.	1	6	0	1	3
	7	.	0	0	0	1	2
	8	.	9	0	0	1	4
	.						
	.						
	.						
	.						

【解説】

(1) 下端深度(実数)

割れ目区分を記入する地層の下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 術(cm)まで記入する。

例:30.15m

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) 割れ目区分(コード)

割れ目の状態については、「ボーリング柱状図作成要領(案)解説書 JACIC 平成 11 年 5 月」に従い判定結果を記入する場合、表 2-32 のコード表に従い、コード入力を行うこと。

例:表 2-32 に従って「d」と判定した場合

0	1	4
---	---	---

表 2-32 コア割れ目状態判定表

コード	記号	説明
011	a	密着している、あるいは分離しているが割れ目沿いの風化・変質は認められない。
012	b	割れ目沿いの風化・変質は認められるが、岩片はほとんど風化・変質していない。
013	c	割れ目沿いの岩片に風化・変質が認められ軟質となっている。
014	d	割れ目として認識できない角礫状、砂状、粘土状コア。

表 2-32以外の区分を新たに作成する場合には、G3S 様式に作成した区分情報を記入して、そこに示した区分コードを G3 様式に記入する。

表 2-33 割れ目区分判定表(G3S 様式)

コード	記号	区分	説明
9xx			

- 1) コードは整数 3 衔とする。他のコードと区分するために、901～999 を使用すること。調査において将来的に区分が変更されたり細区分が追加されることを想定して、10 毎(910、920...)にコードを使用することが望ましい。
- 2) 記号は柱状図に示す割れ目区分の記号を記入する。
- 3) 区分欄には割れ目区分を記入する。
- 4) 説明欄には記号または区分の説明を記入する。

以下に G3S 様式の記入例を示す。

表 2-34 割れ目区分判定表(G3S 様式)記入例

コード	記号	区分	説明
910	a		密着している、割れ目は新鮮。
920	b		割れ目沿いの酸化・変質は認められるが、岩芯はほとんど風化・変質していない。
930	c		割れ目沿いの岩芯まで風化・変質が認められ軟質となっている。
940	d		角礫状、砂状、粘土状コア。

以下に G3 様式の「割れ目区分」の記入例を示す。

例:表 2-34に従って「c」と判定した場合

9	3	0
---	---	---

2-14 G4 様式:風化区分

ボーリング柱状図に含まれる風化区分は、G4 様式に定める項目を記入する。

G4様式:風化区分							
下端深度(m)				風化区分 (コード)			
	1	.	0	5	0	1	5
	4	.	0	4	0	1	4
	8	.	0	3	0	1	3
	.						
	.						
	.						
	.						
	.						
	.						

【解説】

(1) 下端深度(実数)

風化区分を記入する地層の下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁(cm)まで記入する。

例:30.15m

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) 風化区分(コード)

風化の状態については、「ボーリング柱状図作成要領(案)解説書 JACIC 平成 11 年 5 月」に従い判定結果を記入する場合、表 2-35～表 2-38 のコード表に従い、コード入力を行うこと。

例:表 2-35 に従って「 」と判定した場合

0	1	2
---	---	---

表 2-35 コア風化区分表(花崗岩の例)

コード	記号	説明
011		非常に新鮮である。造岩鉱物の変質はまったくない。
012		新鮮である。有色鉱物の周辺に赤褐色化がある。長石の変質はない。
013		弱風化している。有色鉱物の酸化汚染がある。長石の部分的な変質(白色化)がある。
014		風化している。有色鉱物が黃金色あるいは周辺が褐色粘土化している。長石の大部が変質している。
015		強風化している。石英及び一部の長石を除きほとんど変質し原岩組織は失われている。

表 2-36 風化区分(火山岩の例)

コード	記号	説明
021		非常に新鮮である。造岩鉱物の変質は全くない。
022		新鮮である。長石の変質はないが、有色鉱物の周辺に赤褐色化がある。
023		弱風化している。有色鉱物の周辺が濁っており、やや黄色を帯びている。長石は一部白濁している。鉱物の一部が溶脱している。
024		風化している。長石は変質し白色となっている。有色鉱物が褐色粘土化している。黄褐色化が著しい。
025		強風化している。原岩組織が失われている。

表 2-37 風化区分(泥質岩の例)

コード	記号	説明
031		非常に新鮮である。
032		新鮮である。層理面、片理面にそって僅かに変色があり割れやすい。
033		弱風化している。層理面、片理面にそって風化している。
034		風化している。岩芯まで風化している。ハンマーで簡単に崩せる。
035		強風化している。黄褐色化し、指先で簡単に壊すことができる。

表 2-38 I.A.E.G. (国際地質工学会)における風化区分基準

コード	区分	内容	程度	参考*
051	新鮮な	岩石の風化は見られない。主な不連続面が僅かに変色していることがある。	1	
052	やや風化した	岩石と不連続面に風化を示す変色がある。	2	
053	中程度に風化した	岩石の35%以下が分解し、及び(あるいは)土になっている。新鮮あるいは変色した岩石は連続した骨格あるいは芯として存在する。	3	
054	非常に風化した	岩石の35%以上が分解し、及び(あるいは)土になっている。新鮮あるいは変色した岩石は連続した骨格あるいは芯として存在する。	4	
055	極めて風化した	すべての岩石が分解し、及び(あるいは)土になっている。もともとの岩盤の構造はほとんど損なわれている。	5	
056	残留土	すべての岩石は土に変化している。岩盤の構造と岩石の組織は破壊されている。大きな体積変化が起きているが、土ははっきりと移動しているわけではない。	6	-

*表 2-35～表 2-37とのおおよその対応を示す。

表 2-35～表 2-38以外の区分を新たに作成する場合には、G4S 様式に作成した区分情報を記入して、そこに示した区分コードを G4 様式に記入する。

表 2-39 風化区分判定表 (G4S 様式)

コード	記号	区分	説明
9xx			

- 1) コードは整数 3 衔とする。他のコードと区分するために、901～999 を使用すること。調査において将来的に区分が変更されたり細区分が追加されることを想定して、10 毎(910、920 ...)にコードを使用することが望ましい。
- 2) 記号は柱状図に示す風化区分の記号を記入する。
- 3) 区分欄には風化区分を記入する。
- 4) 説明欄には記号または区分の説明を記入する。

以下に G4S 様式の記入例を示す。

表 2-40 風化区分判定表 (G4S 様式) 記入例

コード	記号	区分	説明
910			極めて新鮮である。
920			新鮮である。層理面、片理面にそって部分的に酸化している。
930			ほとんどの割れ目が酸化しており、岩芯まで一部弱風化している。
940			岩芯まで風化している。ハンマーで簡単に割れ易い。
950			岩芯まで強風化し、角礫、砂状または粘土状コア、軟質で、簡単に壊すことができる。

以下に G4 様式の「風化区分」の記入例を示す。

例:表 2-40に従って「 」と判定した場合

9	1	0
---	---	---

2-15 G5 樣式: 変質区分

ボーリング柱状図に含まれる変質区分は、G5 様式に定める項目を記入する。

【解説】

(1) 下端深度(実数)

変質区分を記入する地層の下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 術(cm)まで記入する。

例:30.15m

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) 変質区分(コード)

変質の状態については、「ボーリング柱状図作成要領(案)解説書 JACIC 平成 11 年 5 月」に従い判定結果を記入する場合、表 2-41、表 2-42 のコード表に従い、コード入力を行うこと。

例:表 2-41に従って「弱変質」と判定した場合

0	1	2
---	---	---

表 2-41 変質区分表の例

コード	記号	区分	説明
011	1	非変質	肉眼的に変質鉱物の存在が認められないもの。
012	2	弱変質	原岩組織を完全に残し、変質程度(脱色)が低いもの。あるいは非変質部の割合が高いもの(肉眼で 50%以上)。
013	3	中変質	肉眼で変質が進んでいると判定できるが、原岩組織を明らかに残し、原岩判定が容易なもの。または非変質部を残すもの及び網状変質部。
014	4	強変質	構成鉱物、岩片等が変質鉱物で完全置換され、原岩組織を全く~殆ど残さないもの。

表 2-42 モンモリロナイトを含んだ変質岩のメチレンブルーによる区分例

コード	区分	説明
021	1	全く変色しない。
022	2	斑点状に淡青色を呈する。
023	3	全体に青色を呈する。
024	4	濃青色を呈する。

表 2-41～表 2-42以外の区分を新たに作成する場合には、G5S 様式に作成した区分情報を記入して、そこに示した区分コードを G5 様式に記入する。

表 2-43 変質区分判定表(G5S 様式)

コード	記号	区分	説明
9xx			

- 1) コードは整数 3 枠とする。他のコードと区分するために、901～999 を使用すること。調査において将来的に区分が変更されたり細区分が追加されることを想定して、10 毎(910、920...)にコードを使用することが望ましい。
- 2) 記号は柱状図に示す変質区分の記号を記入する。
- 3) 区分欄には変質区分を記入する。
- 4) 説明欄には記号または区分の説明を記入する。

以下に G5S 様式の記入例を示す。

表 2-44 変質区分判定表(G5S 様式)記入例

コード	記号	区分	説明
910	1	非変質	極めて新鮮である。
920	2	弱変質	原岩組織を完全に残し、一部変質程度(脱色)が進んでいるものの、20%以上非変質部の割合が高いもの。
930	3	中変質	肉眼で変質が進んでいると判定できるが、原岩組織は残るものの、全体に(脱色)変質程度。50%以上変質部を占めるもの及び網状変質部。
940	4	強変質	構成鉱物、岩片等が変質鉱物で完全置換されほとんど変質し、30%以下非変質部を残すのみで、原岩組織を全く～殆ど残さないもの。

以下に G5 様式の「変質区分」の記入例を示す。

例:表 2-44に従って「中変質」と判定した場合

9	3	0
---	---	---

2-16 H 樣式: 孔內水平載荷試驗

ボーリング孔を利用して実施した孔内水平載荷試験結果を入力する。

【解説】

(1) 試験深度(実数)

孔内水平載荷試験を実施した位置を、孔口から試験区間の中心までの深度で記入する。

単位は m とし、小数点以下 2 術(cm)まで入力する。

例:30.00m

	3	0	.	0	0
--	---	---	---	---	---

(2) 試験方法(コード・文字)

試験方法を表 2-45より選択して入力する。「99 その他」を選択した場合には、試験方法の名称を記入する。

例:A型(等分布荷重方式...1室型)

0	1	
---	---	--

例:その他

9 9 試験法

表 2-45 孔内水平載荷試験の試験方法コード

コード	試験方法
01	A型(等分布荷重方式...1室型)
02	B型(等分布荷重方式...3室型)
03	C型(等分布変位方式)
99	その他

(3) 載荷パターン(文字)

載荷パターンについて記入する。

例:単調載荷パターン

単調載荷

(4) 初期圧力(実数)

初期圧力は kN/m² 単位で小数点以下 1 枠まで記入する。

例:310.7 kN/m²

	3	1	0	.	7
--	---	---	---	---	---

(5) 降伏圧力(実数)

降伏圧力は kN/m² 単位で小数点以下 1 枠まで記入する。なお、降伏圧力が算定不能の場合は、「-1」を記入すること。

例:1555.3 kN/m²

1	5	5	5	.	3
---	---	---	---	---	---

(6) 変形係数(実数)

変形係数は kN/m² 単位で記入する。値は有効数字 3 枠の浮動小数点で記入し、基數部は 1.00 ~ 9.99、指數部は+99 ~ -99 の範囲とする。

例:2.46 × 10⁴ kN/m²

2	.	4	6	E	+	0	4
---	---	---	---	---	---	---	---

(7) 割線弾性係数(実数)

割線弾性係数は kN/m² 単位で記入する。値は有効数字 3 枠の浮動小数点で記入し、基數部は 1.00 ~ 9.99、指數部は+99 ~ -99 の範囲とする。

例:4.20 × 10⁴ kN/m²

4	.	2	0	E	+	0	4
---	---	---	---	---	---	---	---

(8) 接線弾性係数(実数)

接線弾性係数は kN/m² 単位で記入する。値は有効数字 3 枠の浮動小数点で記入し、基數部は 1.00 ~ 9.99、指數部は+99 ~ -99 の範囲とする。

例:5.23 × 10⁴ kN/m²

5	.	2	3	E	+	0	4
---	---	---	---	---	---	---	---

2-17 | 様式: ボーリング孔を利用した透水試験

ボーリング孔を利用した透水試験結果を入力する。

【解説】

(1) 試験区間深度(実数)

孔口からの試験区間までの上端深度ならびに下端深度を入力する。単位は小数点以下 2 桁(cm)まで記入する。

例:試験区間 6.30 ~ 6.80m

		6	.	3	0
--	--	---	---	---	---

(2) 試験方法(コード・文字)

透水試験方法を表 2-46より選択して入力する。「99 その他」を選択した場合には、その試験方法の名称を記入する。

例:非定常法(回復法)

0	1

例:99 その他

9	9
---	---

表 2-46 試験方法コード

コード	試験方法	
01	単孔を利用した透水試験方法 (JGS 1314-2003)	非定常法(回復法)
02		非定常法(注水法)
03		定常法(定水位法)
10	揚水試験方法(JGS 1315-2003)	
20	孔内水位回復法による岩盤の透水試験方法(JGS 1321-2003)	
30	注水による岩盤の透水試験方法(JGS 1322-2003)	
99	その他	

(3) 透水係数(実数)

透水係数は有効数字 3 衔の浮動小数点で記入する。単位は cm/s とし、基數部は 1.00 ~ 9.99、指數部は +99 ~ -99 の範囲とする。

例: 9.30×10^{-4} cm/s の場合

9	.	3	0	E	-	0	4
---	---	---	---	---	---	---	---

2-18 J 様式:PS 検層

ボーリング孔を利用して実施した PS 検層結果を入力する。

J様式:PS検層									
P波試験						起振方式	速度 (m/s)		
試験区間			上端深度 (m)	下端深度 (m)					
0	0	0			2			0	0
2	0	0	4	0	0	ハンマーによる打撃	3	0	0
4	0	0	1	0	0	ハンマーによる打撃	5	0	0
.
.
.
.
.

S波試験									
試験区間						起振方式	速度 (m/s)		
試験区間			上端深度 (m)	下端深度 (m)					
0	0	0			2			0	0
2	0	0	4	0	0	板たたき	5	0	0
4	0	0	1	0	0	板たたき	3	0	0
.
.
.
.
.

【解説】

(1) 試験区間深度(実数)

孔口から試験区間までの上端深度、下端深度を入力する。単位は m とし、小数点以下 2 衔(cm)まで記入する。

例:試験区間 10.00 ~ 10.84m

1	0	.	0	0	1	0	.	8	4
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(2) 起振方式(文字)

起振方式について表 2-47を参考に文字入力を行う。

例:板たたき

板たたき

表 2-47 主な起振方式

呼び名 振源 の種類	ダウンホール方式	孔内起振受信方式
P 波振源	ハンマーによる打撃 重錘落下 火薬類 エアーガンなど	電磁ハンマー スパークー 圧電式など
S 波振源	板たたき 機械式など	電磁ハンマー 圧電式など

引用:地盤の弾性波速度検層方法(JGS 1122-1995)

(3) 速 度(整数)

速度は m/s 単位で入力する。

例:速度 230 m/s

	2	3	0
--	---	---	---

2-19 K 様式: その他の原位置試験

ボーリング孔を利用して実施したその他の原位置試験結果を入力する。

【解説】

(1) その他の試験名(文字)

その他の試験名を記入する。

例: 原位置ベーンせん断試験

原位置ベーンせん断試験

(2) 試験区間深度(実数)

他の試験と同様に試験区間深度を記入する。点の深度の場合は、上端深度と下端深度の入力値を一致させる。

例・試験区間 10.00 ~ 10.00m

$$\boxed{ } \quad \boxed{1} \quad \boxed{0} \quad \boxed{.} \quad \boxed{0} \quad \boxed{0}$$

(3) 試験結果等(文字)

試験結果等について、数値ならびに単位まで含めて記入する。

例:20.4(kN/m²)の場合

20.4kN/m²

2-20 L 様式: 試料採取

ボーリング孔を利用して実施した試料採取情報を入力する。

【解説】

(1) 採取区間(実数)

室内土質試験に供した試料の採取区間について入力する。

孔口から試料採取区間までの上端深度ならびに下端深度を入力する。単位は m とし、小数点以下 2 術(cm)まで記入する。

例:採取区間 10.00 ~ 10.84m

$$\begin{array}{|c|c|c|c|c|c|} \hline & 1 & 0 & . & 0 & 0 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{|c|c|c|c|c|c|} \hline & 1 & 0 & . & 8 & 4 \\ \hline \end{array}$$

(2) 試料番号(文字)

試料番号(名称)を入力する。試料番号(名称)は、「第6章 土質試験及び地盤調査結果編」で入力する試料番号と一致させること。

例:試料番号 T001

T001

(3) 試料採取方法(コード・文字)

試料採取の方法について、表 2-48よりコードを選択して入力する。「999 その他」を選択した場合には、採取方法を記入する。岩盤調査の場合には特に記入は不要である。

例: 「999 その他」を選んだ場合で、採取方法が 方式の場合

9	9	9
---	---	---

 方式

表 2-48 試料採取方法コード

コード	採取方法
100	標準貫入試験
200	固定ピストン式(水圧式)
250	固定ピストン式(エクステンションロッド式)
300	ロータリー式二重管サンプラー(デニソン)
350	ロータリー式スリーブ内蔵二重管サンプラー
400	ロータリー式三重管サンプラー
501	フリーピストン式シンウォールサンプラー
502	オープンドライブサンプラー
503	追い切りサンプラー
504	水圧式(オスター・バーグ型)サンプラー
505	コンポジットサンプラー
506	リジッドサンプラー
507	フォイルサンプラー
508	サンドサンプラー
509	コアバアレルによるサンプリング
510	オーガー
999	その他

(4) 試験名(文字)

採取した試料を用いて実施した試験の名称を記入する。複数の試験を実施した場合は、繰返し入力を行う。

例:土粒子の密度試験、土の粒度試験

土粒子の密度試験
土の粒度試験

2-21 N 様式：地盤材料の工学的分類

地盤材料の工学的分類は、N 様式に定める項目を入力する。なお、本様式は粒度試験・液性限界試験等を実施し、地盤材料の工学的分類が可能な場合にのみ記載を行う。

【解説】

(1) 下端深度(実数)

地盤材料の工学的分類の下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁(cm)まで記入する。

例:6.30m

		6	.	3	0
--	--	---	---	---	---

(2) 地盤材料の工学的分類記号(文字)

地盤材料の工学的分類記号を入力する。

例:SG-F

SG-F

2-22 01 様式:地質時代区分

地質時代区分は 01 様式に定める項目を入力する。

01様式:地質時代区分										
区間深度					地質時代区分					
上限深度(m)			下限深度(m)		コード			名 称		
0	.	0	0	2	4	.	5	5	1	1
2	4	.	5	5	3	0	.	1	5	1
3	0	.	1	5	4	3	.	2	2	1
4	3	.	2	2	6	0	.	3	8	1
6	0	.	3	8	8	6	.	3	0	2
8	6	.	3	0	9	0	.	2	5	9
									9	9
									9	9
										地質時代不明

【解説】

(1) 区間深度(実数)

地質時代区分を行うための区間の上端深度ならびに下端深度を入力する。単位は m とし、小数点以下 2 衔(cm)まで記入する。

例:区間深度:10.00 ~ 10.84m

1	0	.	0	0	1	0	.	8	4
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(2) 地質時代区分(コード・文字)

地質時代コードを以下に従い、5 衔で入力する。

- 1) 地質時代は代(Era)、紀(Period)、世(Epoch)を用いて区分を行う。表 2-49に従い、先頭 3 衔に地質時代区分コードを入力する。
- 2) 地質時代を細分又は修飾する場合は、表 2-50に従い、4 衔目に形容詞句コードを入力する。
細分又は修飾しない場合は 0 を入力する。(例:後期白亜紀(Late Cretaceous)、中期中新世(Middle Miocene)、先第三紀(Pre-Tertiary)など)
- 3) 細分された地質時代を更に細分する場合は、表 2-51に従い、5 衔目に形容詞句コードを入力する。細分しない場合は 0 を入力する。(例:中期中新世後期(late Middle Miocene)など)
- 4) 地質時代が不明な場合や曖昧な場合など、コードで表現できない場合は、コード「99999」を入力し、名称に詳細を記入する。

例:完新世(Holocene)の場合

1	1	1	0	0	
---	---	---	---	---	--

例:中期中新世(Middle Miocene)の場合

1	2	2	2	0	
---	---	---	---	---	--

例:中期中新世後期(late Middle Miocene)の場合

1	2	2	2	1	
---	---	---	---	---	--

例:先第三紀(Pre-Tertiary)の場合

1	2	0	4	0	
---	---	---	---	---	--

例:中生代(Mesozoic)の場合

2	0	0	0	0	
---	---	---	---	---	--

例:地質時代が混在する(堆積年代が異なる)の場合 中・古生代

9	9	9	9	9	中・古生代
---	---	---	---	---	-------

例:地質時代が範囲を持つ場合 更新世～鮮新世

9	9	9	9	9	更新世～鮮新世
---	---	---	---	---	---------

例:地質時代が不明の場合

9	9	9	9	9	地質時代不明
---	---	---	---	---	--------

表 2-49 地質時代区分コード表

代(Era)		紀(Period)				世(Epoch)	
名称	コード	名称	コード	名称	コード	名称	コード
新生代 (Cenozoic)	100	第四紀 (Quaternary)	110	-	-	完新世 (Holocene)	111
				-	-	更新世 (Pleistocene)	112
		第三紀 (Tertiary)	120	新第三紀 (Neogene)	130	鮮新世 (Pliocene)	121
						中新世 (Miocene)	122
				古第三紀 (Paleogene)	140	漸新世 (Oligocene)	123
						始新世 (Eocene)	124
						暁新世 (Paleocene)	125
中生代 (Mesozoic)	200	白亜紀 (Cretaceous)	210	-	-	-	-
		ジュラ紀 (Jurassic)	220	-	-	-	-
		三疊紀 (Triassic)	230	-	-	-	-

代(Era)		紀(Period)				世(Epoch)	
名称	コード	名称	コード	名称	コード	名称	コード
古生代 (Paleozoic)	300	ペルム紀 (Permian)	310	-	-	-	-
		石炭紀 (Carboniferous)	320	-	-	-	-
		デボン紀 (Devonian)	330	-	-	-	-
		シルル紀 (Silurian)	340	-	-	-	-
		オルドビス紀 (Ordovician)	350	-	-	-	-
		カンブリアン紀 (Cambrian)	360	-	-	-	-

注)地質時代の名称については「JIS A 0204 地質図-記号,色,模様,用語及び凡例表示」を参考とした。

表 2-50 地質時代を細分又は修飾する形容詞句コード表

名 称	コ ード
形容詞句無し	0
後期 (Late)	1
中期 (Middle)	2
前期 (Early)	3
先 (Pre-)	4

注)「JIS A 0204 地質図-記号,色,模様,用語及び凡例表示」を参考にコード化を行った。

表 2-51 地質時代を細分する形容詞句コード表

名 称	コ ード
形容詞句無し	0
後期 (late)	1
中期 (middle)	2
前期 (early)	3

注)「JIS A 0204 地質図-記号,色,模様,用語及び凡例表示」を参考にコード化を行った。

2-23 02 樣式:地層・岩体区分

地層・岩体区分は O2 様式に定める項目を入力する。

【解説】

(1) 区間深度(実数)

地層・岩体区分を行う区間の上端深度ならびに下端深度を入力する。単位は m とし、小数点以下 2 桁(cm)まで記入する。

例:区間深度:10.00 ~ 10.84m

$$\boxed{ } \quad \begin{array}{rrrrr} 1 & 0 & . & 0 & 0 \end{array}$$

(2) 地層・岩体名(文字)

対応する地層・岩体名を記入する。

例：層群

層群

例： 岩類

岩類

例： 火山

火山

例：× × 花崗岩

× × 花崗岩

2-24 P 樣式 : 孔内水位

ボーリング孔の孔内水位は、P 様式の定める項目を入力する。

【解説】

(1) 測定年・月・日(整数)

孔内水位の測定年・月・日を、それぞれ4桁(西暦)、2桁、2桁で入力する。

例:2001年5月1日

2	0	0	1
---	---	---	---

0	5
---	---

0	1
---	---

(2) 掘削状況(コード・文字)

孔内水位測定時の掘削状況について表 2-52に従い入力する。「9 その他」を選択した場合は、詳細について文字入力を行う。

例：作業開始時

1

表 2-52 挖削状況コード

コード	掘削状況
1	作業開始時
2	作業中
3	作業終了時
4	掘削完了後
9	その他(不明含む)

(3) 孔内水位(実数)

孔内水位について入力する。単位は GL. - m とし、小数点以下 2 桁(cm)まで記入する。水位が地表面より高い場合は、- (マイナス)表記とし、「(4) 水位種別・備考」欄に自噴、被圧を明記する。

例:GL.-6.30m

		6	.	3	0
--	--	---	---	---	---

GL.+3.00m

	-	3	.	0	0
--	---	---	---	---	---

(4) 水位種別・備考(コード・文字)

孔内水位に関する種別・備考を入力する。

- 1) 先頭 1 桁目には「清水位」、「泥水位」の区分を表 2-53に従い入力する。
- 2) 2 桁目には「不圧」、「被圧」等の区分を表 2-54に従い入力する。
- 3) その他、上記のコードで表現できない事項やコメント等について文字入力を行う。

例:清水位、被圧の場合

1	3	
---	---	--

例:水位無しの場合

9	1	
---	---	--

例:不明の場合

9	9	不明
---	---	----

表 2-53 水位種別コード 1

コード	水位種別
10	清水位
20	泥水位
90	その他(不明含む)

表 2-54 水位種別コード 2

コード	水位種別
1	水位無し
2	不圧
3	被圧
4	宙水
5	自噴
9	その他(不明含む)

2-25 Q1 様式:掘削工程

ボーリングの掘削工程は、Q1 様式に定める項目を入力する。

測定年月日			掘進深度			ケーシング下端深度		
年	月	日						
2 0 0 1	0 5 0	1		3 . 0 0		3 . 0 0		
2 0 0 1	0 5 0	8		6 . 0 0		6 . 0 0		
2 0 0 1	0 5 0	9		1 0 . 0 0		1 0 . 0 0		
2 0 0 1	0 5 1	0		1 5 . 0 0		1 5 . 0 0		
2 0 0 1	0 5 1	1		1 7 . 0 0		1 7 . 0 0		
2 0 0 1	0 5 1	5		1 8 . 0 0		1 8 . 0 0		
2 0 0 1	0 5 1	6		2 1 . 0 0		2 1 . 0 0		
2 0 0 1	0 5 1	7		2 4 . 0 0		2 4 . 0 0		
2 0 0 1	0 5 1	9		2 7 . 0 0		2 7 . 0 0		
				.		.		

【解説】

(1) 掘進年・月・日(整数)

掘進年・月・日を、それぞれ 4 枠(西暦)、2 枠、2 枠で入力する。

例:2001 年 5 月 1 日

2	0	0	1	0	5	0	1
---	---	---	---	---	---	---	---

(2) 掘進深度(実数)

掘進年月日に対応した作業終了時の掘進深度について入力する。単位は m とし、小数点以下 2 枠(cm)まで記入する。

例:6.30m

		6	.	3	0
--	--	---	---	---	---

(3) ケーシング下端深度(実数)

掘進年月日に対応した作業終了時のケーシング下端深度について入力する。単位は m とし、小数点以下 2 枠(cm)まで記入する。

例:6.30m

		6	.	3	0
--	--	---	---	---	---

2-26 Q2 様式:孔径・孔壁保護

ボーリングの孔径・孔壁保護は、Q2 様式に定める項目を入力する。

Q2様式:孔径・孔壁保護									
下端深度 (m)				孔径 (mm)			孔壁保護		
							方法		実施理由
		1	.	8	0		8	6	2
		3	.	0	0		8	6	2
		7	.	4	0		8	6	2
1	0	.	6	0		6	6	3	湧水
2	2	.	4	5		6	6		
2	3	.	7	0		6	6		
2	4	.	5	5		6	6		
2	7	.	9	5		6	6		
3	0	.	1	5		6	6		
		.							

【解説】

(1) 下端深度(実数)

孔径、孔壁保護を区分する下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 衔(cm)まで記入する。

例:下端深度 10.60m

	1	0	.	6	0
--	---	---	---	---	---

(2) 孔径(整数)

孔径について mm 単位で記入する。

例:孔径 66mm

		6	6
--	--	---	---

(3) 孔壁保護方法(コード、文字)

孔壁保護を実施した場合、孔壁保護方法を表 2-55に従いコード入力する。「9 その他」を選択した場合にはその内容について文字入力を行う。

例:ケーシング挿入

2	
---	--

表 2-55 孔壁保護方法コード

コード	孔壁保護方法
1	泥水
2	ケーシング
3	セメンティング
9	その他(不明含む)

(4) 孔壁保護実施理由(文字)

孔壁保護を実施した場合、孔壁保護実施理由について表 2-56を参考に文字入力を行う。

例:崩壊防止のため、ケーシング挿入

崩壊

例:湧水防止のため、セメンティング実施

湧水

表 2-56 孔壁保護実施理由

孔壁保護の理由	解説
崩 壊	掘進した区間で、孔壁崩壊の恐れのあるもの。
逸 水	掘進した区間で、孔壁からの地下水の漏水が著しいもの。
湧 水	掘進した区間で、孔壁からの地下水の湧出が著しいもの。
その他	その他の理由により、孔壁保護を必要とするもの。

2-27 Q3 様式:掘進速度

ボーリングの掘進速度は、Q3 様式に定める項目を記入する。

Q3様式:掘進速度						
下端深度(m)					掘進速度(cm/h)	
	1	.	6	0		6
	7	.	0	0	1	0
	9	.	0	0		8
1	4	.	5	0	1	2
		.				
		.				
		.				
		.				

【解説】

(1) 下端深度(実数)

掘進速度を区分する下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 術(cm)まで記入する。

例:30.15m

3	0	.	1	5
---	---	---	---	---

(2) 掘進速度(整数)

掘進速度について、cm/h 単位で入力する。掘進速度は、1 掘進ごとの掘進区間長と実所要時間より求め記入するもので掘進に要する他の工程は含まない。

例:100 cm/h

1	0	0
---	---	---

2-28 Q4 様式:コアチューブ・ビット

ボーリングのコアチューブ・ビット情報は、Q4 様式に定める項目を記入する。

Q4様式:コアチューブ・ビット					
下端深度(m)			コアチューブ名		ビット名
	1	.	5	0	シングルコアチューブ メタルクラウン
2	2	.	0	0	ダブルコアチューブ ダイヤモンドビット
		.			
		.			
		.			
		.			
		.			
		.			

【解説】

(1) 下端深度(実数)

コアチューブ名・ビット名を区分する下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁(cm)まで記入する。

例:30.15m

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) コアチューブ名・ビット名(文字)

コアチューブ名・ビット名には使用したコアチューブ・ビットの種類を記入する。

例:ダブルコアチューブ、ダイヤモンドビット

ダブルコアチューブ	ダイヤモンドビット
-----------	-----------

2-29 Q5 様式:給圧

ボーリングの給圧情報は、Q5 様式に定める項目を記入する。

Q5様式:給圧				
下端深度(m)			給圧(MPa)	
	1	.	5	0
	7	.	0	0
	9	.	0	0
2	2	.	0	0

【解説】

(1) 下端深度(実数)

給圧を区分する下端深度を入力する。単位は m とし、小数点以下 2 枠(cm)まで記入する。

例:30.15m

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) 給圧(実数)

掘進時の給圧について入力する。単位は MPa とし、小数点以下 1 枠まで記入する。

例:1MPa

			1	.	0
--	--	--	---	---	---

2-30 Q6 様式:回転数

ボーリングの回転数情報は、Q6 様式に定める項目を記入する。

Q6様式:回転数						
下端深度(m)				回転数(rpm)		
	3	.	5	0	1	2
	5	.	2	0	2	5
	7	.	0	0	3	0
1	4	.	5	0	3	5
		.				
		.				
		.				

【解説】

(1) 下端深度(実数)

回転数を区分する下端深度を入力する。単位は m とし、小数点以下 2 桁(cm)まで記入する。

例:30.15m

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) 回転数(整数)

掘進時の回転数を rpm 単位で記入する。

例:120rpm

1	2	0
---	---	---

2-31 Q7 様式:送水条件

ボーリングの送水条件は、Q7 様式に定める項目を記入する。

Q7様式:送水条件										
下端深度 (m)			送水圧 (MPa)			送水量 (l/min)		排水量 (l/min)		送水種類
	3	.	5	0		0	.	0		0
	5	.	2	0		1	.	0		6
	7	.	0	0		1	.	0		4
1	4	.	5	0		1	.	0		3
	.					.				.
	.					.				.
	.					.				.
	.					.				.

【解説】

(1) 下端深度(実数)

送水条件を区分する下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 衡(cm)まで記入する。

例:30.15m

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) 送水圧(実数)

掘進時の送水圧について入力する。単位は MPa とし、小数点以下 1 衡まで記入する。

例:1MPa

		1	.	0
--	--	---	---	---

(3) 送水量(整数)

掘進時の送水量を l/min 単位で記入する。

例:30 l/min

	3	0
--	---	---

(4) 排水量(整数)

掘進時の排水量を l/min 単位で記入する。

例:15 l/min

	1	5
--	---	---

(5) 送水種類(コード・文字)

掘削水の種類について表 2-57に従いコード入力を行う。また、補足すべき事項がある場合や「9その他」を選択した場合には文字入力を行う。

例:泥水

3 ベントナイト泥水

表 2-57 送水種類コード

コード	送水種類
1	無水
2	清水
3	泥水
9	その他(不明含む)

2-32 R 様式:断層・破碎带区分

断層・破碎帯区分は、R様式に定める項目を入力する。

【解説】

(1) 上端深度・下端深度(塞数)

断層・破碎帯を区分する上端深度と下端深度を入力する。単位は m とし、小数点以下 2 桁(cm)まで入力する。

例:区間深度:30.00m ~ 30.15m

$$\boxed{} \quad \begin{array}{r} 3 \\ \times 5 \\ \hline \end{array} \quad \boxed{} \quad \begin{array}{r} 0 \\ \times 5 \\ \hline \end{array} \quad \boxed{} \quad \begin{array}{r} . \\ \times 5 \\ \hline \end{array} \quad \boxed{} \quad \begin{array}{r} 0 \\ \times 5 \\ \hline \end{array} \quad \boxed{} \quad \begin{array}{r} 0 \\ \times 5 \\ \hline \end{array}$$

(2) 性状(コード・文字)

断層・破碎帯の性状について表 2-58に従いコード入力を行う。「9 その他」を選択した場合は文字入力を行う。また、断層・破碎帯の性状について、ボーリング柱状図に補助模様を用いて記載する場合は、表 2-58の図模様を参考とする。

例·魚礫狀

4

例：压碎岩

9 地质学基础

表 2-58 断層・破碎帯の性状コード

コード	性 状	補助模様
1	シュードタキライト化	
2	マイロナイト化	
3	カタクラサイト化	
4	角礫状	
5	砂・礫混じり粘土状	
6	粘土状	
9	その他(不明含む)	

(3) 備考(文字)

断層・破碎帯についてコメント等がある場合、必要に応じて記載する。

例:白色粘土を挟む

白色粘土を挟む

2-33 S1 様式:コア採取率

コア採取率は、S1 様式に定める項目を記入する。

S1様式:コア採取率				
下端深度(m)			コア採取率(%)	
	1	.	0	0
	2	.	0	0
	3	.	0	0
	4	.	0	0
	5	.	0	0
	6	.	0	0
	8	.	0	0
	9	.	3	0
			1	0
				0

【解説】

(1) 下端深度(実数)

コア採取率を記入する下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 術(cm)まで記入する。

例:30.15m

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) コア採取率(整数)

コア採取率はサンプラー引き上げ毎の値を%単位で記入する。

コア採取率=(コア総長 × 100%)/1 掘進長

例:85%

	8	5
--	---	---

2-34 S2 様式:最大コア長

最大コア長は、S2 様式に定める項目を記入する。

S2 様式:最大コア長					
下端深度(m)				最大コア長(cm)	
	0	.	5	0	5
	1	.	5	0	6
	3	.	5	0	0
	4	.	5	0	0
	5	.	5	0	1 4
	6	.	5	0	1 5
	6	.	5	0	2 7
	7	.	5	0	1 7

【解説】

(1) 下端深度(実数)

最大コア長を記入する下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 衔(cm)まで記入する。

例: 30.15m

3	0	.	1	5
---	---	---	---	---

(2) 最大コア長(整数)

最大コア長は 1 掘進長当たりの値を cm 単位で記入する。

例: 25cm

2	5
---	---

2-35 S3 様式:RQD

RQD は、S3 様式に定める項目を記入する。

S3様式:RQD				
下端深度(m)			RQD (%)	
	4	.	0	0
	5	.	0	0
	6	.	0	0
	7	.	0	0
	8	.	0	0
	9	.	0	0
1	0	.	0	0
1	1	.	0	0

【解説】

(1) 下端深度(実数)

RQD を記入する下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 枠(cm)まで記入する。

例:10.00m

	1	0	.	0	0
--	---	---	---	---	---

(2) RQD(整数)

RQD は 1 掘進長当たりの値を%単位で記入する。

$RQD = (10\text{cm 以上のコアの総長} \times 100\%) / 1 \text{ 掘進長}$

例:35%

	3	5
--	---	---

2-36 T1 様式: 岩級区分

岩級区分は、T1 様式に定める項目を記入する。

T1 様式: 岩級区分							
下端深度(m)				岩級区分 (コード)			
	3	.	5	0	9	6	0
	5	.	3	0	9	6	0
	7	.	0	0	9	5	0
1	0	.	0	0	9	3	0
	.						
	.						
	.						
	.						

【解説】

(1) 下端深度(実数)

岩級区分を記入する下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 衔(cm)まで記入する。

例: 7.00m

		7	.	0	0
--	--	---	---	---	---

(2) 岩級区分(コード)

T1S 様式で記載した岩級区分コードを入力する。

例: 960

9	6	0
---	---	---

T1S 様式: 岩級区分判定表

岩級区分の際用いた岩級区分判定表を T1S 様式に従い入力する。

- 1) コードは整数 3 衔とし、901 ~ 999 を使用する。調査において将来的に区分が変更されたり細区分が追加されることを想定して、10 毎(910、920...)にコードを使用することを推奨する。
- 2) 区分は柱状図に示す岩級区分の記号(A、B、C_Hなど)を記入する。
- 3) 岩級区分判定には項目とその説明を個々に記入する。

表 2-59 岩級区分判定表(T1S 様式)

コード		区分	岩級区分判定					
			項目	項目	項目	項目	項目	項目
9	x	x	説明	説明	説明	説明	説明	説明
9	x	x	説明	説明	説明	説明	説明	説明
9	x	x	説明	説明	説明	説明	説明	説明

表 2-60 岩級区分判定表(T1S 様式)記入例

(例 1)

コード		区分	岩級区分判定						
			色調	1.硬軟の程度	2.風化変質の程度(細区分)	3.割れ目の状態	4.コアの状態(細区分)	備考	
9	1	0	A	青灰～乳灰	極硬 ハンマーで叩くと金属音。 D.Bで 2cm/min 以下。	亀裂面ともおおむね新鮮。 未風化。 (A)	亀裂少なく、おおむね20～50cmで密着している。	棒状～長柱状でおおむね30cm以上で採取される。 (1)	-
9	2	0	B	乳灰～(淡) 褐灰	硬 ハンマーで軽い金属音。 D.Bで 2-4cm/min。	おおむね新鮮なるも、亀裂面に沿って若干風化。 変質褐色を帯びる。 (B)	割れ目間隔5～15cmを主としている。 一部開口している。	短柱～棒状でおおむね20cm以下。 (2)	3、4Aなるも1、2がBのもの。 1、2Aなるも3、4Bのもの。
9	3	0	C _H	褐灰～(淡) 灰褐	中硬 ハンマーで叩くと濁音。小刀で傷つく硬さ。 D.Bで 3cm/min 以上。	割れ目に沿って風化進行、長石等は一部変色変質している。 (C)	割れ目発達、開口部に一部粘土はさむ。へアクラック発達。 割れ易い。	大岩片状でおおむね10cm以下で、5cm前後のもの多い。原型復旧可。 (3)	短柱状なるも風化進行軟質のもの。
9	4	0	C _M	灰褐～淡黄 褐	やや軟～硬。 ハンマーで叩くと軽く割れる。 爪で傷つくことあり。D.Bで掘進適。	岩内部の一部を除き風化進行、長石、雲母はおおむね変質している。 (D)	割れ目多く発達5cm以下、開口して粘土はさむ。	岩片～細片(角礫)状で砕け易い、不円形多く原型復旧困難。 (4)	軟岩で容易に砕け易いもの。
9	5	0	C _L	淡黄褐～黄 褐	軟極く脆弱で指で割れ、つぶれる。M.Cで掘進可。	岩内部まで風化進行するも、岩構造を残し石英未風化で残る。 (E1)	割れ目多いが粘土化進行、土砂状で密着している。	細片状で岩片残し、指で砕けて粉状。円形コアなし。 (5)	破碎帶でコア部のみ細片状で採取のもの。
9	6	0	D	黄褐	極軟粉体になりやすい。M.Cで無水堀可。	おおむね一様に風化進行、マサ土化している。わずかに岩片を残す。 (E2)	粘土化進行のためクラックなし。	土砂状(6)	破碎帶・粘土化帶でコア採取不可能なもの。

(例 2)

コード		区分	岩級区分判定	
			評価	細区分の組み合わせ
9	1	0	A	良好 A1a, A1b, B1a, B1b
9	2	0	B	やや良好 A1c, A2a, A2b, B1c, B2a, B2b, C1a
9	3	0	C	やや不良 A2c, C1b, C1c, C2a, C2b
9	4	0	D	不良 残りの組み合わせ

2-37 U1 樣式：保孔管

保孔管の設置状況については、U1 様式に定める項目を記入する。

【解説】

(1) 下端深度(层数)

保孔管の設置区間を区分する下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 術(cm)まで記入する。

例:22.50m

	2	2	.	5	0
--	---	---	---	---	---

(2) 種別(コード)

保育管の設置状況の種別について

表 2-61に従いコード入力を行う。

例：有孔區間

2

表 2-61 保孔管設置状況の種別コード

コード	保孔管設置状況の種別	記号	備考
1	保孔管無し		塩ビパイプ等の保孔管を設置していない区間。
2	有孔区間	○○○○○○○○ ○○○○○○○○ ○○○○○○○○	塩ビパイプ等の保孔管にストレーナ加工を施している区間。
3	無孔区間		塩ビパイプ等の保孔管に加工を施していない区間。
4	遮水区間	_____	孔をセメント等で充填し、遮水している区間。
9	その他(不明含む)		-

(3) 備考(文字)

保孔管の設置状況についてコメント等がある場合、必要に応じて記載する。

例:VP40 ストレーナ加工塩ビパイプ

VP40 ストレーナ加工塩ビパイプ

2-38 U2 樣式：計測機器

ボーリング孔内に計測機器を設置した場合、U2 様式に定める項目を記入する。

【解説】

(1) 上端深度：下端深度(毫秒)

計測機器を設置した上端深度、及び下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 衔(cm)まで入力する。なお、設置深度に幅がない計測機器については上端深度・下端深度に同一の値を入力する。

例・設置深度 10.00m

	1	0	.	0	0
--	---	---	---	---	---

(2) 計測機器種別(文字)

設置した計測機器の種別について入力を行う。

例：地下水位計

地下水位計

表 2-62 計測機器の例

計測機器	記号
パイプ歪計	(歪)
孔内傾斜計	(傾)
垂直伸縮計、多層移動量計	(伸)
地下水位計	(水)
間隙水圧計	(間)

(3) 備考(文字)

計測機器設置についてコメント等がある場合、必要に応じて記載する。

2-39 V1 樣式:地下水檢層試驗

地下水検層試験は、V1 様式に定める項目を記入する。

〔解説〕

ここで言う地下水検層試験は、孔内水に食塩などの電解物質を投入し比抵抗値を人工的に下げた後、経時的に孔内水の比抵抗の変化をとらえることにより、地下水流动層の垂直的分布を推定するために行うものである。孔内に温水を投入し孔内温度の時間変化を測定する温度検層などについては本様式に含めないこととする。

(1) 地下水検層試験番号(整数)

地下水検層試験番号を 0001 から連番で付ける。番号は V2 様式と対応することとする。

例:0001

0	0	0	1
---	---	---	---

(2) 上端深度・下端深度(実数)

地下水検層試験の試験区間の上端深度、及び下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下2桁(cm)まで記入する。

例:試験区間 24.00 ~ 36.25m

$$\begin{array}{r} \boxed{} \quad 2 \quad 4 \quad . \quad 0 \quad 0 \\ \boxed{} \quad 3 \quad 6 \quad . \quad 2 \quad 5 \end{array}$$

(3) 掘削深度(実数)

地下水検層試験実施時の掘削深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 衔(cm)まで記入する。

例: 37.00m

	3	7	.	0	0
--	---	---	---	---	---

(4) 孔内水位(実数)

地下水検層試験実施前の孔内水位を入力する。単位は GL.-m とし、小数点以下 2 桁(cm)まで記入する。水位が地表面より高い場合は - (マイナス)表記とする。

例:GL.-23.40m

	2	3	.	4	0
--	---	---	---	---	---

(5) 試験方法(コード)

地下水検層試験の試験方法について表 2-63に従いコード入力を行う。

例:汲み上げ検層法

2

表 2-63 地下水検層試験方法コード

コード	地下水検層試験方法
1	自然水位法
2	定水位法(汲み上げ検層法)
9	その他(不明含む)

(6) 電解質溶液濃度(実数)

孔内に投入した電解質溶液の濃度について入力する。単位は%とし、小数点以下 1 衔まで記入する。

例:1.0%

_____ | 1 | . | 0

(7) 測定時間(文字)

比抵抗値の測定時間について、電解物質投入後の経過時間を入力する。単位は分とし、繰り返し入力を行う。

例:10,20,30,60,120,180 分後

10
20
30
60
120
180

2-40 V2 様式:地下水検層試験詳細データ

地下水検層試験詳細データは、V2 様式に定める項目を記入する。

【解説】

(1) 地下水検層試験番号(整数)

V1 様式の地下水検層試験番号に対応するを試験番号を記入する。

例:0001

0	0	0	1
---	---	---	---

(2) 測定深度(実数)

比抵抗値の測定を行った深度について記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁(cm)まで記入する。

例: 24.00m

	2	4	.	0	0
--	---	---	---	---	---

(3) 比抵抗值(整数)

各測定深度ごとに比抵抗値を記入する。単位は $\cdot \text{cm}$ とし、整数で入力を行う。比抵抗値は電解質投入前、投入直後、及び、V1 様式で入力した各経過時間ごとの値をそれぞれ入力する。

例:15 cm

1 5

2-41 V3 様式:地下水検層試験判定結果

地下水検層試験判定結果は、V3 様式に定める項目を記入する。

V3様式:地下水検層試験判定結果										地下水検層結果
区間										地下水検層結果
上端深度(m)					下端深度(m)					
2	0	.	0	0	2	5	.	0	0	上昇流状検出
2	5	.	0	0	2	8	.	0	0	非検出
2	8	.	0	0	3	5	.	0	0	下降流状検出

【解説】

(1) 上端深度・下端深度(実数)

区分する上端深度、及び下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 衔(cm)まで記入する。

例:深度 28.00 ~ 35.00m

2	8	.	0	0	3	5	.	0	0
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(2) 地下水検層結果(文字)

地下水検層結果について文字入力を行う。

例:上昇流状検出

上昇流状検出

表 2-64 地下水検層結果

地下水検層結果	記 号	備 考
流入検出	→	図 2-5 (a)に示すように地下水の流入が認められる区間。
上昇流状検出	↑	図 2-5 (b)に示す変化が認められる区間。
下降流状検出	↓	図 2-5 (c)に示す変化が認められる区間。
非検出		比抵抗値にほとんど変化が認められない区間。
その他		流入検出、上昇流状検出、下降流状検出、非検出以外の区間。

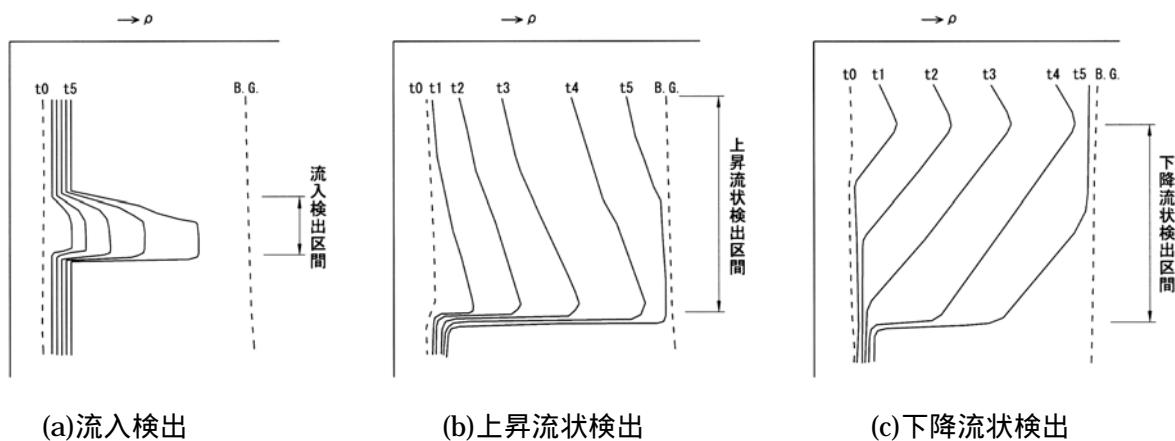


図 2-5 地下水検層結果の判定例

2-42 Y 様式: 備考

深度ごとに備考・コメント等について記載する場合は、Y様式に定める項目を記入する。

【解説】

(1) 備考タイトル(文字)

深度ごとに備考：コメント等を記載する場合、入力情報、内容を示す副題を入力する。

例：試錐日報解析結果

試錐日報解析結果

(2) 上端深度・下端深度(実数)

深度ごとの備考を記載する場合の上端深度、及び下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁(cm)まで記入する。

例:区間 10.00 ~ 10.84m

$$\boxed{} \quad \boxed{1} \quad \boxed{0} \quad \boxed{\cdot} \quad \boxed{0} \quad \boxed{0}$$

(3) 備考(文字)

各深度ごとに備考等について記載を行う。改行を必要とする場合は“`¥n`”(半角、`n` は小文字)を入力する。

例：難透水層

難透水層

2-43 Z 様式：フリー情報

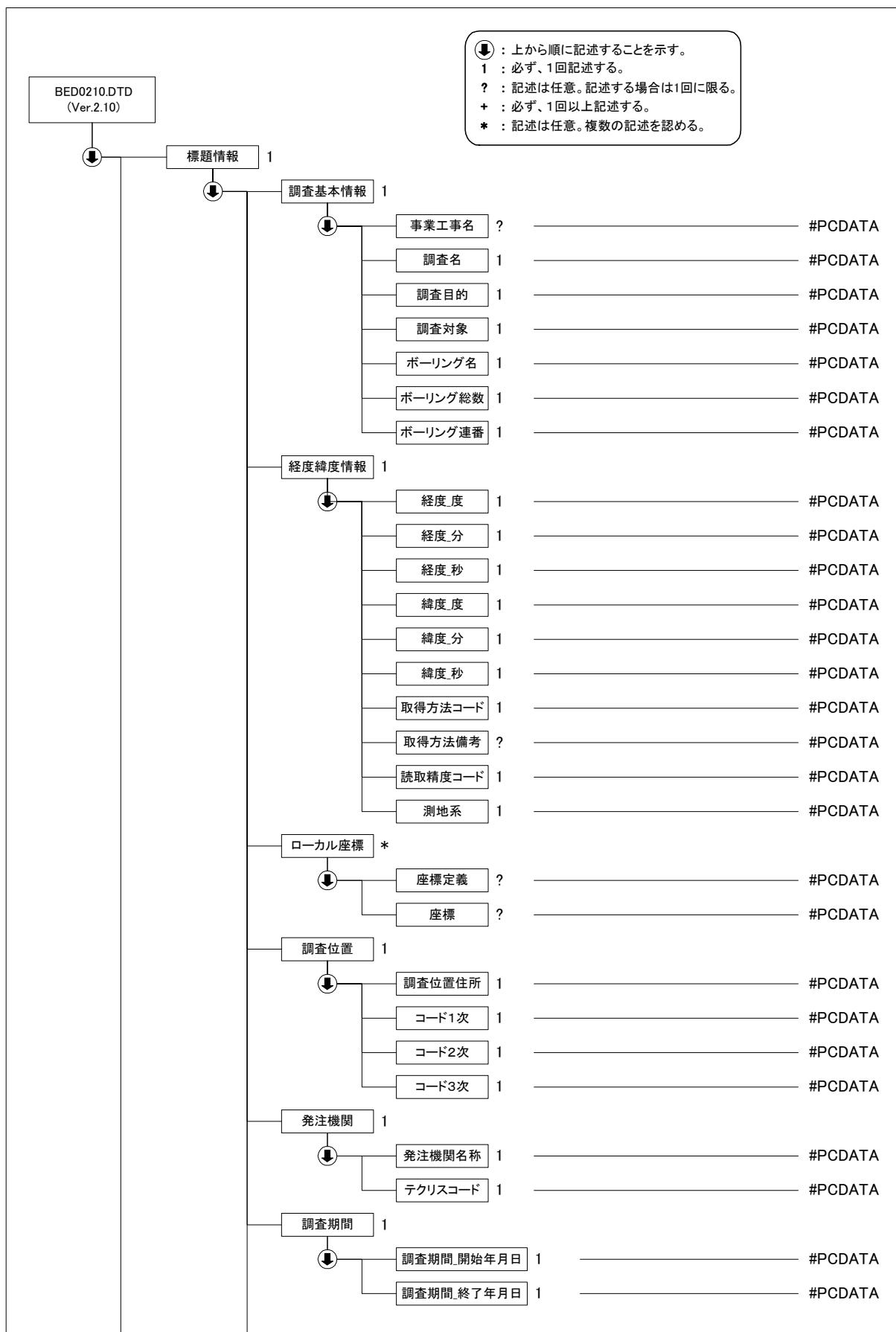
必要に応じて、自由にフォーマットを定義し、入力する。

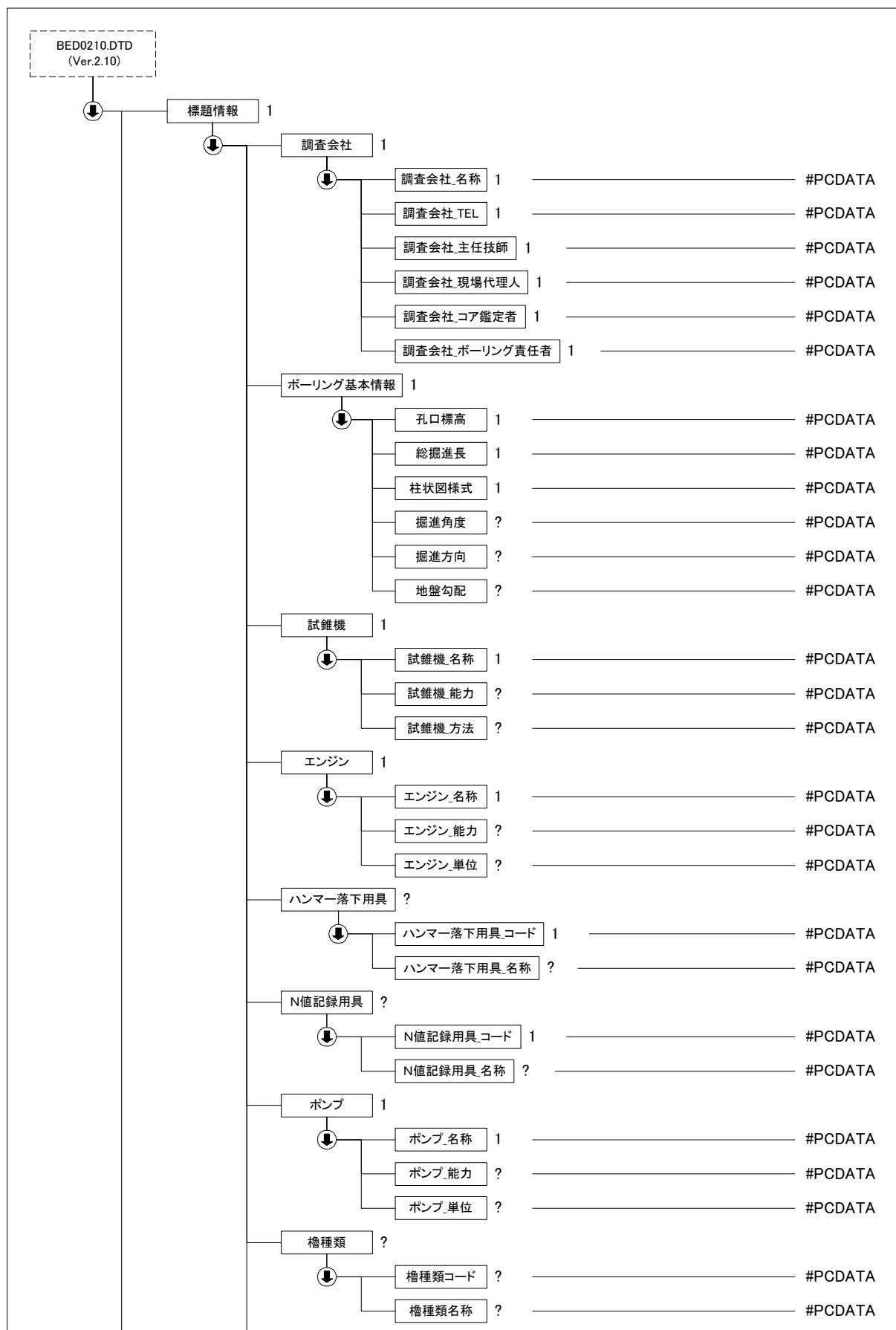
Z様式：フリー情報

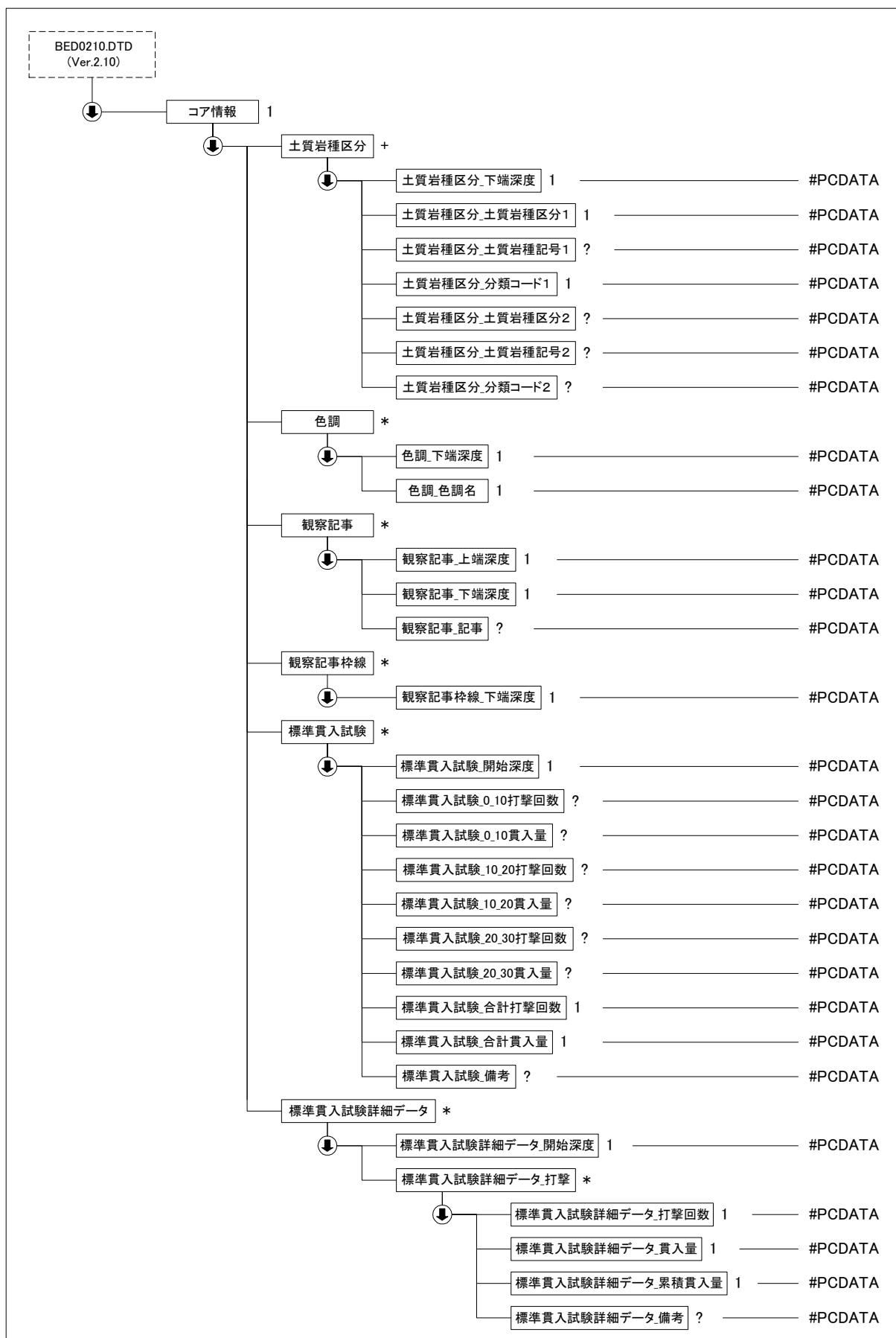
【解説】

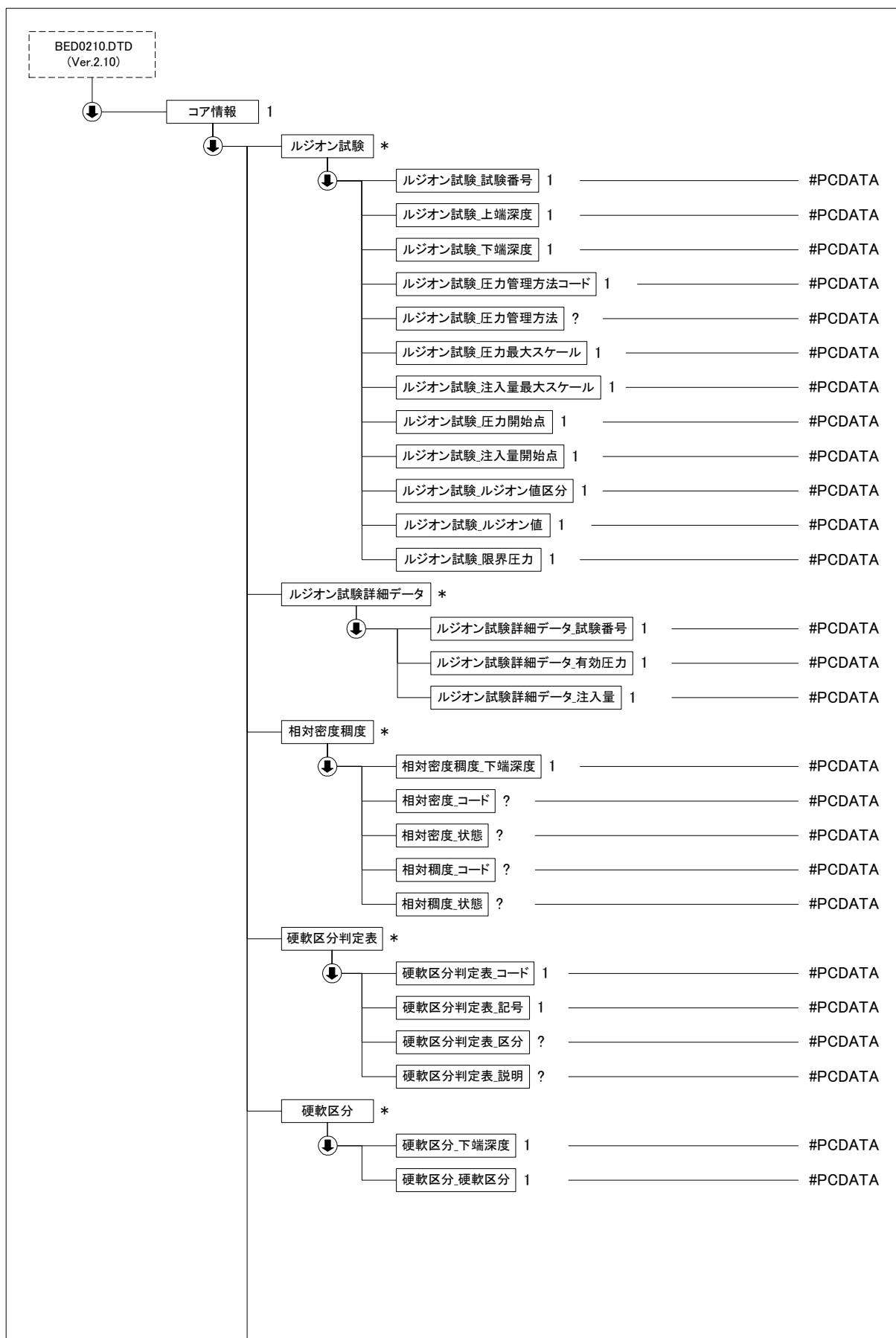
A～Y 様式で入力できない項目について、受発注者協議の上、フォーマットを定めて利用する。

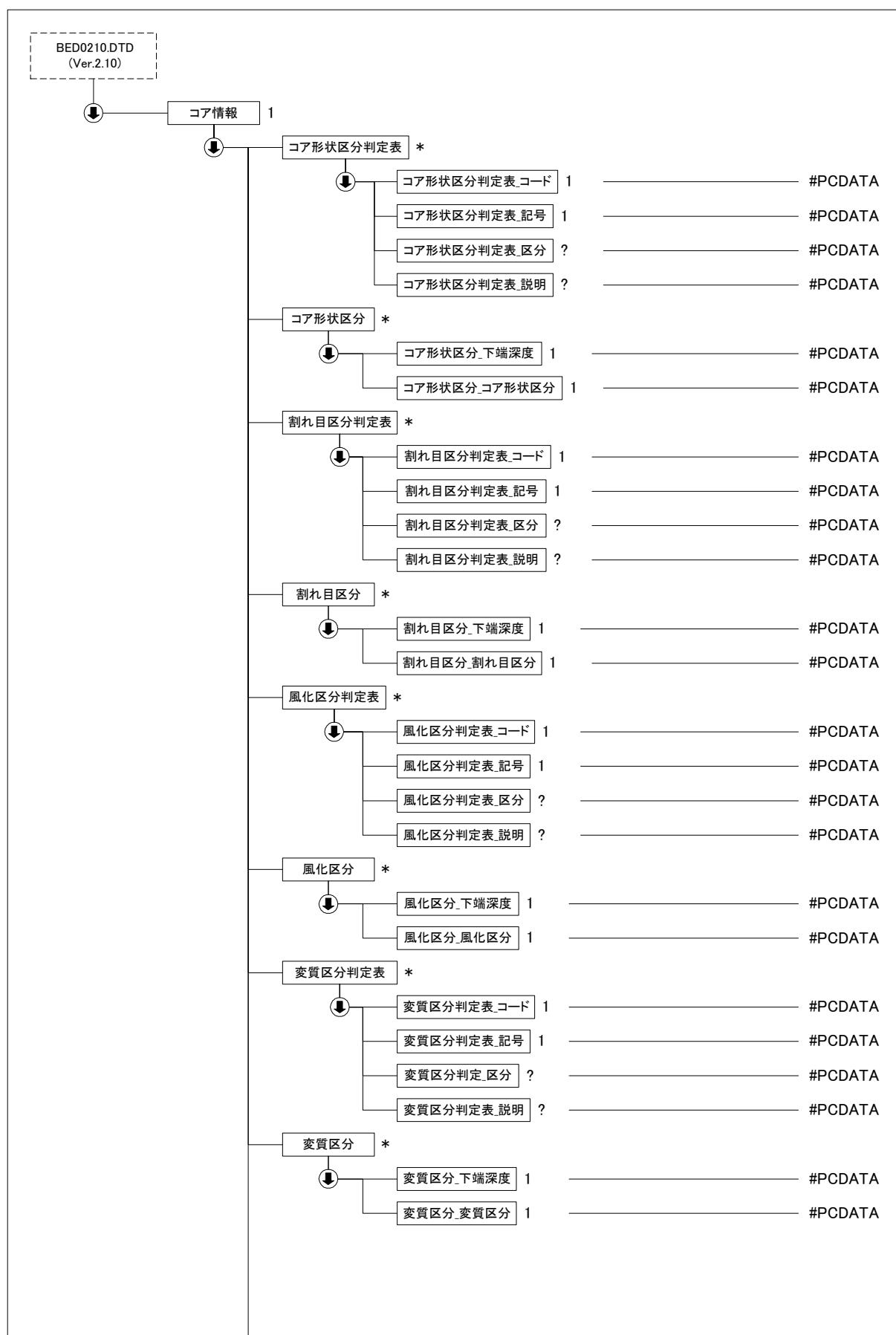
3 ボーリング交換用データの構造図

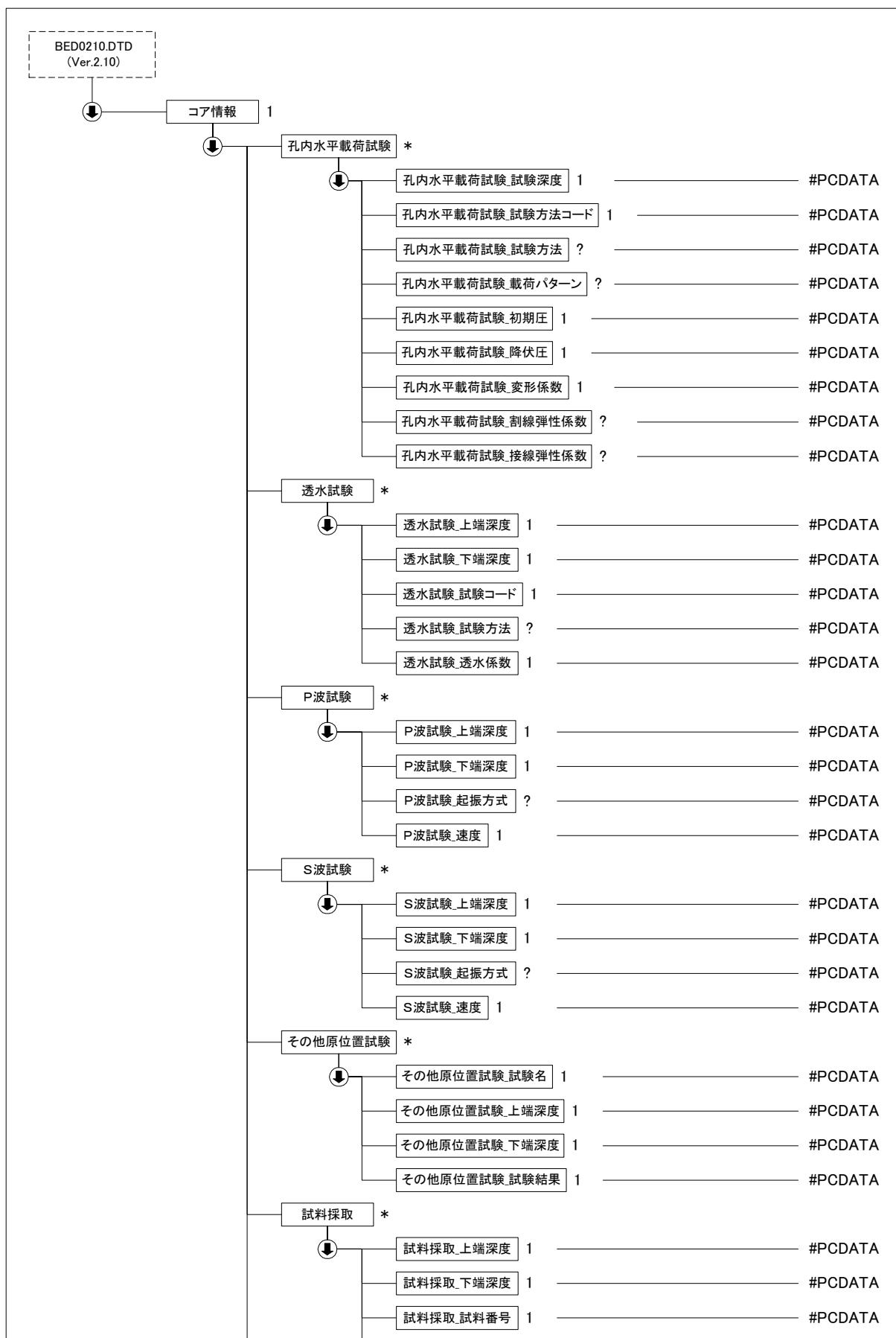


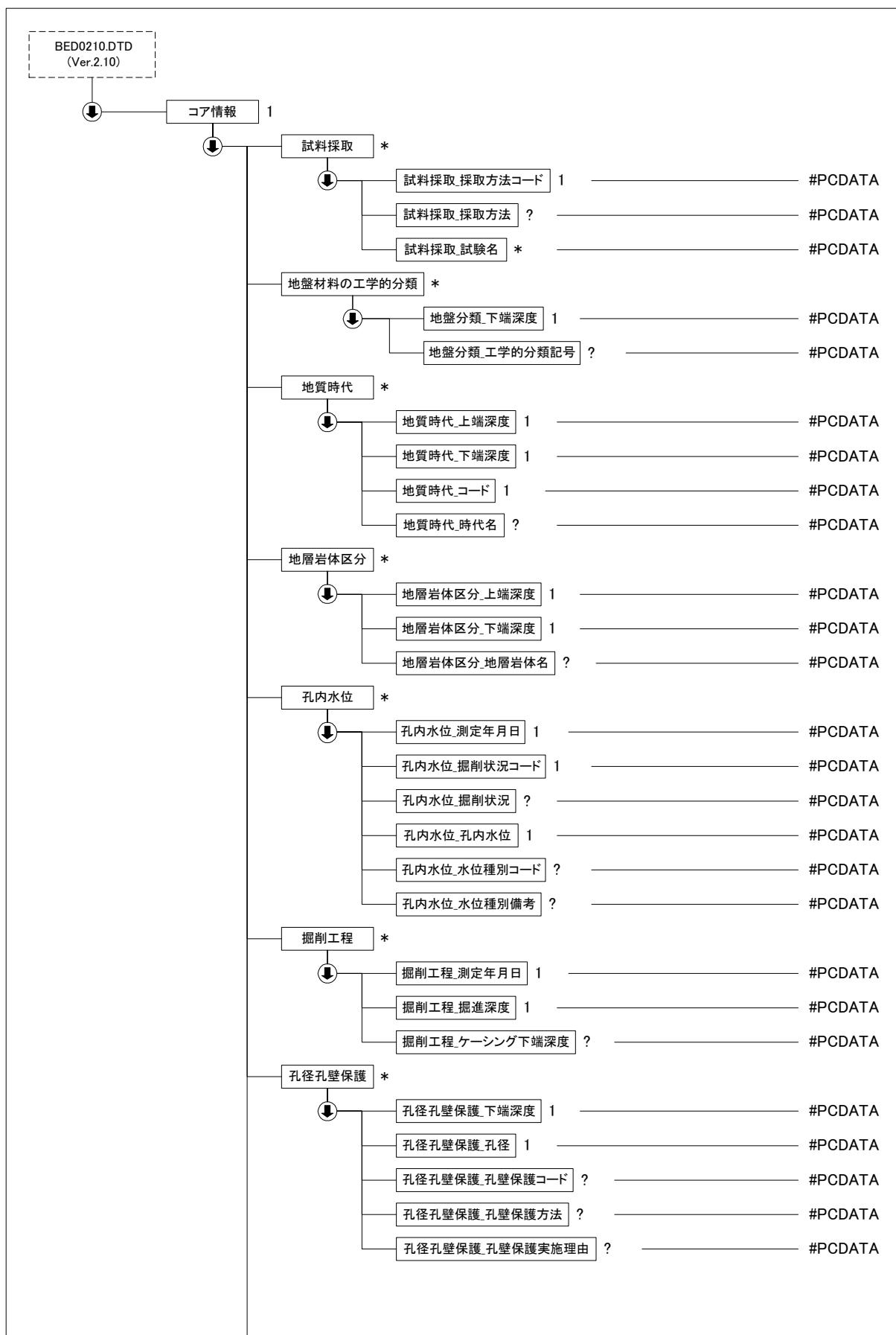


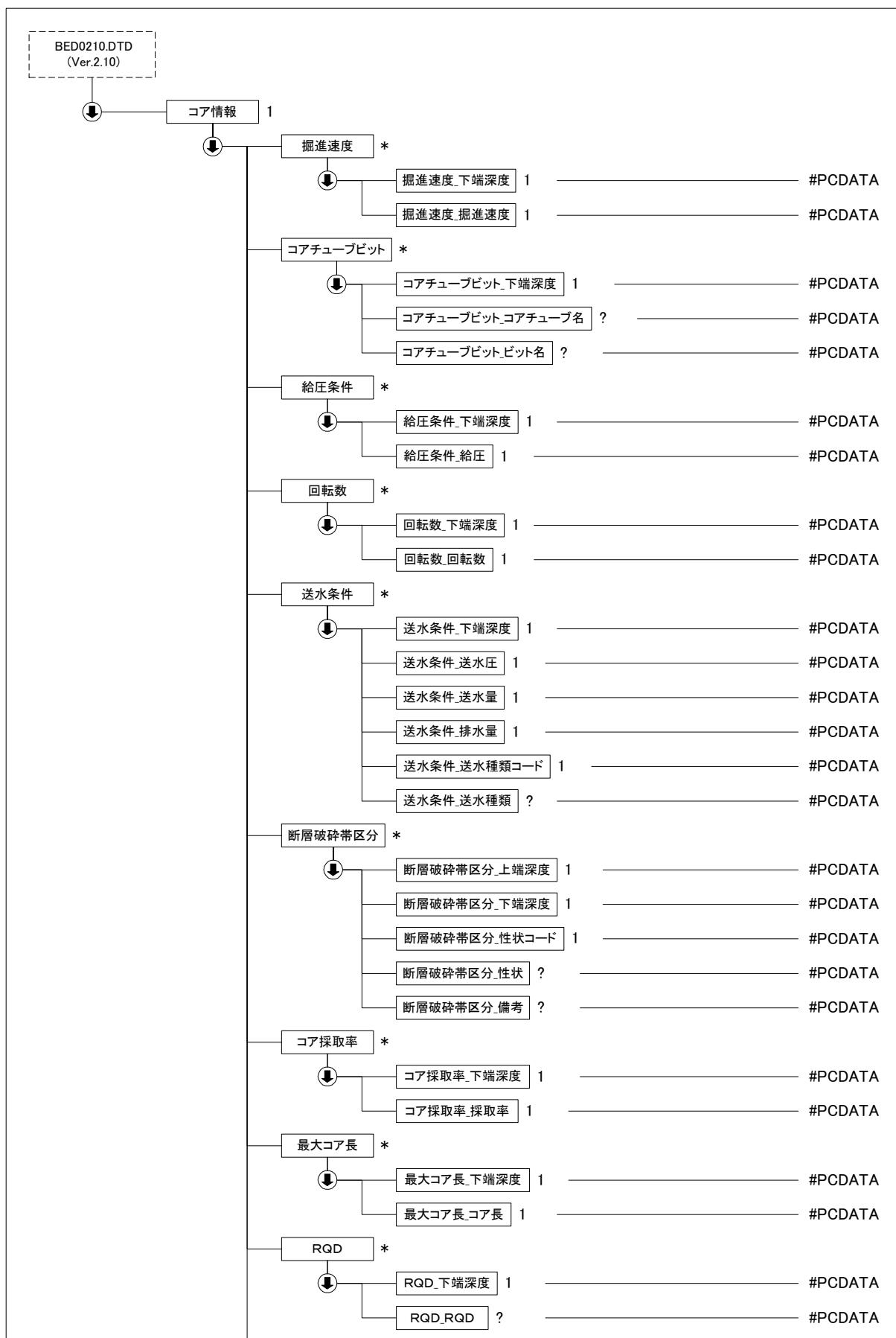


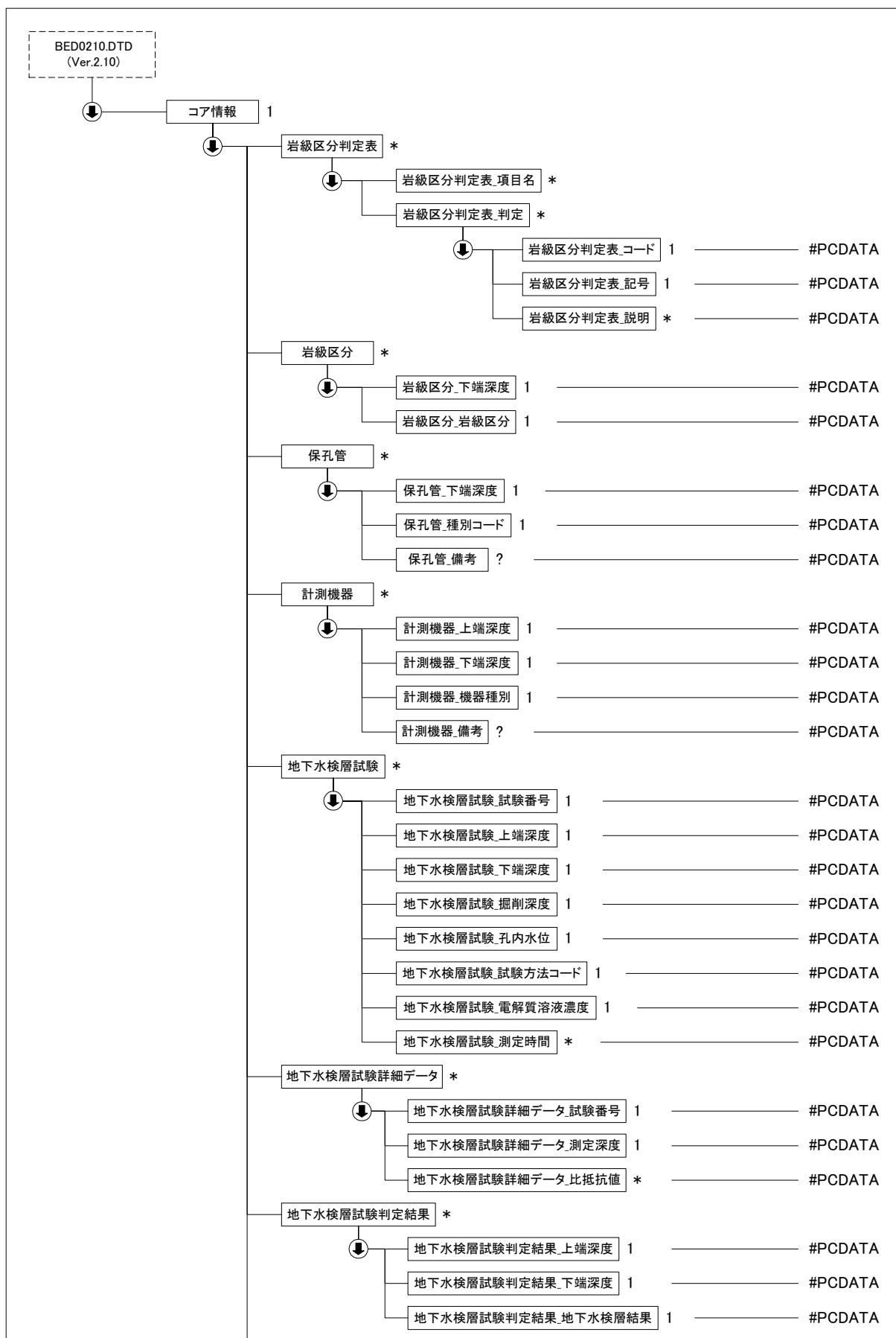


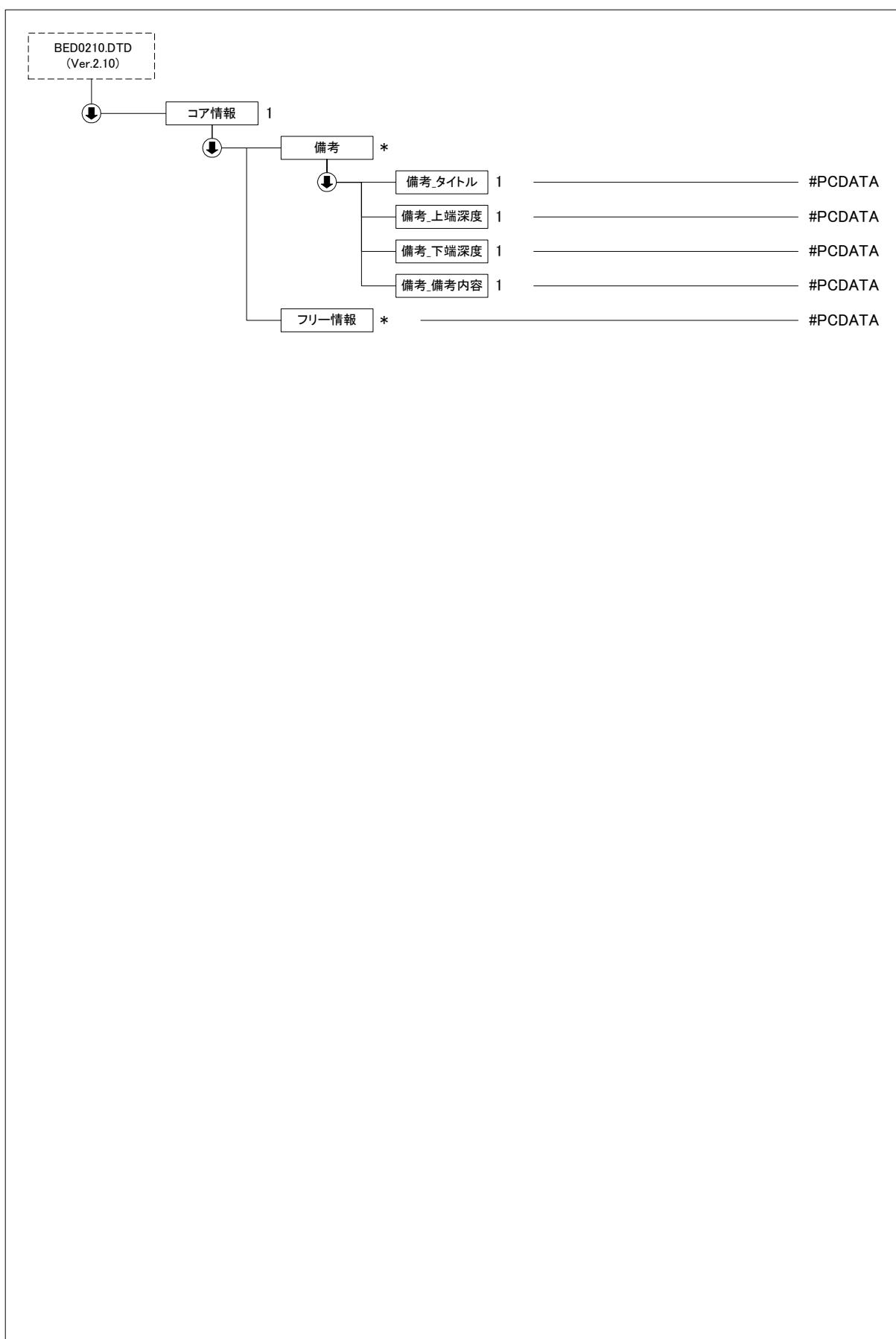












4 ポーリング交換用データの DTD

ポーリング交換用データの DTD(BED0210.DTD)を以下に示す。なお、DTD ファイルは、N N - C A L S のホームページ(<http://www.nncals.jp/>)から入手できる。

```
<!ELEMENT ポーリング情報 (標題情報, コア情報)>
<!ATTLIST ポーリング情報 DTD_version CDATA #FIXED "2.10">

<!--*****-->
<!-- 標題情報 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 標題情報 (調査基本情報, 経度緯度情報, ローカル座標*, 調査位置, 発注機関, 調査期間, 調査会社, ポーリング基本情報, 試錐機, エンジン, ハンマー落下用具?, N 値記録用具?, ポンプ)>

<!--*****-->
<!-- 調査基本情報 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 調査基本情報 (事業工事名?, 調査名, 調査目的, 調査対象, ポーリング名, ポーリング総数, ポーリング連番)>
  <!ELEMENT 事業工事名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 調査名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 調査目的 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 調査対象 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT ポーリング名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT ポーリング総数 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT ポーリング連番 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!-- 経度緯度情報 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 経度緯度情報 (経度_度, 経度_分, 経度_秒, 緯度_度, 緯度_分, 緯度_秒, 取得方法コード, 取得方法説明?, 読取精度コード, 測地系)>
  <!ELEMENT 経度_度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 経度_分 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 経度_秒 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 緯度_度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 緯度_分 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 緯度_秒 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 取得方法コード (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 取得方法説明 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 読取精度コード (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 測地系 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!-- ローカル座標 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT ローカル座標 (座標定義, 座標)>
  <!ELEMENT 座標定義 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 座標 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!-- 調査位置 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 調査位置 (調査位置住所, コード1次, コード2次, コード3次)>
  <!ELEMENT 調査位置住所 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT コード1次 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT コード2次 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT コード3次 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!-- 発注機関 -->
```

```

<!--*****-->
<!ELEMENT 発注機関 (発注機関名称, テクリスコード)>
<!ELEMENT 発注機関名称 (#PCDATA)>
<!ELEMENT テクリスコード (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--      調査期間      -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 調査期間 (調査期間_開始年月日, 調査期間_終了年月日)>
<!ELEMENT 調査期間_開始年月日 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 調査期間_終了年月日 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--      調査会社      -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 調査会社 (調査会社_名称, 調査会社_TEL, 調査会社_主任技師, 調査会社_現場代理人, 調査会社_
コア鑑定者, 調査会社_ボーリング責任者)>
<!ELEMENT 調査会社_名称 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 調査会社_TEL (#PCDATA)>
<!ELEMENT 調査会社_主任技師 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 調査会社_現場代理人 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 調査会社_コア鑑定者 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 調査会社_ボーリング責任者 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--      ボーリング基本情報      -->
<!--*****-->
<!ELEMENT ボーリング基本情報 (孔口標高, 総掘進長, 柱状図様式, 掘進角度?, 掘進方向?, 地盤勾配?)>
<!ELEMENT 孔口標高 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 総掘進長 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 柱状図様式 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 掘進角度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 掘進方向 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 地盤勾配 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--      試錐機      -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 試錐機 (試錐機_名称, 試錐機_能力?, 試錐機_方法?)>
<!ELEMENT 試錐機_名称 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試錐機_能力 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試錐機_方法 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--      エンジン      -->
<!--*****-->
<!ELEMENT エンジン (エンジン_名称, エンジン_能力?, エンジン_単位?)>
<!ELEMENT エンジン_名称 (#PCDATA)>
<!ELEMENT エンジン_能力 (#PCDATA)>
<!ELEMENT エンジン_単位 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--      ハンマー落下用具      -->
<!--*****-->
<!ELEMENT ハンマー落下用具 (ハンマー落下用具_コード, ハンマー落下用具_名称?)>
<!ELEMENT ハンマー落下用具_コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT ハンマー落下用具_名称 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--      N 値記録用具      -->
<!--*****-->
<!ELEMENT N 値記録用具 (N 値記録用具_コード, N 値記録用具_名称?)>
<!ELEMENT N 値記録用具_コード (#PCDATA)>

```

```

<!ELEMENT N 値記録用具_名称 (#PCDATA)>

<!--*****ポンプ*****-->
<!--      ポンプ      -->
<!--*****ポンプ*****-->
<!ELEMENT ポンプ (ポンプ_名称, ポンプ_能力?, ポンプ_単位?)>
  <!ELEMENT ポンプ_名称 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT ポンプ_能力 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT ポンプ_単位 (#PCDATA)>

<!--*****櫛種類*****-->
<!--      櫛種類      -->
<!--*****櫛種類*****-->
<!ELEMENT 櫛種類 (櫛種類コード?, 櫛種類名称?)>
  <!ELEMENT 櫛種類コード (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 櫛種類名称 (#PCDATA)>

<!--*****コア情報*****-->
<!--      コア情報      -->
<!--*****コア情報*****-->
<!ELEMENT コア情報 (土質岩種区分+, 色調*, 観察記事枠線*, 標準貫入試験*, 標準貫入試験詳細データ*, ルジオン試験*, ルジオン試験詳細データ*, 相対密度稠度*, 硬軟区分判定表*, 硬軟区分*, コア形状区分判定表*, コア形状区分*, 割れ目区分判定表*, 割れ目区分*, 風化区分判定表*, 風化区分*, 変質区分判定表*, 変質区分*, 孔内水平載荷試験*, 透水試験*, P 波試験*, S 波試験*, その他原位置試験*, 試料採取*, 地盤材料の工学的分類*, 地質時代*, 地層岩体区分*, 孔内水位*, 掘削工程*, 孔径孔壁保護*, 掘進速度*, コアチューブピット*, 給圧条件*, 回転数*, 送水条件*, 断層破碎帯区分*, コア採取率*, 最大コア長*, RQD*, 岩級区分判定表*, 岩級区分*, 保孔管*, 計測機器*, 地下水検層試験*, 地下水検層試験詳細データ*, 地下水検層試験判定結果*, 備考*, フリー情報*)>

<!--*****土質岩種区分*****-->
<!--      土質岩種区分      -->
<!--*****土質岩種区分*****-->
<!ELEMENT 土質岩種区分 (土質岩種区分_下端深度, 土質岩種区分_土質岩種区分 1, 土質岩種区分_土質岩種記号 1?, 土質岩種区分_分類コード 1, 土質岩種区分_土質岩種区分 2?, 土質岩種区分_土質岩種記号 2?, 土質岩種区分_分類コード 2?)>
  <!ELEMENT 土質岩種区分_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 土質岩種区分_土質岩種区分 1 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 土質岩種区分_土質岩種記号 1 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 土質岩種区分_分類コード 1 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 土質岩種区分_土質岩種区分 2 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 土質岩種区分_土質岩種記号 2 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 土質岩種区分_分類コード 2 (#PCDATA)>

<!--*****色調*****-->
<!--      色調      -->
<!--*****色調*****-->
<!ELEMENT 色調 (色調_下端深度, 色調_色調名)>
  <!ELEMENT 色調_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 色調_色調名 (#PCDATA)>

<!--*****観察記事*****-->
<!--      観察記事      -->
<!--*****観察記事*****-->
<!ELEMENT 観察記事 (観察記事_上端深度, 観察記事_下端深度, 観察記事_記事?)>
  <!ELEMENT 観察記事_上端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 観察記事_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 観察記事_記事 (#PCDATA)>

<!--*****観察記事枠線*****-->
<!--      観察記事枠線      -->
<!--*****観察記事枠線*****-->
<!ELEMENT 観察記事枠線 (観察記事枠線_下端深度)>
  <!ELEMENT 観察記事枠線_下端深度 (#PCDATA)>

```

```

<!--*****-->
<!--     標準貫入試験     -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 標準貫入試験 (標準貫入試験_開始深度, 標準貫入試験_0_10 打撃回数?, 標準貫入試験_0_10 貫入量?,
標準貫入試験_10_20 打撃回数?, 標準貫入試験_10_20 貫入量?, 標準貫入試験_20_30 打撃回数?, 標準貫入試験
_20_30 貫入量?, 標準貫入試験_合計打撃回数, 標準貫入試験_合計貫入量, 標準貫入試験_備考?)>
<!ELEMENT 標準貫入試験_開始深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 標準貫入試験_0_10 打撃回数 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 標準貫入試験_0_10 貫入量 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 標準貫入試験_10_20 打撃回数 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 標準貫入試験_10_20 貫入量 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 標準貫入試験_20_30 打撃回数 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 標準貫入試験_20_30 貫入量 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 標準貫入試験_合計打撃回数 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 標準貫入試験_合計貫入量 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 標準貫入試験_備考 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--     標準貫入試験詳細データ     -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 標準貫入試験詳細データ (標準貫入試験詳細データ_開始深度, 標準貫入試験詳細データ_打撃*)>
<!ELEMENT 標準貫入試験詳細データ_開始深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 標準貫入試験詳細データ_打撃 (標準貫入試験詳細データ_打撃回数, 標準貫入試験詳細データ_貫
入量, 標準貫入試験詳細データ_累積貫入量, 標準貫入試験詳細データ_備考?)>
<!ELEMENT 標準貫入試験詳細データ_打撃回数 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 標準貫入試験詳細データ_貫入量 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 標準貫入試験詳細データ_累積貫入量 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 標準貫入試験詳細データ_備考 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--     ルジオン試験     -->
<!--*****-->
<!-- 「ルジオン試験_試験番号」は、ルジオン試験詳細データの「ルジオン試験詳細_試験番号」と対応する。 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT ルジオン試験 (ルジオン試験_試験番号, ルジオン試験_上端深度, ルジオン試験_下端深度, ルジオ
ン試験_圧力管理方法コード, ルジオン試験_圧力管理方法?, ルジオン試験_圧力最大スケール, ルジオン試験_注
入量最大スケール, ルジオン試験_圧力開始点, ルジオン試験_注入量開始点, ルジオン試験_ルジオン値区分, ル
ジオン試験_ルジオン値, ルジオン試験_限界圧力)>
<!ELEMENT ルジオン試験_試験番号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ルジオン試験_上端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ルジオン試験_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ルジオン試験_圧力管理方法コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT ルジオン試験_圧力管理方法 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ルジオン試験_圧力最大スケール (#PCDATA)>
<!ELEMENT ルジオン試験_注入量最大スケール (#PCDATA)>
<!ELEMENT ルジオン試験_圧力開始点 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ルジオン試験_注入量開始点 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ルジオン試験_ルジオン値区分 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ルジオン試験_ルジオン値 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ルジオン試験_限界圧力 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--     ルジオン試験詳細データ     -->
<!--*****-->
<!-- 「ルジオン試験詳細_試験番号」は、ルジオン試験の「ルジオン試験_試験番号」と対応する。 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT ルジオン試験詳細データ (ルジオン試験詳細データ_試験番号, ルジオン試験詳細データ_有効圧力,
ルジオン試験詳細データ_注入量)>
<!ELEMENT ルジオン試験詳細データ_試験番号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ルジオン試験詳細データ_有効圧力 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ルジオン試験詳細データ_注入量 (#PCDATA)>

```

```

<!--*****-->
<!--      相対密度稠度      -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 相対密度稠度 (相対密度稠度_下端深度, 相対密度_コード?, 相対密度_状態?, 相対稠度_コード?, 相対稠度_状態?)>
<!ELEMENT 相対密度稠度_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 相対密度_コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 相対密度_状態 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 相対稠度_コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 相対稠度_状態 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--      硬軟区分判定表      -->
<!--*****-->
<!-- 区分情報があるときは必ず判定表を付属させること。-->
<!--*****-->
<!ELEMENT 硬軟区分判定表 (硬軟区分判定表_コード, 硬軟区分判定表_記号, 硬軟区分判定表_区分?, 硬軟区分判定表_説明?)>
<!ELEMENT 硬軟区分判定表_コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 硬軟区分判定表_記号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 硬軟区分判定表_区分 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 硬軟区分判定表_説明 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--      硬軟区分      -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 硬軟区分 (硬軟区分_下端深度, 硬軟区分_硬軟区分)>
<!ELEMENT 硬軟区分_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 硬軟区分_硬軟区分 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--      コア形状区分判定表      -->
<!--*****-->
<!-- 区分情報があるときは必ず判定表を付属させること。-->
<!--*****-->
<!ELEMENT コア形状区分判定表 (コア形状区分判定表_コード, コア形状区分判定表_記号, コア形状区分判定表_区分?, コア形状区分判定表_説明?)>
<!ELEMENT コア形状区分判定表_コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT コア形状区分判定表_記号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT コア形状区分判定表_区分 (#PCDATA)>
<!ELEMENT コア形状区分判定表_説明 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--      コア形状区分      -->
<!--*****-->
<!ELEMENT コア形状区分 (コア形状区分_下端深度, コア形状区分_コア形状区分)>
<!ELEMENT コア形状区分_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT コア形状区分_コア形状区分 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--      割れ目区分判定表      -->
<!--*****-->
<!-- 区分情報があるときは必ず判定表を付属させること。-->
<!--*****-->
<!ELEMENT 割れ目区分判定表 (割れ目区分判定表_コード, 割れ目区分判定表_記号, 割れ目区分判定表_区分?, 割れ目区分判定表_説明?)>
<!ELEMENT 割れ目区分判定表_コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 割れ目区分判定表_記号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 割れ目区分判定表_区分 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 割れ目区分判定表_説明 (#PCDATA)>

```

```

<!--*****割れ目区分*****-->
<!--      割れ目区分      -->
<!--*****割れ目区分*****-->
<!ELEMENT 割れ目区分 (割れ目区分_下端深度, 割れ目区分_割れ目区分)>
<!ELEMENT 割れ目区分_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 割れ目区分_割れ目区分 (#PCDATA)>

<!--*****風化区分判定表*****-->
<!--      風化区分判定表      -->
<!--*****風化区分判定表*****-->
<!-- 区分情報があるときは必ず判定表を付属させること。-->
<!--*****風化区分判定表*****-->
<!ELEMENT 風化区分判定表 (風化区分判定表_コード, 風化区分判定表_記号, 風化区分判定表_区分?, 風化区分判定表_説明?)>
<!ELEMENT 風化区分判定表_コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 風化区分判定表_記号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 風化区分判定表_区分 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 風化区分判定表_説明 (#PCDATA)>

<!--*****風化区分*****-->
<!--      風化区分      -->
<!--*****風化区分*****-->
<!ELEMENT 風化区分 (風化区分_下端深度, 風化区分_風化区分)>
<!ELEMENT 風化区分_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 風化区分_風化区分 (#PCDATA)>

<!--*****変質区分判定表*****-->
<!--      変質区分判定表      -->
<!--*****変質区分判定表*****-->
<!-- 区分情報があるときは必ず判定表を付属させること。-->
<!--*****変質区分判定表*****-->
<!ELEMENT 変質区分判定表 (変質区分判定表_コード, 変質区分判定表_記号, 変質区分判定表_区分?, 変質区分判定表_説明?)>
<!ELEMENT 変質区分判定表_コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 変質区分判定表_記号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 変質区分判定表_区分 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 変質区分判定表_説明 (#PCDATA)>

<!--*****変質区分*****-->
<!--      変質区分      -->
<!--*****変質区分*****-->
<!ELEMENT 変質区分 (変質区分_下端深度, 変質区分_変質区分)>
<!ELEMENT 変質区分_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 変質区分_変質区分 (#PCDATA)>

<!--*****孔内水平載荷試験*****-->
<!--      孔内水平載荷試験      -->
<!--*****孔内水平載荷試験*****-->
<!ELEMENT 孔内水平載荷試験 (孔内水平載荷試験_試験深度, 孔内水平載荷試験_試験方法コード, 孔内水平載荷試験_試験方法?, 孔内水平載荷試験_載荷パターン?, 孔内水平載荷試験_初期圧, 孔内水平載荷試験_降伏圧, 孔内水平載荷試験_変形係数, 孔内水平載荷試験_割線弾性係数?, 孔内水平載荷試験_接線弾性係数?)>
<!ELEMENT 孔内水平載荷試験_試験深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 孔内水平載荷試験_試験方法コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 孔内水平載荷試験_試験方法 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 孔内水平載荷試験_載荷パターン (#PCDATA)>
<!ELEMENT 孔内水平載荷試験_初期圧 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 孔内水平載荷試験_降伏圧 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 孔内水平載荷試験_変形係数 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 孔内水平載荷試験_割線弾性係数 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 孔内水平載荷試験_接線弾性係数 (#PCDATA)>

```

```

<!--*****-->
<!--          透水試験          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 透水試験 (透水試験_上端深度, 透水試験_下端深度, 透水試験_試験コード, 透水試験_試験方法?, 透水試験_透水係数)>
<!ELEMENT 透水試験_上端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 透水試験_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 透水試験_試験コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 透水試験_試験方法 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 透水試験_透水係数 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          P 波試験          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT P 波試験 (P 波試験_上端深度, P 波試験_下端深度, P 波試験_起振方式?, P 波試験_速度)>
<!ELEMENT P 波試験_上端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT P 波試験_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT P 波試験_起振方式 (#PCDATA)>
<!ELEMENT P 波試験_速度 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          S 波試験          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT S 波試験 (S 波試験_上端深度, S 波試験_下端深度, S 波試験_起振方式?, S 波試験_速度)>
<!ELEMENT S 波試験_上端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT S 波試験_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT S 波試験_起振方式 (#PCDATA)>
<!ELEMENT S 波試験_速度 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          その他原位置試験      -->
<!--*****-->
<!ELEMENT その他原位置試験 (その他原位置試験_試験名, その他原位置試験_上端深度, その他原位置試験_下端深度, その他原位置試験_試験結果)>
<!ELEMENT その他原位置試験_試験名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT その他原位置試験_上端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT その他原位置試験_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT その他原位置試験_試験結果 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          試料採取          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 試料採取 (試料採取_上端深度, 試料採取_下端深度, 試料採取_試料番号, 試料採取_採取方法コード, 試料採取_採取方法?, 試料採取_試験名*)>
<!ELEMENT 試料採取_上端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試料採取_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試料採取_試料番号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試料採取_採取方法コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試料採取_採取方法 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試料採取_試験名 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          地盤材料の工学的分類      -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 地盤材料の工学的分類 (地盤分類_下端深度, 地盤分類_工学的分類記号?)>
<!ELEMENT 地盤分類_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 地盤分類_工学的分類記号 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          地質時代          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 地質時代 (地質時代_上端深度, 地質時代_下端深度, 地質時代_コード, 地質時代_時代名?)>
<!ELEMENT 地質時代_上端深度 (#PCDATA)>

```

```

<!ELEMENT 地質時代_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 地質時代_コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 地質時代_時代名 (#PCDATA)>

<!--*****地層岩体区分*****-->
<!--      地層岩体区分      -->
<!--*****地層岩体区分*****-->
<!ELEMENT 地層岩体区分 (地層岩体区分_上端深度, 地層岩体区分_下端深度, 地層岩体区分_地層岩体名?)>
  <!ELEMENT 地層岩体区分_上端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 地層岩体区分_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 地層岩体区分_地層岩体名 (#PCDATA)>

<!--*****孔内水位*****-->
<!--      孔内水位      -->
<!--*****孔内水位*****-->
<!ELEMENT 孔内水位 (孔内水位_測定年月日, 孔内水位_掘削状況コード, 孔内水位_掘削状況?, 孔内水位_孔内水位, 孔内水位_水位種別コード?, 孔内水位_水位種別備考?)>
  <!ELEMENT 孔内水位_測定年月日 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 孔内水位_掘削状況コード (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 孔内水位_掘削状況 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 孔内水位_孔内水位 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 孔内水位_水位種別コード (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 孔内水位_水位種別備考 (#PCDATA)>

<!--*****掘削工程*****-->
<!--      掘削工程      -->
<!--*****掘削工程*****-->
<!ELEMENT 掘削工程 (掘削工程_測定年月日, 掘削工程_掘進深度, 掘削工程_ケーシング下端深度?)>
  <!ELEMENT 掘削工程_測定年月日 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 掘削工程_掘進深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 掘削工程_ケーシング下端深度 (#PCDATA)>

<!--*****孔径孔壁保護*****-->
<!--      孔径孔壁保護      -->
<!--*****孔径孔壁保護*****-->
<!ELEMENT 孔径孔壁保護 (孔径孔壁保護_下端深度, 孔径孔壁保護_孔径, 孔径孔壁保護_孔壁保護コード?, 孔径孔壁保護_孔壁保護方法?, 孔径孔壁保護_孔壁保護実施理由?)>
  <!ELEMENT 孔径孔壁保護_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 孔径孔壁保護_孔径 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 孔径孔壁保護_孔壁保護コード (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 孔径孔壁保護_孔壁保護方法 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 孔径孔壁保護_孔壁保護実施理由 (#PCDATA)>

<!--*****掘進速度*****-->
<!--      掘進速度      -->
<!--*****掘進速度*****-->
<!ELEMENT 掘進速度 (掘進速度_下端深度, 掘進速度_掘進速度)>
  <!ELEMENT 掘進速度_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 掘進速度_掘進速度 (#PCDATA)>

<!--*****コアチューブビット*****-->
<!--      コアチューブビット      -->
<!--*****コアチューブビット*****-->
<!ELEMENT コアチューブビット (コアチューブビット_下端深度, コアチューブビット_コアチューブ名?, コアチューブビット_ビット名?)>
  <!ELEMENT コアチューブビット_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT コアチューブビット_コアチューブ名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT コアチューブビット_ビット名 (#PCDATA)>

<!--*****給圧条件*****-->
<!--      納圧条件      -->
<!--*****納圧条件*****-->
<!ELEMENT 納圧条件 (納圧条件_下端深度, 納圧条件_納圧)>

```

```

<!ELEMENT 紙圧条件_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 紙圧条件_紙圧 (#PCDATA)>

<!--*****回転数*****-->
<!--      回転数      -->
<!--*****回転数*****-->
<!ELEMENT 回転数 (回転数_下端深度, 回転数_回転数)>
<!ELEMENT 回転数_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 回転数_回転数 (#PCDATA)>

<!--*****送水条件*****-->
<!--      送水条件      -->
<!--*****送水条件*****-->
<!ELEMENT 送水条件 (送水条件_下端深度, 送水条件_送水圧, 送水条件_送水量, 送水条件_排水量, 送水条件_送水種類コード, 送水条件_送水種類?)>
<!ELEMENT 送水条件_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 送水条件_送水圧 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 送水条件_送水量 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 送水条件_排水量 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 送水条件_送水種類コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 送水条件_送水種類 (#PCDATA)>

<!--*****断層破碎帯区分*****-->
<!--      断層破碎帯区分      -->
<!--*****断層破碎帯区分*****-->
<!ELEMENT 断層破碎帯区分 (断層破碎帯区分_上端深度, 断層破碎帯区分_下端深度, 断層破碎帯区分_性状コード, 断層破碎帯区分_性状?, 断層破碎帯区分_備考?)>
<!ELEMENT 断層破碎帯区分_上端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 断層破碎帯区分_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 断層破碎帯区分_性状コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 断層破碎帯区分_性状 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 断層破碎帯区分_備考 (#PCDATA)>

<!--*****コア採取率*****-->
<!--      コア採取率      -->
<!--*****コア採取率*****-->
<!ELEMENT コア採取率 (コア採取率_下端深度, コア採取率_採取率)>
<!ELEMENT コア採取率_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT コア採取率_採取率 (#PCDATA)>

<!--*****最大コア長*****-->
<!--      最大コア長      -->
<!--*****最大コア長*****-->
<!ELEMENT 最大コア長 (最大コア長_下端深度, 最大コア長_コア長)>
<!ELEMENT 最大コア長_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 最大コア長_コア長 (#PCDATA)>

<!--*****RQD*****-->
<!--      RQD      -->
<!--*****RQD*****-->
<!ELEMENT RQD (RQD_下端深度, RQD_RQD?)>
<!ELEMENT RQD_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT RQD_RQD (#PCDATA)>

<!--*****岩級区分判定表*****-->
<!--      岩級区分判定表      -->
<!--*****岩級区分判定表*****-->
<!-- 岩級区分_項目名のデータ数と岩級区分_説明のデータ数は一致させること。-->
<!--*****岩級区分判定表*****-->
<!ELEMENT 岩級区分判定表 (岩級区分判定表_項目名*, 岩級区分判定表_判定*)>
<!ELEMENT 岩級区分判定表_項目名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 岩級区分判定表_判定 (岩級区分判定表_コード, 岩級区分判定表_記号, 岩級区分判定表_説明*)>
<!ELEMENT 岩級区分判定表_コード (#PCDATA)>

```

```
<!ELEMENT 岩級区分判定表_記号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 岩級区分判定表_説明 (#PCDATA)>

<!--*****岩級区分*****-->
<!--      岩級区分      -->
<!--*****岩級区分*****-->
<!ELEMENT 岩級区分 (岩級区分_下端深度, 岩級区分_岩級区分)>
  <!ELEMENT 岩級区分_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 岩級区分_岩級区分 (#PCDATA)>

<!--*****保孔管*****-->
<!--      保孔管      -->
<!--*****保孔管*****-->
<!ELEMENT 保孔管 (保孔管_下端深度, 保孔管_種別コード, 保孔管_備考?)>
  <!ELEMENT 保孔管_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 保孔管_種別コード (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 保孔管_備考 (#PCDATA)>

<!--*****計測機器*****-->
<!--      計測機器      -->
<!--*****計測機器*****-->
<!ELEMENT 計測機器 (計測機器_上端深度, 計測機器_下端深度, 計測機器_機器種別, 計測機器_備考?)>
  <!ELEMENT 計測機器_上端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 計測機器_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 計測機器_機器種別 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 計測機器_備考 (#PCDATA)>

<!--*****地下水検層試験*****-->
<!--      地下水検層試験      -->
<!--*****地下水検層試験*****-->
<!ELEMENT 地下水検層試験 (地下水検層試験_試験番号, 地下水検層試験_上端深度, 地下水検層試験_下端深度,
地下水検層試験_掘削深度, 地下水検層試験_孔内水位, 地下水検層試験_試験方法コード, 地下水検層試験_電解質溶液濃度, 地下水検層試験_測定時間*)>
  <!ELEMENT 地下水検層試験_試験番号 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 地下水検層試験_上端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 地下水検層試験_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 地下水検層試験_掘削深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 地下水検層試験_孔内水位 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 地下水検層試験_試験方法コード (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 地下水検層試験_電解質溶液濃度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 地下水検層試験_測定時間 (#PCDATA)>

<!--*****地下水検層試験詳細データ*****-->
<!--      地下水検層試験詳細データ      -->
<!--*****地下水検層試験詳細データ*****-->
<!ELEMENT 地下水検層試験詳細データ (地下水検層試験詳細データ_試験番号, 地下水検層試験詳細データ_測定深度, 地下水検層試験詳細データ_比抵抗値*)>
  <!ELEMENT 地下水検層試験詳細データ_試験番号 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 地下水検層試験詳細データ_測定深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 地下水検層試験詳細データ_比抵抗値 (#PCDATA)>

<!--*****地下水検層試験判定結果*****-->
<!--      地下水検層試験判定結果      -->
<!--*****地下水検層試験判定結果*****-->
<!ELEMENT 地下水検層試験判定結果 (地下水検層試験判定結果_上端深度, 地下水検層試験判定結果_下端深度,
地下水検層試験判定結果_地下水検層結果)>
  <!ELEMENT 地下水検層試験判定結果_上端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 地下水検層試験判定結果_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 地下水検層試験判定結果_地下水検層結果 (#PCDATA)>

<!--*****備考*****-->
<!--      備考      -->
<!--*****備考*****-->
```

```
<!ELEMENT 備考 (備考_タイトル, 備考_上端深度, 備考_下端深度, 備考_備考内容)>
<!ELEMENT 備考_タイトル (#PCDATA)>
<!ELEMENT 備考_上端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 備考_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 備考_備考内容 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--    フリー情報      -->
<!--*****-->
<!ELEMENT フリー情報 (#PCDATA)>
```

5 ポーリング交換用データの XML 記入例

ポーリング交換用データ(BEDnnnn.XML)の記入例を以下に示す。なお、サンプル XML ファイルは、N N - C A L S のホームページ(<http://www.nncals.jp/>)から入手できる。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE ポーリング情報 SYSTEM "BED0210.DTD">

<ポーリング情報 DTD_version="2.10">

<標題情報>
<調査基本情報>
<事業工事名>〇〇農政局〇〇〇〇事業</事業工事名>
<調査名>〇〇幹線用水路地質調査業務</調査名>
<調査目的>15</調査目的>
<調査対象>08</調査対象>
<ポーリング名>B-2</ポーリング名>
<ポーリング総数>10</ポーリング総数>
<ポーリング連番>1</ポーリング連番>
</調査基本情報>
<経度緯度情報>
<経度_度>135</経度_度>
<経度_分>49</経度_分>
<経度_秒>58.2000</経度_秒>
<緯度_度>34</緯度_度>
<緯度_分>59</緯度_分>
<緯度_秒>53.2000</緯度_秒>
<取得方法コード>02</取得方法コード>
<取得方法説明>1,000 分の 1 地形図を 0.1mm 単位で読み取り</取得方法説明>
<読み取精度コード>1</読み取精度コード>
<測地系>0</測地系>
</経度緯度情報>
<ローカル座標>
<座標定義>X</座標定義>
<座標>3000.000</座標>
</ローカル座標>
<ローカル座標>
<座標定義>Y</座標定義>
<座標>4000.000</座標>
</ローカル座標>
<ローカル座標>
<座標定義>D.L.</座標定義>
<座標>50.00</座標>
</ローカル座標>
<調査位置>
<調査位置住所>〇〇県〇〇郡〇〇町字〇〇</調査位置住所>
<コード1次>5339</コード1次>
<コード2次>65</コード2次>
<コード3次>43</コード3次>
</調査位置>
<発注機関>
<発注機関名称>〇〇農政局〇〇〇〇事業所</発注機関名称>
<テクリスコード>03006007</テクリスコード>
</発注機関>
<調査期間>
<調査期間_開始年月日>1999-05-01</調査期間_開始年月日>
<調査期間_終了年月日>1999-05-20</調査期間_終了年月日>
</調査期間>
<調査会社>
<調査会社_名称>株式会社〇〇コンサルタンツ</調査会社_名称>
<調査会社_TEL>012-3455-6789</調査会社_TEL>
```

<調査会社_主任技師>〇〇〇〇</調査会社_主任技師>
<調査会社_現場代理人>△△△△△△</調査会社_現場代理人>
<調査会社_コア鑑定者>××××</調査会社_コア鑑定者>
<調査会社_ボーリング責任者>□□□□</調査会社_ボーリング責任者>
</調査会社>
<ボーリング基本情報>
<孔口標高>0.23</孔口標高>
<総掘進長>23.00</総掘進長>
<柱状図様式>1</柱状図様式>
<掘進角度>15.00</掘進角度>
<掘進方向>10.00</掘進方向>
<地盤勾配>15.00</地盤勾配>
</ボーリング基本情報>
<試錐機>
<試錐機_名称>〇〇〇〇</試錐機_名称>
<試錐機_能力>150</試錐機_能力>
<試錐機_方法>1</試錐機_方法>
</試錐機>
<エンジン>
<エンジン_名称>△△△△</エンジン_名称>
<エンジン_能力></エンジン_能力>
<エンジン_単位></エンジン_単位>
</エンジン>
<ハンマー落下用具>
<ハンマー落下用具_コード>2</ハンマー落下用具_コード>
<ハンマー落下用具_名称></ハンマー落下用具_名称>
</ハンマー落下用具>
<N値記録用具>
<N値記録用具_コード>2</N値記録用具_コード>
<N値記録用具_名称></N値記録用具_名称>
</N値記録用具>
<ポンプ>
<ポンプ_名称>×××</ポンプ_名称>
<ポンプ_能力></ポンプ_能力>
<ポンプ_単位></ポンプ_単位>
</ポンプ>
<権種類>
<権種類コード>記入する必要なし</権種類コード>
<権種類名称>記入する必要なし</権種類名称>
</権種類>
</標題情報>
<コア情報>
<土質岩種区分>
<土質岩種区分_下端深度>1.80</土質岩種区分_下端深度>
<土質岩種区分_土質岩種区分1>埋土</土質岩種区分_土質岩種区分1>
<土質岩種区分_土質岩種記号1>FI</土質岩種区分_土質岩種記号1>
<土質岩種区分_分類コード1>09500</土質岩種区分_分類コード1>
<土質岩種区分_土質岩種区分2></土質岩種区分_土質岩種区分2>
<土質岩種区分_土質岩種記号2></土質岩種区分_土質岩種記号2>
<土質岩種区分_分類コード2></土質岩種区分_分類コード2>
</土質岩種区分>
<土質岩種区分>
<土質岩種区分_下端深度>3.00</土質岩種区分_下端深度>
<土質岩種区分_土質岩種区分1>シルト質砂</土質岩種区分_土質岩種区分1>
<土質岩種区分_土質岩種記号1>SM</土質岩種区分_土質岩種記号1>
<土質岩種区分_分類コード1>02130</土質岩種区分_分類コード1>
<土質岩種区分_土質岩種区分2></土質岩種区分_土質岩種区分2>
<土質岩種区分_土質岩種記号2></土質岩種区分_土質岩種記号2>
<土質岩種区分_分類コード2></土質岩種区分_分類コード2>
</土質岩種区分>
<土質岩種区分>
<土質岩種区分_下端深度>7.40</土質岩種区分_下端深度>
<土質岩種区分_土質岩種区分1>シルト混じり砂</土質岩種区分_土質岩種区分1>

<土質岩種区分_土質岩種記号 1>WR</土質岩種区分_土質岩種記号 1>
<土質岩種区分_分類コード 1>07300</土質岩種区分_分類コード 1>
<土質岩種区分_土質岩種区分 2></土質岩種区分_土質岩種区分 2>
<土質岩種区分_土質岩種記号 2></土質岩種区分_土質岩種記号 2>
<土質岩種区分_分類コード 2></土質岩種区分_分類コード 2>
</土質岩種区分>
<色調>
<色調_下端深度>1. 80</色調_下端深度>
<色調_色調名>黄褐色</色調_色調名>
</色調>
<色調>
<色調_下端深度>3. 00</色調_下端深度>
<色調_色調名>黒灰</色調_色調名>
</色調>
<色調>
<色調_下端深度>7. 40</色調_下端深度>
<色調_色調名>暗灰</色調_色調名>
</色調>
<色調>
<色調_下端深度>10. 60</色調_下端深度>
<色調_色調名>暗灰</色調_色調名>
</色調>
<色調>
<色調_下端深度>22. 45</色調_下端深度>
<色調_色調名>暗緑灰</色調_色調名>
</色調>
<色調>
<色調_下端深度>23. 70</色調_下端深度>
<色調_色調名>灰</色調_色調名>
</色調>
<色調>
<色調_下端深度>24. 55</色調_下端深度>
<色調_色調名>暗灰</色調_色調名>
</色調>
<色調>
<色調_下端深度>27. 95</色調_下端深度>
<色調_色調名>淡灰</色調_色調名>
</色調>
<色調>
<色調_下端深度>30. 15</色調_下端深度>
<色調_色調名>淡灰</色調_色調名>
</色調>
<観察記事>
<観察記事_上端深度>0. 00</観察記事_上端深度>
<観察記事_下端深度>1. 80</観察記事_下端深度>
<観察記事_記事>含水量少ない。¥n 木片混入。</観察記事_記事>
</観察記事>
<観察記事>
<観察記事_上端深度>1. 80</観察記事_上端深度>
<観察記事_下端深度>3. 00</観察記事_下端深度>
<観察記事_記事>含水量多い。¥n 腐植物混入。</観察記事_記事>
</観察記事>
<観察記事>
<観察記事_上端深度>3. 00</観察記事_上端深度>
<観察記事_下端深度>7. 40</観察記事_下端深度>
<観察記事_記事>含水量多い。¥n 腐植物混入。¥n 部分的に砂を挟む。</観察記事_記事>
</観察記事>
<観察記事>
<観察記事_上端深度>7. 40</観察記事_上端深度>
<観察記事_下端深度>10. 60</観察記事_下端深度>
<観察記事_記事>含水量多い。¥n 所々、腐植物混入。</観察記事_記事>
</観察記事>
<観察記事>

<観察記事_上端深度>10.60</観察記事_上端深度>
<観察記事_下端深度>22.45</観察記事_下端深度>
<観察記事_記事>含水量中位。¥n部分的に凝固している。</観察記事_記事>
</観察記事>
<観察記事>
<観察記事_上端深度>22.45</観察記事_上端深度>
<観察記事_下端深度>23.70</観察記事_下端深度>
<観察記事_記事>含水量中位。¥n部分的にシルトを挟む。</観察記事_記事>
</観察記事>
<観察記事>
<観察記事_上端深度>23.70</観察記事_上端深度>
<観察記事_下端深度>24.55</観察記事_下端深度>
<観察記事_記事>含水量中位。¥n部分的に砂を挟む。</観察記事_記事>
</観察記事>
<観察記事>
<観察記事_上端深度>24.55</観察記事_上端深度>
<観察記事_下端深度>27.95</観察記事_下端深度>
<観察記事_記事>砂岩</観察記事_記事>
</観察記事>
<観察記事>
<観察記事_上端深度>27.95</観察記事_上端深度>
<観察記事_下端深度>30.15</観察記事_下端深度>
<観察記事_記事>シルト岩</観察記事_記事>
</観察記事>
<観察記事枠線>
<観察記事枠線_下端深度>1.80</観察記事枠線_下端深度>
</観察記事枠線>
<観察記事枠線>
<観察記事枠線_下端深度>3.00</観察記事枠線_下端深度>
</観察記事枠線>
<観察記事枠線>
<観察記事枠線_下端深度>7.40</観察記事枠線_下端深度>
</観察記事枠線>
<観察記事枠線>
<観察記事枠線_下端深度>10.60</観察記事枠線_下端深度>
</観察記事枠線>
<観察記事枠線>
<観察記事枠線_下端深度>22.45</観察記事枠線_下端深度>
</観察記事枠線>
<観察記事枠線>
<観察記事枠線_下端深度>23.70</観察記事枠線_下端深度>
</観察記事枠線>
<観察記事枠線>
<観察記事枠線_下端深度>24.55</観察記事枠線_下端深度>
</観察記事枠線>
<観察記事枠線>
<観察記事枠線_下端深度>27.95</観察記事枠線_下端深度>
</観察記事枠線>
<観察記事枠線>
<観察記事枠線_下端深度>30.15</観察記事枠線_下端深度>
</観察記事枠線>
<標準貫入試験>
<標準貫入試験_開始深度>1.15</標準貫入試験_開始深度>
<標準貫入試験_0_10 打撃回数>1</標準貫入試験_0_10 打撃回数>
<標準貫入試験_0_10 貫入量>15</標準貫入試験_0_10 貫入量>
<標準貫入試験_10_20 打撃回数>1</標準貫入試験_10_20 打撃回数>
<標準貫入試験_10_20 貫入量>16</標準貫入試験_10_20 貫入量>
<標準貫入試験_20_30 打撃回数>1</標準貫入試験_20_30 打撃回数>
<標準貫入試験_20_30 貫入量>14</標準貫入試験_20_30 貫入量>
<標準貫入試験_合計打撃回数>3</標準貫入試験_合計打撃回数>
<標準貫入試験_合計貫入量>45</標準貫入試験_合計貫入量>
<標準貫入試験_備考></標準貫入試験_備考>
</標準貫入試験>

<標準貫入試験詳細データ_備考></標準貫入試験詳細データ_備考>
<標準貫入試験詳細データ_打撃>
<標準貫入試験詳細データ_打撃>
<標準貫入試験詳細データ_打撃回数>2</標準貫入試験詳細データ_打撃回数>
<標準貫入試験詳細データ_貫入量>120</標準貫入試験詳細データ_貫入量>
<標準貫入試験詳細データ_累積貫入量>240</標準貫入試験詳細データ_累積貫入量>
<標準貫入試験詳細データ_備考></標準貫入試験詳細データ_備考>
</標準貫入試験詳細データ_打撃>
<標準貫入試験詳細データ_打撃>
<標準貫入試験詳細データ_打撃回数>3</標準貫入試験詳細データ_打撃回数>
<標準貫入試験詳細データ_貫入量>50</標準貫入試験詳細データ_貫入量>
<標準貫入試験詳細データ_累積貫入量>290</標準貫入試験詳細データ_累積貫入量>
<標準貫入試験詳細データ_備考></標準貫入試験詳細データ_備考>
</標準貫入試験詳細データ_打撃>
<標準貫入試験詳細データ_打撃>
<標準貫入試験詳細データ_打撃回数>4</標準貫入試験詳細データ_打撃回数>
<標準貫入試験詳細データ_貫入量>110</標準貫入試験詳細データ_貫入量>
<標準貫入試験詳細データ_累積貫入量>400</標準貫入試験詳細データ_累積貫入量>
<標準貫入試験詳細データ_備考></標準貫入試験詳細データ_備考>
</標準貫入試験詳細データ_打撃>
</標準貫入試験詳細データ>
<ルジオン試験>
<ルジオン試験_試験番号>0001</ルジオン試験_試験番号>
<ルジオン試験_上端深度>3.00</ルジオン試験_上端深度>
<ルジオン試験_下端深度>8.00</ルジオン試験_下端深度>
<ルジオン試験_圧力管理方法コード>1</ルジオン試験_圧力管理方法コード>
<ルジオン試験_圧力管理方法></ルジオン試験_圧力管理方法>
<ルジオン試験_圧力最大スケール>1</ルジオン試験_圧力最大スケール>
<ルジオン試験_注入量最大スケール>20</ルジオン試験_注入量最大スケール>
<ルジオン試験_圧力開始点>0.200</ルジオン試験_圧力開始点>
<ルジオン試験_注入量開始点>3.30</ルジオン試験_注入量開始点>
<ルジオン試験_ルジオン値区分>2</ルジオン試験_ルジオン値区分>
<ルジオン試験_ルジオン値>11.20</ルジオン試験_ルジオン値>
<ルジオン試験_限界圧力>0.720</ルジオン試験_限界圧力>
</ルジオン試験>
<ルジオン試験>
<ルジオン試験_試験番号>0002</ルジオン試験_試験番号>
<ルジオン試験_上端深度>27.95</ルジオン試験_上端深度>
<ルジオン試験_下端深度>30.15</ルジオン試験_下端深度>
<ルジオン試験_圧力管理方法コード>1</ルジオン試験_圧力管理方法コード>
<ルジオン試験_圧力管理方法></ルジオン試験_圧力管理方法>
<ルジオン試験_圧力最大スケール>1</ルジオン試験_圧力最大スケール>
<ルジオン試験_注入量最大スケール>20</ルジオン試験_注入量最大スケール>
<ルジオン試験_圧力開始点>0.200</ルジオン試験_圧力開始点>
<ルジオン試験_注入量開始点>2.30</ルジオン試験_注入量開始点>
<ルジオン試験_ルジオン値区分>2</ルジオン試験_ルジオン値区分>
<ルジオン試験_ルジオン値>15.70</ルジオン試験_ルジオン値>
<ルジオン試験_限界圧力>0.600</ルジオン試験_限界圧力>
</ルジオン試験>
<ルジオン試験詳細データ>
<ルジオン試験詳細データ_試験番号>0001</ルジオン試験詳細データ_試験番号>
<ルジオン試験詳細データ_有効圧力>0.200</ルジオン試験詳細データ_有効圧力>
<ルジオン試験詳細データ_注入量>3.30</ルジオン試験詳細データ_注入量>
</ルジオン試験詳細データ>
<ルジオン試験詳細データ>
<ルジオン試験詳細データ_試験番号>0001</ルジオン試験詳細データ_試験番号>
<ルジオン試験詳細データ_有効圧力>0.400</ルジオン試験詳細データ_有効圧力>
<ルジオン試験詳細データ_注入量>5.50</ルジオン試験詳細データ_注入量>
</ルジオン試験詳細データ>
<ルジオン試験詳細データ>
<ルジオン試験詳細データ_試験番号>0001</ルジオン試験詳細データ_試験番号>
<ルジオン試験詳細データ_有効圧力>0.600</ルジオン試験詳細データ_有効圧力>
<ルジオン試験詳細データ_注入量>7.70</ルジオン試験詳細データ_注入量>


```
<相対密度_コード>3</相対密度_コード>
<相対密度_状態></相対密度_状態>
<相対稠度_コード>2</相対稠度_コード>
<相対稠度_状態></相対稠度_状態>
</相対密度稠度>
<相対密度稠度>
<相対密度稠度_下端深度>24.55</相対密度稠度_下端深度>
<相対密度_コード>4</相対密度_コード>
<相対密度_状態></相対密度_状態>
<相対稠度_コード>3</相対稠度_コード>
<相対稠度_状態></相対稠度_状態>
</相対密度稠度>
<相対密度稠度>
<相対密度稠度_下端深度>27.95</相対密度稠度_下端深度>
<相対密度_コード>5</相対密度_コード>
<相対密度_状態></相対密度_状態>
<相対稠度_コード>4</相対稠度_コード>
<相対稠度_状態></相対稠度_状態>
</相対密度稠度>
<相対密度稠度>
<相対密度稠度_下端深度>30.15</相対密度稠度_下端深度>
<相対密度_コード>9</相対密度_コード>
<相対密度_状態>○○○○</相対密度_状態>
<相対稠度_コード>9</相対稠度_コード>
<相対稠度_状態>○○○○</相対稠度_状態>
</相対密度稠度>
<硬軟区分判定表>
<硬軟区分判定表_コード>910</硬軟区分判定表_コード>
<硬軟区分判定表_記号>A</硬軟区分判定表_記号>
<硬軟区分判定表_区分>中硬</硬軟区分判定表_区分>
<硬軟区分判定表_説明>ハンマーで容易に碎ける。</硬軟区分判定表_説明>
</硬軟区分判定表>
<硬軟区分判定表>
<硬軟区分判定表_コード>920</硬軟区分判定表_コード>
<硬軟区分判定表_記号>B</硬軟区分判定表_記号>
<硬軟区分判定表_区分>軟1</硬軟区分判定表_区分>
<硬軟区分判定表_説明>ピックでキズがつく。</硬軟区分判定表_説明>
</硬軟区分判定表>
<硬軟区分判定表>
<硬軟区分判定表_コード>930</硬軟区分判定表_コード>
<硬軟区分判定表_記号>C</硬軟区分判定表_記号>
<硬軟区分判定表_区分>軟2</硬軟区分判定表_区分>
<硬軟区分判定表_説明>カッターで削れる。</硬軟区分判定表_説明>
</硬軟区分判定表>
<硬軟区分判定表>
<硬軟区分判定表_コード>940</硬軟区分判定表_コード>
<硬軟区分判定表_記号>D</硬軟区分判定表_記号>
<硬軟区分判定表_区分>極軟</硬軟区分判定表_区分>
<硬軟区分判定表_説明>指先でへこむ。</硬軟区分判定表_説明>
</硬軟区分判定表>
<硬軟区分>
<硬軟区分_下端深度>1.60</硬軟区分_下端深度>
<硬軟区分_硬軟区分>940</硬軟区分_硬軟区分>
</硬軟区分>
<硬軟区分>
<硬軟区分_下端深度>2.00</硬軟区分_下端深度>
<硬軟区分_硬軟区分>930</硬軟区分_硬軟区分>
</硬軟区分>
<硬軟区分>
<硬軟区分_下端深度>2.20</硬軟区分_下端深度>
<硬軟区分_硬軟区分>930</硬軟区分_硬軟区分>
</硬軟区分>
<硬軟区分>
```

<硬軟区分_下端深度>3.90</硬軟区分_下端深度>
<硬軟区分_硬軟区分>920</硬軟区分_硬軟区分>
</硬軟区分>
<硬軟区分>
<硬軟区分_下端深度>4.16</硬軟区分_下端深度>
<硬軟区分_硬軟区分>920</硬軟区分_硬軟区分>
</硬軟区分>
<硬軟区分>
<硬軟区分_下端深度>5.50</硬軟区分_下端深度>
<硬軟区分_硬軟区分>910</硬軟区分_硬軟区分>
</硬軟区分>
<硬軟区分>
<硬軟区分_下端深度>5.80</硬軟区分_下端深度>
<硬軟区分_硬軟区分>910</硬軟区分_硬軟区分>
</硬軟区分>
<コア形状区分判定表>
<コア形状区分判定表_コード>910</コア形状区分判定表_コード>
<コア形状区分判定表_記号>I</コア形状区分判定表_記号>
<コア形状区分判定表_区分>棒状</コア形状区分判定表_区分>
<コア形状区分判定表_説明>長さが50cm以上の棒状コア。</コア形状区分判定表_説明>
</コア形状区分判定表>
<コア形状区分判定表>
<コア形状区分判定表_コード>920</コア形状区分判定表_コード>
<コア形状区分判定表_記号>II</コア形状区分判定表_記号>
<コア形状区分判定表_区分>長柱状</コア形状区分判定表_区分>
<コア形状区分判定表_説明>長さが50~20cmの棒状コア。</コア形状区分判定表_説明>
</コア形状区分判定表>
<コア形状区分判定表>
<コア形状区分判定表_コード>930</コア形状区分判定表_コード>
<コア形状区分判定表_記号>III</コア形状区分判定表_記号>
<コア形状区分判定表_区分>短柱状</コア形状区分判定表_区分>
<コア形状区分判定表_説明>長さが20~10cmの棒状~短柱状コア。</コア形状区分判定表_説明>
</コア形状区分判定表>
<コア形状区分判定表>
<コア形状区分判定表_コード>940</コア形状区分判定表_コード>
<コア形状区分判定表_記号>IV</コア形状区分判定表_記号>
<コア形状区分判定表_区分>岩片状</コア形状区分判定表_区分>
<コア形状区分判定表_説明>長さが10cm以下の短柱状から片状コアでかつコアの外周の一部が認められるもの。
</コア形状区分判定表_説明>
</コア形状区分判定表>
<コア形状区分判定表>
<コア形状区分判定表_コード>950</コア形状区分判定表_コード>
<コア形状区分判定表_記号>V</コア形状区分判定表_記号>
<コア形状区分判定表_区分>れき状</コア形状区分判定表_区分>
<コア形状区分判定表_説明>主として角レキ状のもの。</コア形状区分判定表_説明>
</コア形状区分判定表>
<コア形状区分判定表>
<コア形状区分判定表_コード>960</コア形状区分判定表_コード>
<コア形状区分判定表_記号>VI</コア形状区分判定表_記号>
<コア形状区分判定表_区分>砂状</コア形状区分判定表_区分>
<コア形状区分判定表_説明>主として砂状のもの。</コア形状区分判定表_説明>
</コア形状区分判定表>
<コア形状区分判定表>
<コア形状区分判定表_コード>970</コア形状区分判定表_コード>
<コア形状区分判定表_記号>VII</コア形状区分判定表_記号>
<コア形状区分判定表_区分>粘土状</コア形状区分判定表_区分>
<コア形状区分判定表_説明>主として粘土状のもの。</コア形状区分判定表_説明>
</コア形状区分判定表>
<コア形状区分判定表>
<コア形状区分判定表_コード>980</コア形状区分判定表_コード>
<コア形状区分判定表_記号>VIII</コア形状区分判定表_記号>
<コア形状区分判定表_区分>採取不可</コア形状区分判定表_区分>
<コア形状区分判定表_説明>コアの採取ができないもの。スライムを含む。</コア形状区分判定表_説明>

```
</コア形状区分判定表>
<コア形状区分>
<コア形状区分_下端深度>1. 60</コア形状区分_下端深度>
<コア形状区分_コア形状区分>970</コア形状区分_コア形状区分>
</コア形状区分>
<コア形状区分>
<コア形状区分_下端深度>2. 00</コア形状区分_下端深度>
<コア形状区分_コア形状区分>960</コア形状区分_コア形状区分>
</コア形状区分>
<コア形状区分>
<コア形状区分_下端深度>2. 20</コア形状区分_下端深度>
<コア形状区分_コア形状区分>950</コア形状区分_コア形状区分>
</コア形状区分>
<コア形状区分>
<コア形状区分_下端深度>3. 90</コア形状区分_下端深度>
<コア形状区分_コア形状区分>960</コア形状区分_コア形状区分>
</コア形状区分>
<コア形状区分>
<コア形状区分_下端深度>4. 16</コア形状区分_下端深度>
<コア形状区分_コア形状区分>950</コア形状区分_コア形状区分>
</コア形状区分>
<コア形状区分>
<コア形状区分_下端深度>5. 50</コア形状区分_下端深度>
<コア形状区分_コア形状区分>940</コア形状区分_コア形状区分>
</コア形状区分>
<コア形状区分>
<コア形状区分_下端深度>5. 80</コア形状区分_下端深度>
<コア形状区分_コア形状区分>950</コア形状区分_コア形状区分>
</コア形状区分>
<割れ目区分判定表>
<割れ目区分判定表_コード>011</割れ目区分判定表_コード>
<割れ目区分判定表_記号>a</割れ目区分判定表_記号>
<割れ目区分判定表_区分></割れ目区分判定表_区分>
<割れ目区分判定表_説明>密着している、あるいは分離しているが、割れ目沿いの風化・変質は認められない。
</割れ目区分判定表_説明>
</割れ目区分判定表>
<割れ目区分判定表>
<割れ目区分判定表_コード>012</割れ目区分判定表_コード>
<割れ目区分判定表_記号>b</割れ目区分判定表_記号>
<割れ目区分判定表_区分></割れ目区分判定表_区分>
<割れ目区分判定表_説明>割れ目沿いの風化・変質は認められるが、岩片はほとんど風化・変質していない。
</割れ目区分判定表_説明>
</割れ目区分判定表>
<割れ目区分判定表>
<割れ目区分判定表_コード>013</割れ目区分判定表_コード>
<割れ目区分判定表_記号>c</割れ目区分判定表_記号>
<割れ目区分判定表_区分></割れ目区分判定表_区分>
<割れ目区分判定表_説明>割れ目沿いの岩片に風化・変質が認められ、軟質となっている。
</割れ目区分判定表_説明>
</割れ目区分判定表>
<割れ目区分判定表>
<割れ目区分判定表_コード>014</割れ目区分判定表_コード>
<割れ目区分判定表_記号>d</割れ目区分判定表_記号>
<割れ目区分判定表_区分></割れ目区分判定表_区分>
<割れ目区分判定表_説明>割れ目として認識できない角レキ状、砂状、粘土状コア。</割れ目区分判定表_説明>
</割れ目区分判定表>
<割れ目区分>
<割れ目区分_下端深度>3. 90</割れ目区分_下端深度>
<割れ目区分_割れ目区分>014</割れ目区分_割れ目区分>
</割れ目区分>
<割れ目区分>
<割れ目区分_下端深度>4. 16</割れ目区分_下端深度>
<割れ目区分_割れ目区分>013</割れ目区分_割れ目区分>
```

</割れ目区分>
<割れ目区分>
<割れ目区分_下端深度>7.00</割れ目区分_下端深度>
<割れ目区分_割れ目区分>012</割れ目区分_割れ目区分>
</割れ目区分>
<割れ目区分>
<割れ目区分_下端深度>8.90</割れ目区分_下端深度>
<割れ目区分_割れ目区分>014</割れ目区分_割れ目区分>
</割れ目区分>
<風化区分判定表>
<風化区分判定表_コード>011</風化区分判定表_コード>
<風化区分判定表_記号> α </風化区分判定表_記号>
<風化区分判定表_区分></風化区分判定表_区分>
<風化区分判定表_説明>非常に新鮮である。造岩鉱物の変質はまったくない。</風化区分判定表_説明>
</風化区分判定表>
<風化区分判定表>
<風化区分判定表_コード>012</風化区分判定表_コード>
<風化区分判定表_記号> β </風化区分判定表_記号>
<風化区分判定表_区分></風化区分判定表_区分>
<風化区分判定表_説明>新鮮である。有色鉱物の周辺に赤褐色化がある。長石の変質はない。
</風化区分判定表_説明>
</風化区分判定表>
<風化区分判定表>
<風化区分判定表_コード>013</風化区分判定表_コード>
<風化区分判定表_記号> γ </風化区分判定表_記号>
<風化区分判定表_区分></風化区分判定表_区分>
<風化区分判定表_説明>弱風化している。有色鉱物の酸化汚染がある。長石の部分的な変質。(白色化)がある。
</風化区分判定表_説明>
</風化区分判定表>
<風化区分判定表>
<風化区分判定表_コード>014</風化区分判定表_コード>
<風化区分判定表_記号> δ </風化区分判定表_記号>
<風化区分判定表_区分></風化区分判定表_区分>
<風化区分判定表_説明>風化している。有色鉱物が黃金色あるいは周辺が褐色粘土化している。長石の大部分が
変質している。</風化区分判定表_説明>
</風化区分判定表>
<風化区分判定表>
<風化区分判定表_コード>015</風化区分判定表_コード>
<風化区分判定表_記号> ε </風化区分判定表_記号>
<風化区分判定表_区分></風化区分判定表_区分>
<風化区分判定表_説明>強風化している。石英及び一部の長石を除きほとんど変質し原岩組織は失われている。
</風化区分判定表_説明>
</風化区分判定表>
<風化区分>
<風化区分_下端深度>1.05</風化区分_下端深度>
<風化区分_風化区分>015</風化区分_風化区分>
</風化区分>
<風化区分>
<風化区分_下端深度>4.04</風化区分_下端深度>
<風化区分_風化区分>014</風化区分_風化区分>
</風化区分>
<風化区分>
<風化区分_下端深度>8.03</風化区分_下端深度>
<風化区分_風化区分>013</風化区分_風化区分>
</風化区分>
<変質区分判定表>
<変質区分判定表_コード>011</変質区分判定表_コード>
<変質区分判定表_記号>1</変質区分判定表_記号>
<変質区分判定表_区分>非変質</変質区分判定表_区分>
<変質区分判定表_説明>肉眼的に変質鉱物の存在が認められないもの。</変質区分判定表_説明>
</変質区分判定表>
<変質区分判定表>
<変質区分判定表_コード>012</変質区分判定表_コード>

<変質区分判定表_記号> 2</変質区分判定表_記号>
<変質区分判定表_区分>弱変質</変質区分判定表_区分>
<変質区分判定表_説明>原岩組織を完全に残し、変質程度(脱色)が低いもの。あるいは非変質部の割合が高いものの(肉眼で50%以上)。</変質区分判定表_説明>
</変質区分判定表>
<変質区分判定表>
<変質区分判定表_コード>013</変質区分判定表_コード>
<変質区分判定表_記号>3</変質区分判定表_記号>
<変質区分判定表_区分>中変質</変質区分判定表_区分>
<変質区分判定表_説明>肉眼で変質が進んでいると判定できるが、原岩組織を明らかに残し、原岩判定が容易なもの。または非変質部を残すもの及び網状変質部。</変質区分判定表_説明>
</変質区分判定表>
<変質区分判定表>
<変質区分判定表_コード>014</変質区分判定表_コード>
<変質区分判定表_記号>4</変質区分判定表_記号>
<変質区分判定表_区分>強変質</変質区分判定表_区分>
<変質区分判定表_説明>構成鉱物、岩片等が変質鉱物で完全置換され、原岩組織を全く～殆ど残さないもの。</変質区分判定表_説明>
</変質区分判定表>
<変質区分>
<変質区分_下端深度>7.00</変質区分_下端深度>
<変質区分_変質区分>011</変質区分_変質区分>
</変質区分>
<変質区分>
<変質区分_下端深度>8.90</変質区分_下端深度>
<変質区分_変質区分>012</変質区分_変質区分>
</変質区分>
<孔内水平載荷試験>
<孔内水平載荷試験_試験深度>10.00</孔内水平載荷試験_試験深度>
<孔内水平載荷試験_試験方法コード>02</孔内水平載荷試験_試験方法コード>
<孔内水平載荷試験_試験方法></孔内水平載荷試験_試験方法>
<孔内水平載荷試験_載荷パターン>繰り返し載荷</孔内水平載荷試験_載荷パターン>
<孔内水平載荷試験_初期圧>19.6</孔内水平載荷試験_初期圧>
<孔内水平載荷試験_降伏圧>133.3</孔内水平載荷試験_降伏圧>
<孔内水平載荷試験_変形係数>1.31E+03</孔内水平載荷試験_変形係数>
<孔内水平載荷試験_割線弾性係数>2.43E+03</孔内水平載荷試験_割線弾性係数>
<孔内水平載荷試験_接線弾性係数>3.15E+03</孔内水平載荷試験_接線弾性係数>
</孔内水平載荷試験>
<孔内水平載荷試験>
<孔内水平載荷試験_試験深度>26.30</孔内水平載荷試験_試験深度>
<孔内水平載荷試験_試験方法コード>02</孔内水平載荷試験_試験方法コード>
<孔内水平載荷試験_試験方法></孔内水平載荷試験_試験方法>
<孔内水平載荷試験_載荷パターン>繰り返し載荷</孔内水平載荷試験_載荷パターン>
<孔内水平載荷試験_初期圧>310.7</孔内水平載荷試験_初期圧>
<孔内水平載荷試験_降伏圧>1555.3</孔内水平載荷試験_降伏圧>
<孔内水平載荷試験_変形係数>2.47E+04</孔内水平載荷試験_変形係数>
<孔内水平載荷試験_割線弾性係数>4.20E+04</孔内水平載荷試験_割線弾性係数>
<孔内水平載荷試験_接線弾性係数>5.23E+04</孔内水平載荷試験_接線弾性係数>
</孔内水平載荷試験>
<透水試験>
<透水試験_上端深度>6.30</透水試験_上端深度>
<透水試験_下端深度>6.80</透水試験_下端深度>
<透水試験_試験コード>02</透水試験_試験コード>
<透水試験_試験方法></透水試験_試験方法>
<透水試験_透水係数>9.30E-04</透水試験_透水係数>
</透水試験>
<透水試験>
<透水試験_上端深度>24.80</透水試験_上端深度>
<透水試験_下端深度>25.30</透水試験_下端深度>
<透水試験_試験コード>02</透水試験_試験コード>
<透水試験_試験方法></透水試験_試験方法>
<透水試験_透水係数>2.50E-03</透水試験_透水係数>
</透水試験>

```
<透水試験>
<透水試験_上端深度>28.75</透水試験_上端深度>
<透水試験_下端深度>29.25</透水試験_下端深度>
<透水試験_試験コード>02</透水試験_試験コード>
<透水試験_試験方法></透水試験_試験方法>
<透水試験_透水係数>5.30E-03</透水試験_透水係数>
</透水試験>
<P 波試験>
<P 波試験_上端深度>0.00</P 波試験_上端深度>
<P 波試験_下端深度>2.00</P 波試験_下端深度>
<P 波試験_起振方式>ハンマーによる打撃</P 波試験_起振方式>
<P 波試験_速度>100</P 波試験_速度>
</P 波試験>
<P 波試験>
<P 波試験_上端深度>2.00</P 波試験_上端深度>
<P 波試験_下端深度>4.00</P 波試験_下端深度>
<P 波試験_起振方式>ハンマーによる打撃</P 波試験_起振方式>
<P 波試験_速度>300</P 波試験_速度>
</P 波試験>
<P 波試験>
<P 波試験_上端深度>4.00</P 波試験_上端深度>
<P 波試験_下端深度>10.00</P 波試験_下端深度>
<P 波試験_起振方式>ハンマーによる打撃</P 波試験_起振方式>
<P 波試験_速度>500</P 波試験_速度>
</P 波試験>
<S 波試験>
<S 波試験_上端深度>0.00</S 波試験_上端深度>
<S 波試験_下端深度>2.00</S 波試験_下端深度>
<S 波試験_起振方式>板たたき</S 波試験_起振方式>
<S 波試験_速度>50</S 波試験_速度>
</S 波試験>
<S 波試験>
<S 波試験_上端深度>2.00</S 波試験_上端深度>
<S 波試験_下端深度>4.00</S 波試験_下端深度>
<S 波試験_起振方式>板たたき</S 波試験_起振方式>
<S 波試験_速度>500</S 波試験_速度>
</S 波試験>
<S 波試験>
<S 波試験_上端深度>4.00</S 波試験_上端深度>
<S 波試験_下端深度>10.00</S 波試験_下端深度>
<S 波試験_起振方式>板たたき</S 波試験_起振方式>
<S 波試験_速度>300</S 波試験_速度>
</S 波試験>
<その他原位置試験>
<その他原位置試験_試験名>原位置ベーンせん断試験</その他原位置試験_試験名>
<その他原位置試験_上端深度>10.00</その他原位置試験_上端深度>
<その他原位置試験_下端深度>10.84</その他原位置試験_下端深度>
<その他原位置試験_試験結果>20.4kN/m2</その他原位置試験_試験結果>
</その他原位置試験>
<試料採取>
<試料採取_上端深度>10.00</試料採取_上端深度>
<試料採取_下端深度>10.84</試料採取_下端深度>
<試料採取_試料番号>T001</試料採取_試料番号>
<試料採取_採取方法コード>200</試料採取_採取方法コード>
<試料採取_採取方法></試料採取_採取方法>
<試料採取_試験名></試料採取_試験名>
</試料採取>
<試料採取>
<試料採取_上端深度>16.00</試料採取_上端深度>
<試料採取_下端深度>16.83</試料採取_下端深度>
<試料採取_試料番号>T002</試料採取_試料番号>
<試料採取_採取方法コード>200</試料採取_採取方法コード>
<試料採取_採取方法></試料採取_採取方法>
```

```
<試料採取_試験名></試料採取_試験名>
</試料採取>
<試料採取>
<試料採取_上端深度>20. 00</試料採取_上端深度>
<試料採取_下端深度>20. 90</試料採取_下端深度>
<試料採取_試料番号>T003</試料採取_試料番号>
<試料採取_採取方法コード>200</試料採取_採取方法コード>
<試料採取_採取方法></試料採取_採取方法>
<試料採取_試験名></試料採取_試験名>
</試料採取>
<試料採取>
<試料採取_上端深度>25. 00</試料採取_上端深度>
<試料採取_下端深度>25. 50</試料採取_下端深度>
<試料採取_試料番号>T004</試料採取_試料番号>
<試料採取_採取方法コード>999</試料採取_採取方法コード>
<試料採取_採取方法>○○○○方式</試料採取_採取方法>
<試料採取_試験名>土粒子の密度試験</試料採取_試験名>
<試料採取_試験名>土の粒度試験</試料採取_試験名>
</試料採取>
<地盤材料の工学的分類>
<地盤分類_下端深度>1. 80</地盤分類_下端深度>
<地盤分類_工学的分類記号></地盤分類_工学的分類記号>
</地盤材料の工学的分類>
<地盤材料の工学的分類>
<地盤分類_下端深度>3. 00</地盤分類_下端深度>
<地盤分類_工学的分類記号>ML</地盤分類_工学的分類記号>
</地盤材料の工学的分類>
<地盤材料の工学的分類>
<地盤分類_下端深度>7. 40</地盤分類_下端深度>
<地盤分類_工学的分類記号>SF</地盤分類_工学的分類記号>
</地盤材料の工学的分類>
<地盤材料の工学的分類>
<地盤分類_下端深度>10. 60</地盤分類_下端深度>
<地盤分類_工学的分類記号>ML</地盤分類_工学的分類記号>
</地盤材料の工学的分類>
<地盤材料の工学的分類>
<地盤分類_下端深度>22. 45</地盤分類_下端深度>
<地盤分類_工学的分類記号>CL</地盤分類_工学的分類記号>
</地盤材料の工学的分類>
<地質時代>
<地質時代_上端深度>0. 00</地質時代_上端深度>
<地質時代_下端深度>24. 55</地質時代_下端深度>
<地質時代_コード>11100</地質時代_コード>
<地質時代_時代名></地質時代_時代名>
</地質時代>
<地質時代>
<地質時代_上端深度>24. 55</地質時代_上端深度>
<地質時代_下端深度>30. 15</地質時代_下端深度>
<地質時代_コード>11200</地質時代_コード>
<地質時代_時代名></地質時代_時代名>
</地質時代>
<地質時代>
<地質時代_上端深度>30. 15</地質時代_上端深度>
<地質時代_下端深度>43. 22</地質時代_下端深度>
<地質時代_コード>12210</地質時代_コード>
<地質時代_時代名></地質時代_時代名>
</地質時代>
<地質時代>
<地質時代_上端深度>43. 22</地質時代_上端深度>
<地質時代_下端深度>60. 38</地質時代_下端深度>
<地質時代_コード>12220</地質時代_コード>
<地質時代_時代名></地質時代_時代名>
</地質時代>
```

<地質時代>
<地質時代_上端深度>60.38</地質時代_上端深度>
<地質時代_下端深度>86.30</地質時代_下端深度>
<地質時代_コード>21030</地質時代_コード>
<地質時代_時代名></地質時代_時代名>
</地質時代>
<地質時代>
<地質時代_上端深度>86.30</地質時代_上端深度>
<地質時代_下端深度>90.25</地質時代_下端深度>
<地質時代_コード>99999</地質時代_コード>
<地質時代_時代名>地質時代不明</地質時代_時代名>
</地質時代>
<地層岩体区分>
<地層岩体区分_上端深度>0.00</地層岩体区分_上端深度>
<地層岩体区分_下端深度>24.55</地層岩体区分_下端深度>
<地層岩体区分_地層岩体名>○○層</地層岩体区分_地層岩体名>
</地層岩体区分>
<地層岩体区分>
<地層岩体区分_上端深度>24.55</地層岩体区分_上端深度>
<地層岩体区分_下端深度>30.15</地層岩体区分_下端深度>
<地層岩体区分_地層岩体名>△△層群</地層岩体区分_地層岩体名>
</地層岩体区分>
<孔内水位>
<孔内水位_測定年月日>2001-05-20</孔内水位_測定年月日>
<孔内水位_掘削状況コード>1</孔内水位_掘削状況コード>
<孔内水位_掘削状況></孔内水位_掘削状況>
<孔内水位_孔内水位></孔内水位_孔内水位>
<孔内水位_水位種別コード>91</孔内水位_水位種別コード>
<孔内水位_水位種別備考></孔内水位_水位種別備考>
</孔内水位>
<孔内水位>
<孔内水位_測定年月日>2001-05-21</孔内水位_測定年月日>
<孔内水位_掘削状況コード>1</孔内水位_掘削状況コード>
<孔内水位_孔内水位>5.05</孔内水位_孔内水位>
<孔内水位_水位種別コード>13</孔内水位_水位種別コード>
<孔内水位_水位種別備考></孔内水位_水位種別備考>
</孔内水位>
<掘削工程>
<掘削工程_測定年月日>2001-05-01</掘削工程_測定年月日>
<掘削工程_掘進深度>3.00</掘削工程_掘進深度>
<掘削工程_ケーシング下端深度>3.00</掘削工程_ケーシング下端深度>
</掘削工程>
<掘削工程>
<掘削工程_測定年月日>2001-05-08</掘削工程_測定年月日>
<掘削工程_掘進深度>6.00</掘削工程_掘進深度>
<掘削工程_ケーシング下端深度>6.00</掘削工程_ケーシング下端深度>
</掘削工程>
<掘削工程>
<掘削工程_測定年月日>2001-05-09</掘削工程_測定年月日>
<掘削工程_掘進深度>10.00</掘削工程_掘進深度>
<掘削工程_ケーシング下端深度>10.00</掘削工程_ケーシング下端深度>
</掘削工程>
<掘削工程>
<掘削工程_測定年月日>2001-05-10</掘削工程_測定年月日>
<掘削工程_掘進深度>15.00</掘削工程_掘進深度>
<掘削工程_ケーシング下端深度>15.00</掘削工程_ケーシング下端深度>
</掘削工程>
<掘削工程>


```
<孔径孔壁保護_孔径>66</孔径孔壁保護_孔径>
<孔径孔壁保護_孔壁保護コード></孔径孔壁保護_孔壁保護コード>
<孔径孔壁保護_孔壁保護方法></孔径孔壁保護_孔壁保護方法>
<孔径孔壁保護_孔壁保護実施理由></孔径孔壁保護_孔壁保護実施理由>
</孔径孔壁保護>
<孔径孔壁保護>
<孔径孔壁保護_下端深度>27.95</孔径孔壁保護_下端深度>
<孔径孔壁保護_孔径>66</孔径孔壁保護_孔径>
<孔径孔壁保護_孔壁保護コード></孔径孔壁保護_孔壁保護コード>
<孔径孔壁保護_孔壁保護方法></孔径孔壁保護_孔壁保護方法>
<孔径孔壁保護_孔壁保護実施理由></孔径孔壁保護_孔壁保護実施理由>
</孔径孔壁保護>
<孔径孔壁保護>
<孔径孔壁保護_下端深度>30.15</孔径孔壁保護_下端深度>
<孔径孔壁保護_孔径>66</孔径孔壁保護_孔径>
<孔径孔壁保護_孔壁保護コード></孔径孔壁保護_孔壁保護コード>
<孔径孔壁保護_孔壁保護方法></孔径孔壁保護_孔壁保護方法>
<孔径孔壁保護_孔壁保護実施理由></孔径孔壁保護_孔壁保護実施理由>
</孔径孔壁保護>
<掘進速度>
<掘進速度_下端深度>1.60</掘進速度_下端深度>
<掘進速度_掘進速度>60</掘進速度_掘進速度>
</掘進速度>
<掘進速度>
<掘進速度_下端深度>7.00</掘進速度_下端深度>
<掘進速度_掘進速度>100</掘進速度_掘進速度>
</掘進速度>
<掘進速度>
<掘進速度_下端深度>9.00</掘進速度_下端深度>
<掘進速度_掘進速度>80</掘進速度_掘進速度>
</掘進速度>
<掘進速度>
<掘進速度_下端深度>14.50</掘進速度_下端深度>
<掘進速度_掘進速度>120</掘進速度_掘進速度>
</掘進速度>
<コアチューブビット>
<コアチューブビット_下端深度>1.50</コアチューブビット_下端深度>
<コアチューブビット_コアチューブ名>シングルコアチューブ</コアチューブビット_コアチューブ名>
<コアチューブビット_ビット名>メタルクラウン</コアチューブビット_ビット名>
</コアチューブビット>
<コアチューブビット>
<コアチューブビット_下端深度>22.00</コアチューブビット_下端深度>
<コアチューブビット_コアチューブ名>ダブルコアチューブ</コアチューブビット_コアチューブ名>
<コアチューブビット_ビット名>ダイヤモンドビット</コアチューブビット_ビット名>
</コアチューブビット>
<給圧条件>
<給圧条件_下端深度>1.50</給圧条件_下端深度>
<給圧条件_給圧>1.0</給圧条件_給圧>
</給圧条件>
<給圧条件>
<給圧条件_下端深度>7.00</給圧条件_下端深度>
<給圧条件_給圧>1.5</給圧条件_給圧>
</給圧条件>
<給圧条件>
<給圧条件_下端深度>9.00</給圧条件_下端深度>
<給圧条件_給圧>1.0</給圧条件_給圧>
</給圧条件>
<給圧条件>
<給圧条件_下端深度>22.00</給圧条件_下端深度>
<給圧条件_給圧>2.0</給圧条件_給圧>
</給圧条件>
<回転数>
<回転数_下端深度>3.50</回転数_下端深度>
```

```
<回転数_回転数>120</回転数_回転数>
</回転数>
<回転数>
  <回転数_下端深度>5.20</回転数_下端深度>
  <回転数_回転数>250</回転数_回転数>
</回転数>
<回転数>
  <回転数_下端深度>7.00</回転数_下端深度>
  <回転数_回転数>300</回転数_回転数>
</回転数>
<回転数>
  <回転数_下端深度>14.50</回転数_下端深度>
  <回転数_回転数>350</回転数_回転数>
</回転数>
<送水条件>
  <送水条件_下端深度>3.50</送水条件_下端深度>
  <送水条件_送水圧>0.0</送水条件_送水圧>
  <送水条件_送水量>0</送水条件_送水量>
  <送水条件_排水量>0</送水条件_排水量>
  <送水条件_送水種類コード>1</送水条件_送水種類コード>
  <送水条件_送水種類></送水条件_送水種類>
</送水条件>
<送水条件>
  <送水条件_下端深度>5.20</送水条件_下端深度>
  <送水条件_送水圧>1.0</送水条件_送水圧>
  <送水条件_送水量>60</送水条件_送水量>
  <送水条件_排水量>6</送水条件_排水量>
  <送水条件_送水種類コード>2</送水条件_送水種類コード>
  <送水条件_送水種類></送水条件_送水種類>
</送水条件>
<送水条件>
  <送水条件_下端深度>7.00</送水条件_下端深度>
  <送水条件_送水圧>1.0</送水条件_送水圧>
  <送水条件_送水量>40</送水条件_送水量>
  <送水条件_排水量>5</送水条件_排水量>
  <送水条件_送水種類コード>2</送水条件_送水種類コード>
  <送水条件_送水種類></送水条件_送水種類>
</送水条件>
<送水条件>
  <送水条件_下端深度>14.50</送水条件_下端深度>
  <送水条件_送水圧>1.0</送水条件_送水圧>
  <送水条件_送水量>30</送水条件_送水量>
  <送水条件_排水量>15</送水条件_排水量>
  <送水条件_送水種類コード>2</送水条件_送水種類コード>
  <送水条件_送水種類></送水条件_送水種類>
</送水条件>
<断層破碎帯区分>
  <断層破碎帯区分_上端深度>30.15</断層破碎帯区分_上端深度>
  <断層破碎帯区分_下端深度>30.25</断層破碎帯区分_下端深度>
  <断層破碎帯区分_性状コード>4</断層破碎帯区分_性状コード>
  <断層破碎帯区分_性状>角礫状</断層破碎帯区分_性状>
  <断層破碎帯区分_備考></断層破碎帯区分_備考>
</断層破碎帯区分>
<コア採取率>
  <コア採取率_下端深度>1.00</コア採取率_下端深度>
  <コア採取率_採取率>75</コア採取率_採取率>
</コア採取率>
<コア採取率>
  <コア採取率_下端深度>2.00</コア採取率_下端深度>
  <コア採取率_採取率>83</コア採取率_採取率>
</コア採取率>
<コア採取率>
  <コア採取率_下端深度>3.00</コア採取率_下端深度>
```

<コア採取率_採取率>93</コア採取率_採取率>
</コア採取率>
<コア採取率>
<コア採取率_下端深度>4.00</コア採取率_下端深度>
<コア採取率_採取率>95</コア採取率_採取率>
</コア採取率>
<コア採取率>
<コア採取率_下端深度>5.00</コア採取率_下端深度>
<コア採取率_採取率>84</コア採取率_採取率>
</コア採取率>
<コア採取率>
<コア採取率_下端深度>6.00</コア採取率_下端深度>
<コア採取率_採取率>94</コア採取率_採取率>
</コア採取率>
<コア採取率>
<コア採取率_下端深度>8.00</コア採取率_下端深度>
<コア採取率_採取率>95</コア採取率_採取率>
</コア採取率>
<コア採取率>
<コア採取率_下端深度>9.30</コア採取率_下端深度>
<コア採取率_採取率>100</コア採取率_採取率>
</コア採取率>
<最大コア長>
<最大コア長_下端深度>0.50</最大コア長_下端深度>
<最大コア長_コア長>5</最大コア長_コア長>
</最大コア長>
<最大コア長>
<最大コア長_下端深度>1.50</最大コア長_下端深度>
<最大コア長_コア長>6</最大コア長_コア長>
</最大コア長>
<最大コア長>
<最大コア長_下端深度>3.50</最大コア長_下端深度>
<最大コア長_コア長>0</最大コア長_コア長>
</最大コア長>
<最大コア長>
<最大コア長_下端深度>4.50</最大コア長_下端深度>
<最大コア長_コア長>0</最大コア長_コア長>
</最大コア長>
<最大コア長>
<最大コア長_下端深度>5.50</最大コア長_下端深度>
<最大コア長_コア長>14</最大コア長_コア長>
</最大コア長>
<最大コア長>
<最大コア長_下端深度>6.50</最大コア長_下端深度>
<最大コア長_コア長>15</最大コア長_コア長>
</最大コア長>
<最大コア長>
<最大コア長_下端深度>6.50</最大コア長_下端深度>
<最大コア長_コア長>27</最大コア長_コア長>
</最大コア長>
<最大コア長>
<最大コア長_下端深度>7.50</最大コア長_下端深度>
<最大コア長_コア長>17</最大コア長_コア長>
</最大コア長>
<RQD>
<RQD_下端深度>4.00</RQD_下端深度>
<RQD_RQD>0</RQD_RQD>
</RQD>
<RQD>
<RQD_下端深度>5.00</RQD_下端深度>
<RQD_RQD>0</RQD_RQD>
</RQD>
<RQD>

```
<RQD_下端深度>6.00</RQD_下端深度>
<RQD_RQD>0</RQD_RQD>
</RQD>
<RQD>
<RQD_下端深度>7.00</RQD_下端深度>
<RQD_RQD>0</RQD_RQD>
</RQD>
<RQD>
<RQD_下端深度>8.00</RQD_下端深度>
<RQD_RQD>31</RQD_RQD>
</RQD>
<RQD>
<RQD_下端深度>9.00</RQD_下端深度>
<RQD_RQD>26</RQD_RQD>
</RQD>
<RQD>
<RQD_下端深度>10.00</RQD_下端深度>
<RQD_RQD>47</RQD_RQD>
</RQD>
<RQD>
<RQD_下端深度>11.00</RQD_下端深度>
<RQD_RQD>17</RQD_RQD>
</RQD>
<岩級区分判定表>
<岩級区分判定表_項目名>1. 硬軟の程度</岩級区分判定表_項目名>
<岩級区分判定表_項目名>2. 風化変質の程度(細区分)</岩級区分判定表_項目名>
<岩級区分判定表_項目名>3. 割れ目の状態</岩級区分判定表_項目名>
<岩級区分判定表_項目名>4. コアの状態(細区分)</岩級区分判定表_項目名>
<岩級区分判定表_項目名>備考</岩級区分判定表_項目名>
<岩級区分判定表_判定>
<岩級区分判定表_コード>910</岩級区分判定表_コード>
<岩級区分判定表_記号>A</岩級区分判定表_記号>
<岩級区分判定表_説明>青灰～乳灰</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>極硬ハンマーで叩くと金属音。D.B で 2cm/min 以下。</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>亀裂面ともおおむね新鮮。未風化。(A)</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>亀裂少なく、おおむね 20～50cm で密着している。</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>棒状～長柱状でおおむね 30cm 以上で採取される。(1)</岩級区分判定表_説明>
</岩級区分判定表_判定>
<岩級区分判定表_判定>
<岩級区分判定表_コード>920</岩級区分判定表_コード>
<岩級区分判定表_記号>A</岩級区分判定表_記号>
<岩級区分判定表_説明>乳灰～(淡)褐灰</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>硬ハンマーで軽い金属音。D.B で 2～4cm/min。</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>おおむね新鮮なるも、亀裂面に沿って若干風化。変質褐色を帯びる。(B)
</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>割れ目間隔 5～15cm を主としている。一部開口している。</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>短柱～棒状でおおむね 20cm 以下。(2)</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>3, 4A なるも 1, 2 が B のもの。1, 2A なるも 3, 4B のもの。</岩級区分判定表_説明>
</岩級区分判定表_判定>
<岩級区分判定表_判定>
<岩級区分判定表_コード>930</岩級区分判定表_コード>
<岩級区分判定表_記号>B</岩級区分判定表_記号>
<岩級区分判定表_説明>褐灰～(淡)灰褐</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>中硬ハンマーで叩くと濁音。小刀で傷つく硬さ。D.B で 3cm/min 以上。
</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>割れ目に沿って風化進行、長石等は一部変色変質している。(C)
</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>割れ目発達、開口部に一部粘土はさむ。ヘアクラック発達。割れ易い。
</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>大岩片状でおおむね 10cm 以下で、5cm 前後のもの多い。原型復旧可。(3)
</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>短柱状なるも風化進行軟質のもの。</岩級区分判定表_説明>
</岩級区分判定表_判定>
```

<岩級区分判定表_判定>
<岩級区分判定表_コード>940</岩級区分判定表_コード>
<岩級区分判定表_記号>CH</岩級区分判定表_記号>
<岩級区分判定表_説明>灰褐～淡黄褐</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>やや軟～硬。ハンマーで叩くと軽く割れる。爪で傷つくことあり。D.Bで掘進適。
</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>岩内部の一部を除き風化進行、長石、雲母はおおむね変質している。(D)
</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>割れ目多く発達 5cm 以下、開口して粘土はさむ。</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>岩片～細片(角礫)状で碎け易い、不円形多く原型復旧困難。(4)
</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>軟岩で容易に碎け易いもの。</岩級区分判定表_説明>
</岩級区分判定表_判定>
<岩級区分判定表_判定>
<岩級区分判定表_コード>950</岩級区分判定表_コード>
<岩級区分判定表_記号>CM</岩級区分判定表_記号>
<岩級区分判定表_説明>淡黄褐～黄褐</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>軟極く脆弱で指で割れ、つぶれる。M.Cで掘進可。</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>岩内部まで風化進行するも、岩構造を残し石英未風化で残る。(E1)
</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>割れ目多いが粘土化進行、土砂状で密着している。</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>細片状で岩片残し、指で碎けて粉状。円形コアなし。(5)</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>破碎帶でコア部のみ細片状で採取のもの。</岩級区分判定表_説明>
</岩級区分判定表_判定>
<岩級区分判定表_判定>
<岩級区分判定表_コード>960</岩級区分判定表_コード>
<岩級区分判定表_記号>CL</岩級区分判定表_記号>
<岩級区分判定表_説明>極軟粉体になりやすい。M.Cで無水掘可。</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>おおむね一様に風化進行、マサ土化している。わずかに岩片を残す。(E2)
</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>粘土化進行のためクラックなし。</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>土砂状(6)</岩級区分判定表_説明>
<岩級区分判定表_説明>破碎帶・粘土化帯でコア採取不可能なもの。</岩級区分判定表_説明>
</岩級区分判定表_判定>
</岩級区分判定表>
<岩級区分>
<岩級区分_下端深度>3.50</岩級区分_下端深度>
<岩級区分_岩級区分>960</岩級区分_岩級区分>
</岩級区分>
<岩級区分>
<岩級区分_下端深度>5.30</岩級区分_下端深度>
<岩級区分_岩級区分>960</岩級区分_岩級区分>
</岩級区分>
<岩級区分>
<岩級区分_下端深度>7.00</岩級区分_下端深度>
<岩級区分_岩級区分>950</岩級区分_岩級区分>
</岩級区分>
<岩級区分>
<岩級区分_下端深度>10.00</岩級区分_下端深度>
<岩級区分_岩級区分>930</岩級区分_岩級区分>
</岩級区分>
<保孔管>
<保孔管_下端深度>22.50</保孔管_下端深度>
<保孔管_種別コード>2</保孔管_種別コード>
<保孔管_備考>VP40ストレーナ加工塩ビパイプ</保孔管_備考>
</保孔管>
<計測機器>
<計測機器_上端深度>10.00</計測機器_上端深度>
<計測機器_下端深度>10.00</計測機器_下端深度>
<計測機器_機器種別>地下水位計</計測機器_機器種別>
<計測機器_備考></計測機器_備考>
</計測機器>
<地下水検層試験>

<地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>24</地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>
</地下水検層試験詳細データ>
<地下水検層試験詳細データ>
<地下水検層試験詳細データ_試験番号>0001</地下水検層試験詳細データ_試験番号>
<地下水検層試験詳細データ_測定深度>24.75</地下水検層試験詳細データ_測定深度>
<地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>12150</地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>
<地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>12</地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>
<地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>32</地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>
<地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>48</地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>
<地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>60</地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>
<地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>70</地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>
<地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>76</地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>
<地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>80</地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>
</地下水検層試験詳細データ>
<地下水検層試験詳細データ>
<地下水検層試験詳細データ_試験番号>0001</地下水検層試験詳細データ_試験番号>
<地下水検層試験詳細データ_測定深度>25.00</地下水検層試験詳細データ_測定深度>
<地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>12180</地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>
<地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>12</地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>
<地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>45</地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>
<地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>71</地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>
<地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>92</地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>
<地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>106</地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>
<地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>115</地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>
<地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>122</地下水検層試験詳細データ_比抵抗値>
</地下水検層試験詳細データ>
<地下水検層試験判定結果>
<地下水検層試験判定結果_上端深度>20.00</地下水検層試験判定結果_上端深度>
<地下水検層試験判定結果_下端深度>25.00</地下水検層試験判定結果_下端深度>
<地下水検層試験判定結果_地下水検層結果>上昇流状検出</地下水検層試験判定結果_地下水検層結果>
</地下水検層試験判定結果>
<地下水検層試験判定結果>
<地下水検層試験判定結果_上端深度>25.00</地下水検層試験判定結果_上端深度>
<地下水検層試験判定結果_下端深度>28.00</地下水検層試験判定結果_下端深度>
<地下水検層試験判定結果_地下水検層結果>非検出</地下水検層試験判定結果_地下水検層結果>
</地下水検層試験判定結果>
<地下水検層試験判定結果>
<地下水検層試験判定結果_上端深度>28.00</地下水検層試験判定結果_上端深度>
<地下水検層試験判定結果_下端深度>35.00</地下水検層試験判定結果_下端深度>
<地下水検層試験判定結果_地下水検層結果>下降流状検出</地下水検層試験判定結果_地下水検層結果>
</地下水検層試験判定結果>
<備考>
<備考_タイトル>試錐日報解析結果</備考_タイトル>
<備考_上端深度>10.00</備考_上端深度>
<備考_下端深度>10.84</備考_下端深度>
<備考_備考内容>難透水層</備考_備考内容>
</備考>
<備考>
<備考_タイトル>試錐日報解析結果</備考_タイトル>
<備考_上端深度>10.84</備考_上端深度>
<備考_下端深度>15.22</備考_下端深度>
<備考_備考内容>逸水層</備考_備考内容>
</備考>
<フリー情報>
</フリー情報>
</コア情報>
</ボーリング情報>

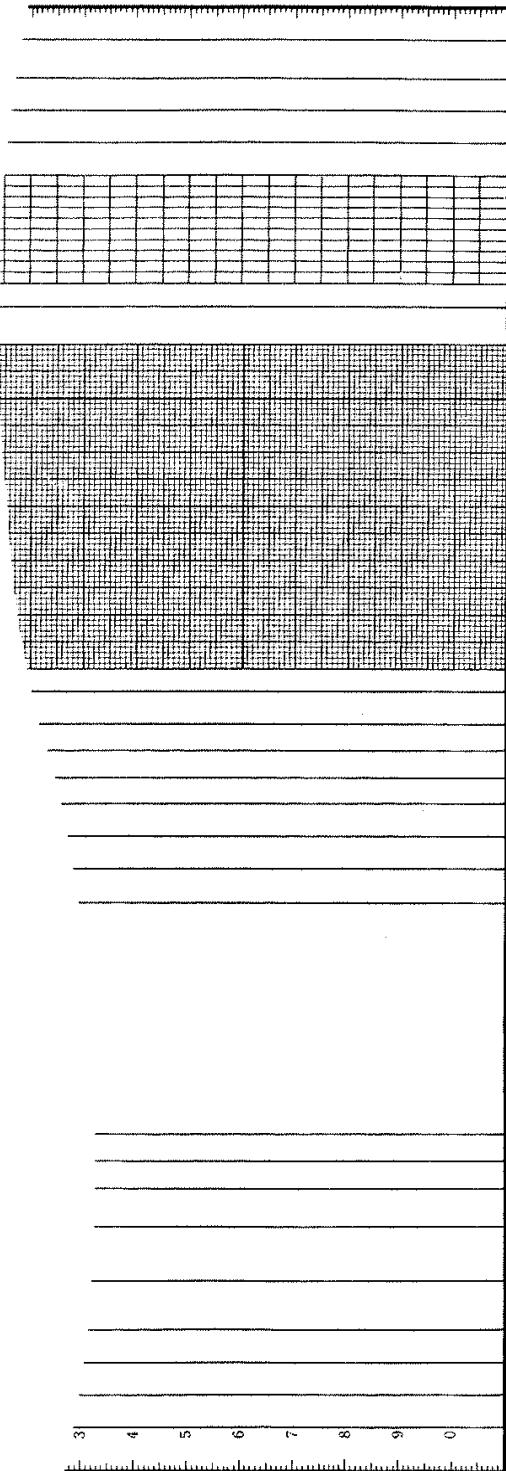
付属資料3 電子柱状図の標準様式

1 土質ボーリング柱状図様式

土質ボーリング柱状図様式(1/2)

調査名										事業・工事名											
ポーリング孔					調査位置					調査期間					北緯						
発注機関					主任技師					現代理人		爆破人			コ鑿定者					東経	
調査業者名		電話(ボーリング業者登録番号	
孔口標高		m角度	180°上	90°	北0°	方	270°西	90°	地盤勾配	水平0°	鉛直	90°	機械	試験	機械	落下用具	ハンマー	落下用具	ボンブ		
総掘進長		m度	0	180°	180°	南	180°	0													
柱相土質記述										標準貫入試験											
標準尺	柱層	深度	厚度	土質区分	図面	調査事	孔内水位(m)	10cmごとの打撃回数	打撃回数	N値	—○—	試験位置									
												深度	0	10	20	30	40	50	60	試験深度(m)	試験深度(m)
1																					
2																					
3																					
4																					
5																					
6																					
7																					
8																					
9																					
0																					
掘進月日										室内試験(月日)											

土質ボーリング柱状図様式(2/2)



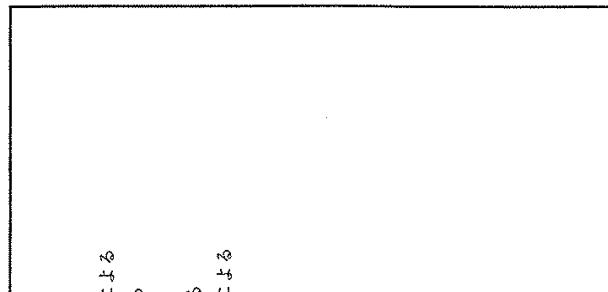
<凡例>
柱状図および土質区分

第 1 分類		第 2 分類		第 3 分類	
区分	分類名	固有性	固有性	分類名	固有性
砂 質	砂 (G)	○ ○ ○	砂 石 (GR)	砂 石 (GR)	○ ○ ○
シルト質	シルト (GF)	△ △ △	シ ルト 石 (MR)	シ ルト 石 (MR)	△ △ △
粘 性	粘 (S)	● ● ●	粘 材 (WR)	粘 材 (WR)	● ● ●
細 砂 質	細 砂 質 (O)	■ ■ ■	玉 粒 (B)	玉 粒 (B)	○ ○ ○
シルト質	シルト (M)	△ △ △	浮 石 (Pm)	浮 石 (Pm)	△ △ △
粘 性	粘 (C)	○ ○ ○	特 特 (Si)	特 特 (Si)	○ ○ ○
有機質	有機質 (L)	■ ■ ■	殊 殊 (Sc)	殊 殊 (Sc)	▲ ▲ ▲
火山灰質粘性土 (V)	火山灰質粘性土 (V)	~~~~~	七 水 (W)	七 水 (W)	~~~~~
泥炭質土 (Pe)	泥炭質土 (Pe)	~~~~~	材 口 一 (Lm)	材 口 一 (Lm)	~~~~~
含水率	含水率 (C)	△ △ △	粘 黑 黑 (Kb)	粘 黑 黑 (Kb)	△ △ △
有機質半湿り (-O)	有機質半湿り (-O)	■ ■ ■	マ サ (WG)	マ サ (WG)	■ ■ ■
火山灰半湿り (-V)	火山灰半湿り (-V)	~~~~~	シルト泥炭質 (-S)	シルト泥炭質 (-S)	~~~~~
含水率	含水率 (-Sh)	○ ○ ○	堆 堆 (F1)	堆 堆 (F1)	○ ○ ○
			堆 堆 (W)	堆 堆 (W)	

試料採取方法

- ① シンウォールサンプラーによる
- ② デニソンサンプラーによる
- ③ 買入試験器による
- ④ フォイルサンプラーによる
- ⑤ (A) ()による

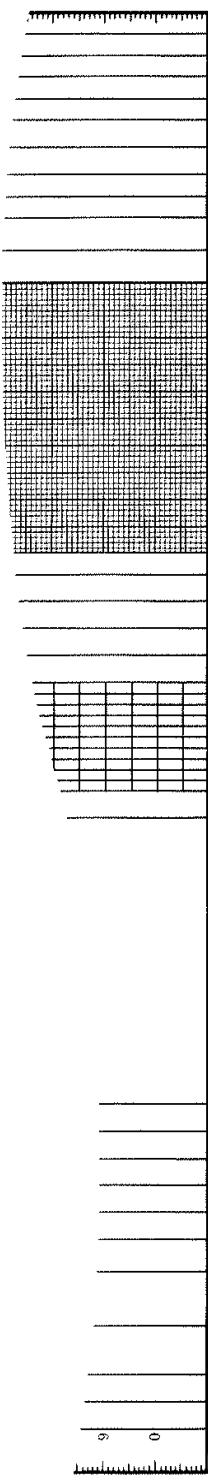
備考



2 岩盤ボーリング柱状図様式

岩盤ボーリング柱状図様式(1/2)

岩盤ボーリング柱状図様式(2/2)



<凡例>
柱状図および岩種区分

風化区分表

変質区分表

コア硬軟区分判定表	
記号	硬軟区分
A	板状、ハシマーで容易に割れない。
B	硬、ハシマーで金属音。
C	中硬、ハシマーで容易に割れる。
D	軟、ハシマーでボロボロに砕ける。
E	極軟、マサ状、粘土状。

コア割れ目状態判定表

記号	割れ目状態区分
a	密着している、あるいは分離しているが割れ目沿いの風化・変質は認められない。
b	割れ目沿いの風化・変質は認められるが、岩片はほとんど風化・変質していない。
c	割れ目沿いの岩片に風化・変質が認められ根質となっている。
d	割れ目として認識できない角礫状、砂状、粘土状コア。

コア形状区分判定表	
記号	模式図
I	長さが50cm以上のお棒コア。
II	長さが50~15cmの棒状コア。
III	長さが15~5cmの棒状~片状コア。
IV	長さが5cm以下の棒状~片状コアでかつコアの外端の一部が認められるもの。
V	主として角礫状のもの。
VI	主として砂状のもの。
VII	主として粘土状のもの。
VIII	コアの採取ができないものの。スライムも含む。(記述欄に理由を書く)

岩級区分基準表

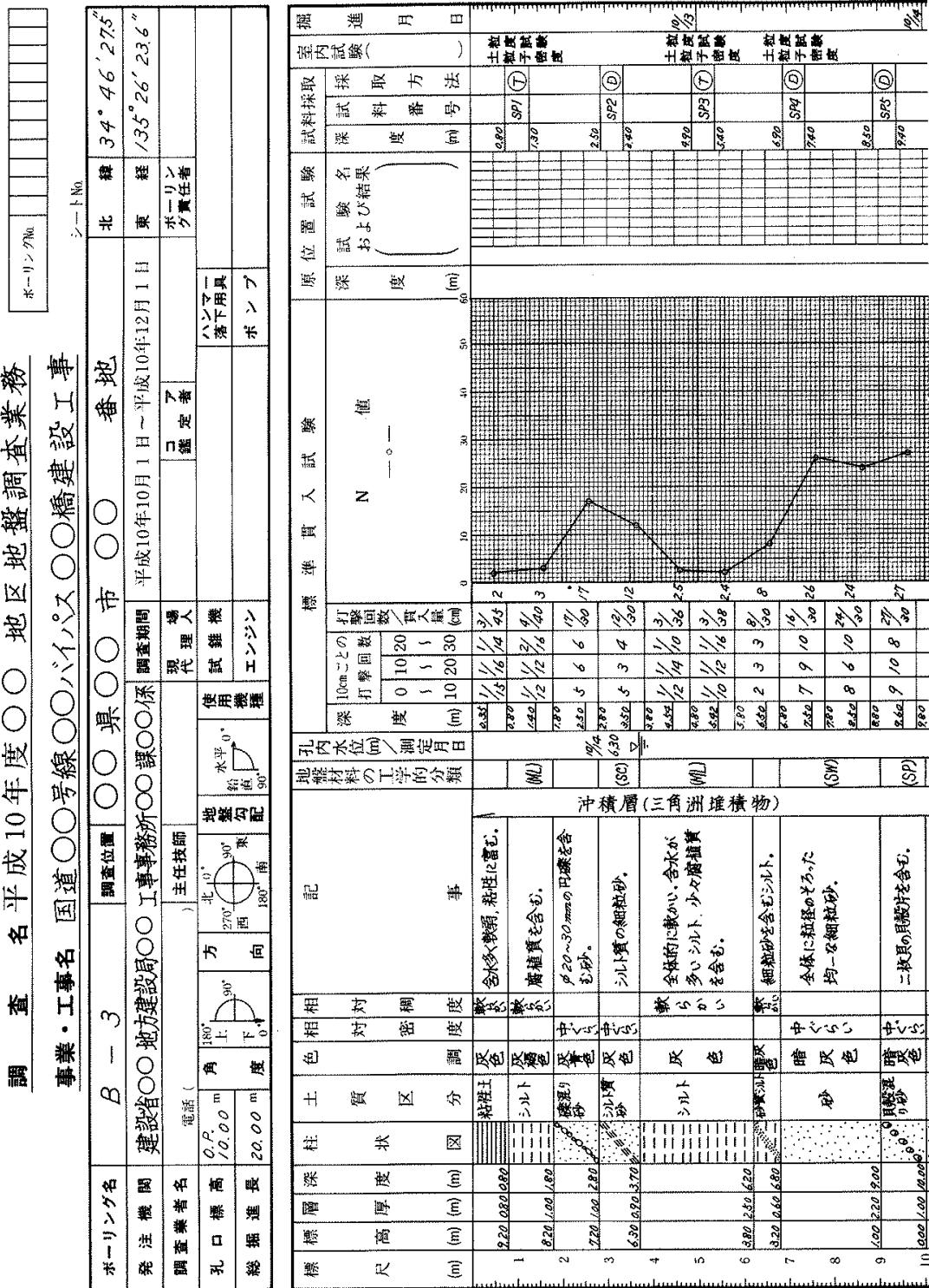
記号	割れ目状態区分
a	密着している、あるいは分離しているが割れ目沿いの風化・変質は認められない。
b	割れ目沿いの風化・変質は認められるが、岩片はほとんど風化・変質していない。
c	割れ目沿いの岩片に風化・変質が認められ根質となっている。
d	割れ目として認識できない角礫状、砂状、粘土状コア。

備考

3 土質ボーリング柱状図の作図例

ボーリング柱状図

調査名 平成10年度○○地区地盤調査業務
事業・工事名 国道○○号線○○バイパス○○橋建設工事

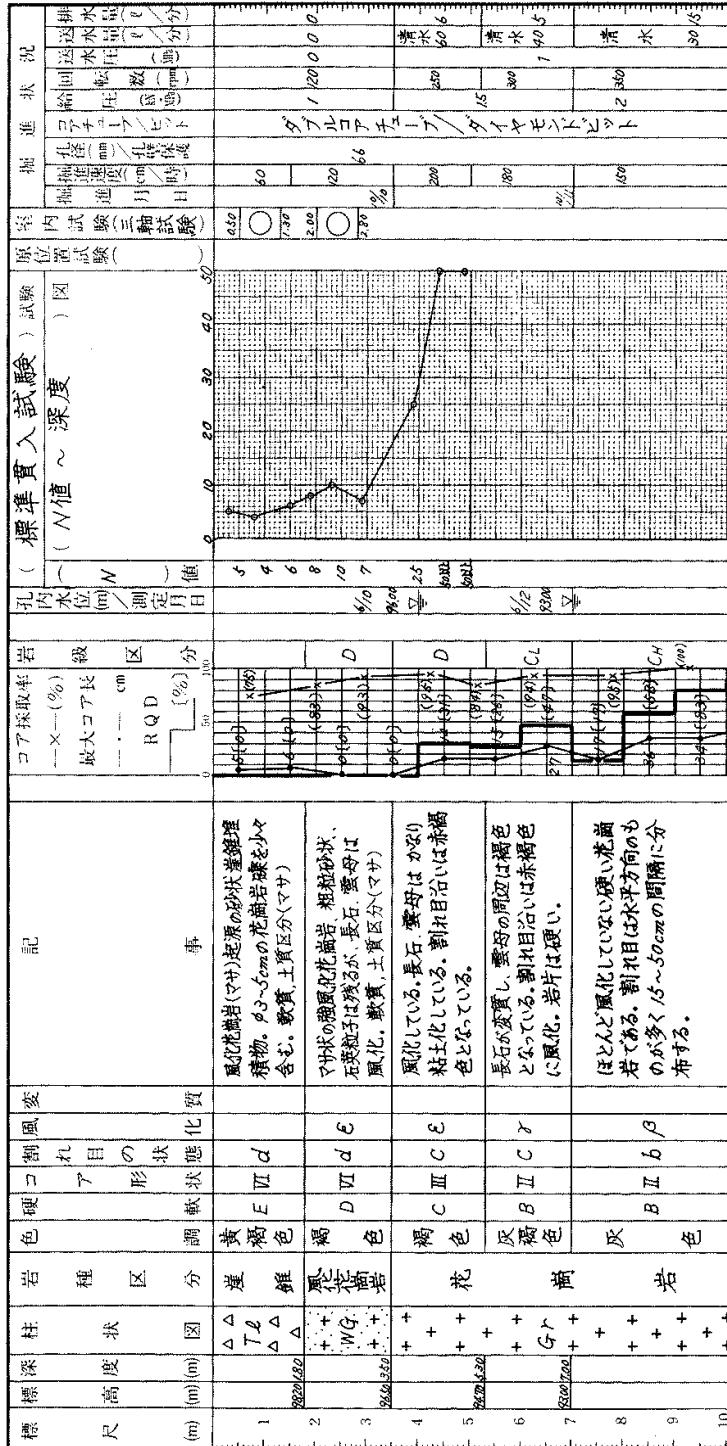


4 岩盤ボーリング柱状図の作図例

岩盤ボーリング柱状図の作図例(1/2)

ボーリング柱状図 調査名 平成10年度○○ 地区地質調査業務 調査課名・工事名 国道○○号線○○地区切土のり面工事

ポーリング名	B - 7	調査位置	○○県○○市○○番地	北 緯	34° 32' 36"
発注機関	建設省○○地方建設局○○工事事務所○○課○○係	調査期間	平成10年10月1日～平成10年12月1日	東 経	132° 27' 24"
調査業者名	電話()	主任技師		代理入	ボンブ
孔 口 標 高	7.0 P. 100.00 m	角 度	北 90° 東 西 270° 南 上 180° 下 前 0° 後 左 180° 右	鉛直 水平 傾斜 30°	試験機 エンジン
総 振 進 長	2.00 m				



岩盤ボーリング柱状図の作図例(2/2)

ボーリング柱状図 調査名 平成10年度○○ダム地質調査 事業・工事名 ○○川水系○○盤岩基礎ダム

ポーリング名		B - 2		調査位置		○○県○○郡○○町○○地先		北緯 35°09'46"	
発注機関		建設省○○地方建設局○○工事係新○○課○○係		調査期間		平成10年10月1日～平成10年12月1日		東經 138°09'49"	
調査業者名		電話 ()		主任技師		代理入試機械		鑑定者	
孔口標高	7,200.00 m	角度	180°	方位	北 6° 東	盤面勾配	水平 90° 傾角 34°	機種	エンジンポンプ
総掘進長	12,000 m	度	0°	向	下	区	180°	機種	ポンプ
標尺	(m)	標高(m)	(m)	深度(m)	(m)	岩種	柱状圖	記	風化変質
1	△ 7,200.00 △ 7,200.00	孔内水位(m)	孔内水位(m)						
2	△ 7,200.00 △ 7,200.00	孔内水位(m)	孔内水位(m)						
3	△ 7,200.00 △ 7,200.00	孔内水位(m)	孔内水位(m)						
4	△ 7,200.00 △ 7,200.00	孔内水位(m)	孔内水位(m)						
5	△ 7,200.00 △ 7,200.00	孔内水位(m)	孔内水位(m)						
6	△ 7,200.00 △ 7,200.00	孔内水位(m)	孔内水位(m)						
7	△ 7,200.00 △ 7,200.00	孔内水位(m)	孔内水位(m)						
8	△ 7,200.00 △ 7,200.00	孔内水位(m)	孔内水位(m)						
9	△ 7,200.00 △ 7,200.00	孔内水位(m)	孔内水位(m)						
10	△ 7,200.00 △ 7,200.00	孔内水位(m)	孔内水位(m)						

付属資料4 地質図の記載方法

(出典:「JIS A 0204 地質図-記号、色、模様、用語及び凡例表示」)

1 地層・岩体の表記

- (a) 地質時代の区分である代(Era)、紀(Period)、世(Epoch)及び期(Age)に対応する地層・岩体の総称は、界(Erathem)、系(System)、統(Series)及び階(Stage)とする。
- (b) 地層の区分単位として用いることのできる名称を表 1-1に示す。

表 1-1 地層の区分単位の名称

名称	対応英語(参考)
超層群	Supergroup
層群	Group
亜層群	Subgroup
層	Formation
部層	Member

- (c) 付加体を構成する地層の区分単位については定説が確立していないため、従来の慣習(例えばユニット、スラブ)に従うことが望ましい。
- (d) 火成岩及び変成岩の岩体区分の単位については、地層区分に対応するように階層的に区分がなされていないため、従来の慣習に従うことが望ましい。
- (e) 様々な岩石から構成されている一連の地層・岩体の区分単位として、複合岩体(Complex)を用いることができる。
- (f) 産状で区別される単層又は幾つかの単層が集まった層の地層区分の単位として、“岩相名+堆積物”又は“岩相名+層”的形式を用いることができる。

例)	礫岩[層]	Conglomerate [bed]
	軽石[層]	Pumice [bed]
	降下火砕堆積物	Pyroclastic fall deposit
	火砕流堆積物	Pyroclastic flow deposit
	溶岩[流、ドーム]	Lava [flow or dome]

- (g) 地層・岩体名は、“模式となる地名+地層・岩体の区分単位の名称”的形式で記述する。正式に命名された地層・岩体名を英文で表記する場合は、模式地名と地層・岩体の区分単位名を示す英語句の頭文字をそれぞれ大文字とする。火山の例のように地層・岩体に対応する区分単位が明確でない場合は、区分単位名を示す英語句の頭文字は小文字としてもよい。

例)	手取層群	Tetori Group
	阿寺層	Atera Formation
	松本砂岩部層	Matsumoto Sandstone Member
	乙原花崗岩	Ombara Granite
	筑波変成岩類	Tsukuba Metamorphic Rocks
	夜久野コンプレックス	Yakuno Complex
	鳥海火山	Chokai volcano又はChokai Volcano

- (h) 上記(a)~(g)によらない区分と命名法によって地層・岩体の名称を付ける場合は、区分基準、区分された単元の定義及び命名基準を凡例に表示する。

2 地質時代の表記

地質時代の表記は細分する大きさの順に、代(Era)、紀(Period)、世(Epoch)、及び期(Age)を用いる。地質時代の名称は表 2-1による。

表 2-1 地質時代の名称

名称	対応英語(参考)	名称	対応英語(参考)
代	Era	新生代	Cenozoic
紀	Period	白亜紀	Cretaceous
世	Epoch	ジュラ紀	Jurassic
期	Age	三畳紀	Triassic
完新世	Holocene	中生代	Mesozoic
更新世	Pleistocene	ペルム紀	Permian
第四紀	Quaternary	石炭紀	Carboniferous
鮮新世	Pliocene	デボン紀	Devonian
中新世	Miocene	シルル紀	Silurian
新第三紀	Neogene	オルドビス紀	Ordovician
漸新世	Oligocene	カンブリア紀	Cambrian
始新世	Eocene	古生代	Paleozoic
暁新世	Paleocene	顕生代	Phanerozoic
古第三紀	Paleogene	原生代	Proterozoic
第三紀	Tertiary	始生代	Archean

3 地層・岩体の分布を示すために用いる色

(a) 地質時代の色 地質時代を表現するための色の表示方法は次による。

- ・ 地質時代ごとに区分して地層・岩体の分布を示す地質図を作成する場合及び地質年代表を作成する場合は、古い地質時代の地層・岩体は濃く、新しい地質時代のものほど薄く着色する。
- ・ 地質時代が近接している地層・岩体については、混同しない程度の同系統色にする。
- ・ 各地質時代を表現する色は、表 3-1による。

表 3-1 地質時代の色

地質時代区分	色
第四紀	水色系統
第三紀	黄色系統
白亜紀	緑色系統
ジュラ紀	青色系統
三疊紀	濃い赤みの橙色または紫色系統
古生代	茶色系統
原生代	無指定
始生代	無指定

(b) 地層及び变成岩体を除く岩体(以下、地層・岩体と略す。)の種類を表現するための色の表示方法は、次による。

- 同種の地層・岩体の種類においては、古い地質時代の地層・岩体は濃く、新しい地質時代のものほどすく着色する。地質時代が近接している同種の地層・岩体については、混同しない程度の同系統色にする。
- 表 3-2に掲げる岩石で構成される地層・岩体は類似した地層・岩体と混同されない限り表 3-2で規定した色で表現する。

表 3-2 地層・岩体の色

地層・岩体区分	色
礫岩	茶色系統
砂岩	黄色系統
泥岩	青色または緑色系統
砂岩泥岩互層	黄緑系統(砂岩と泥岩の中間色)
チャート	橙色系統
石灰岩	青色系統
珪長質火砕岩	桃色ないし赤色系統
珪長質火成岩	桃色ないし赤色系統または茶色系統
苦鉄質火砕岩	紫色系統または緑色系統
苦鉄質火成岩	紫色系統または緑色系統

- 变成岩については色の規定がないため、变成岩の原岩の種類と時代(又は变成時期)を考慮して、上記(a)及び(b)のうちいずれか対応するものを選んでよい。

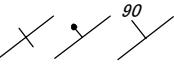
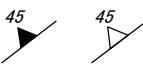
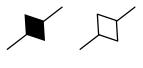
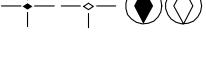
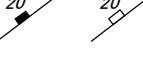
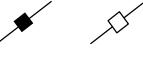
4 地質学的属性を表す記号

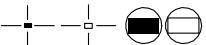
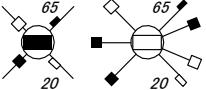
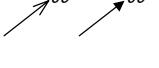
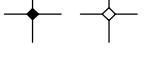
地質学的属性を表す主な記号を表 4-1に示す。

表 4-1 地質学的属性を表す記号

表示項目 (Description)	記号 (Symbol)	描画仕様 (Cartographic specification)		備考 (Note on use)
		形状 (Shape)	色 (Color)	
地層・岩体の境界 (Boundary of geologic unit)	確定境界 (Confirmed boundary)		細実線。	黒 地層・岩体と基準面との交線を示す。
	推定境界 (Inferred boundary)		細破線。破線とすき間との比は5:1。	黒 地層・岩体と基準面との推定交線を示す。
	伏在境界 (Concealed boundary)		細破線。破線とすき間との比は2:1。	黒 地層・岩体と基準面との伏在交線を示す。
	補助境界 (Subsidiary boundary)		点線。	黒 流動たい積(堆積)単位などの境界を示す。地層・岩体の内部構造を示すための補助線として用いることもできる。
変質帯、鉱化帯、変成帯、油田、ガス田、炭田、鉱床など地層・岩体以外の境界 (Boundary of a particular unit)	確定境界 (Confirmed boundary)		細実線。	黒以外 地層・岩体以外の地質属性で特徴づけられる領域と基準面との交線を示す。地層・岩体に重ね合わせる場合は、細実線と同色の網点その他の模様を用いる。
	推定境界 (Inferred boundary)		細破線。破線とすき間との比は5:1。	黒以外 地層・岩体以外の地質属性で特徴づけられる領域と基準面との推定交線を示す。地層・岩体に重ね合わせる場合は、細実線と同色の網点その他の模様を用いる。
	伏在境界 (Concealed boundary)		細破線。破線とすき間との比は2:1。	黒以外 地層・岩体以外の地質属性で特徴づけられる領域と基準面との伏在交線を示す。地層・岩体に重ね合わせる場合は、細実線と同色の網点その他の模様を用いる。
等数値線（等深線、等層厚線、等重力線など） (Isopleth: isopach, isogravity and others)		実線。線の一部を開け数値を記す。	黒以外	空間上に分布する等值点を互いに交錯することなく結んだ線を示す。
鍵層、炭層、岩脈、鉱脈など特徴的な薄層・脈状岩体 (Key bed, coal seam, dike, ore vein and other particular thin geologic units)		実線。	黒以外	用いる地形図上で空間的広がりを線でしか表現できない地層・岩体を、特に表現したいときに用いる。
断層 (Fault)	実在断層 (Confirmed fault)		地層・岩体境界線の三倍の太さの実線。	黒 地層・岩体の形成時又は形成後に生じた不連続面と基準面との交線を示す。
	推定断層 (Inferred fault)		地層・岩体境界線の三倍の太さの破線。破線とすき間との比は5:1。	黒 地層・岩体の形成時又は形成後に生じた不連続面と基準面との推定交線を示す。
	伏在断層 (Concealed fault)		地層・岩体境界線の三倍の太さの破線。破線とすき間との比は2:1。	黒 地層・岩体の形成時又は形成後に生じた不連続面と基準面との伏在交線を示す。
	断層面の傾斜角 (Dip of fault plane)		矢印を傾斜側に垂直に付し、傾斜角を記す。線の太さは地層・岩体境界線の三倍。	黒 断層面と水平面との交角(傾斜角)が90°以外のときに用いる。

垂直断層 (Vertical fault)		断層線に直交する短い線を付ける。線の太さは地層・岩体境界線の三倍。	黒	断層面と水平面との交角(傾斜角)が90°の断層を示す。	
断層の垂直変位方向 (Direction of vertical dislocation)		断層線を挟んで、これに垂直になるよう上昇側にU、落下側にDを付ける。	黒	断層の変位方向が明瞭で判別できる場合に使用できる。	
断層の走向ずれ方向 (Direction of strike slip)		断層線の両側に、これに平行になるよう、断層のずれ方向を示す片矢印を付ける。	黒	断層の変位方向が明瞭で判別できる場合に使用できる。	
正断層 (Normal fault)		上盤側に短い実線を、等間隔で垂直に付ける。又は、先端に点を付けた短い実線を落下側に付ける。	黒	断層面を挟んで上盤側が落下している断層を示す。	
逆断層 (Reverse fault)		底辺が断層線と重なるよう上盤側に等間隔で三角形を付ける。三角形は黒で塗りつぶす。	黒	断層面を挟んで上盤側が上昇している断層を示す。	
活断層 (Active fault)		断層と同じ表現。ただし、色を違える。	赤紫等	第四紀後半に活動した断層を示す。	
地震断層 (Earthquake fault)		断層と同じ表現。ただし、色を違える。	緑等	ある特定の地震で地表に生じたことが確認されている断層を示す。	
リニアメント (Lineament)		細実線。	青	地質や構造などを反映していると思われる線状模様の表現に使用する。	
破碎帯、せん断帯(剪断帯)及びマイロナイト帯 (Crush zone, shear zone and mylonite zone)		ある長さのS字曲線を一定の間隔で互い違いに、帯の延びの方向と平行に配置する。	黒	断層運動によって岩石が破壊された領域又は塑性流動した帯状の領域を示す。	
地層の走向傾斜 (Strike and dip of bedding)	傾斜層 (Inclined bedding)	 60 60	適当な長さの実線を走向と平行に配置し、その中点の傾斜側に短い実線を垂直に付ける。その中点は地図上の測定位置に重ね、傾斜角は傾斜側に記す。上位方向確認を示す場合は、黒丸を走向線の傾斜側から見て左端に付ける。	黒	傾いた地層面と水平面との交線(地層の走向)・交角(地層の傾斜)を示す。
逆転層 (Overturned bedding)		 60 60	通常の走向傾斜を示す記号の傾斜とは反対側にU字形の実線を付け、その内の片側の直線部が走向を示す実線の中点に垂直になるようにする。その中点は地図上の測定位置に重ね、傾斜角は傾斜側に記す。	黒	上下が逆転した地層面と水平面との交線(地層の走向)・交角(地層の傾斜)を示す。
水平層 (Horizontal bedding)			地図上の測定位置に点を配置し、その東西両側に点から離して同じ長さの実線を付け、さらに南北両側にも東西方向の線よりも短い同じ長さの実線を点から離して付けるか又は白丸と十字を組み合わせる。	黒	水平な地層面の姿勢を示す。
逆転水平層 (Overturned horizontal bedding)			地図上の測定位置に白丸を配置し、その東西両側に白丸から離して同じ長さの実線を付け、さらに南北両側にも東西方向の線よりも短い同じ長さの実線を白丸か	黒	上下が逆転した水平な地層面の姿勢を示す。

		ら離して付けるか又は黒丸と白十字を組み合わせる。		
直立層 (Vertical bedding)			走向を示す実線の中点に短い実線を直交させる。走向を示す実線の中点は地図上の測定位置に重ねる。上位方向の確認を示す場合は黒丸を傾斜線の端に付けるか又は傾斜層の走向傾斜記号で傾斜角を90にする。	黒 直立した地層面と水平面との交線(地層の走向)・交角(地層の傾斜)を示す。
面構造[片麻構造、片状構造、流理構造、しま状(縞状)構造、溶結構造、へき開面(劈開面)など]の走向傾斜 (Strike and dip of foliation)	傾斜面構造 (Inclined foliation)		適当な長さの実線を走向と平行に配置し、底辺が実線の中央部と重なるように傾斜側に塗りつぶした三角形を付ける。実線の中点は地図上の測定位置に重ね、傾斜角は傾斜側に記す。種類の異なる面構造を示す場合は、色を違えるか又は三角形を白抜きにする。	黒 岩石内部の傾斜した構造面(層理面を除く)の水平面との交線(走向)・交角(傾斜)を示す。
	直立面構造 (Vertical foliation)		走向を示す実線の両側に、底辺が実線の中央部と重なるように塗りつぶした同じ大きさの三角形を付ける。走向を示す実線の中点は地図上の測定位置に重ねる。種類の異なる面構造を示す場合は、色を違えるか又は三角形を白抜きにする。	黒 岩石内部の直立した構造面(層理面を除く)の水平面との交線(走向)・交角(傾斜)を示す。
	水平面構造 (Horizontal foliation)		塗りつぶした菱形を長軸が東西、中心が測定位置に重なるように配置し、その東西両側に菱形が東西方向の線よりも短い同じ長さの実線を菱形から離して付ける。又は、丸印の内側に、塗りつぶした菱形を長軸が南北になるよう重ねて示す。いずれの場合も、種類の異なる面構造を示すには、色を違えるか又は菱形を白抜きにする。	黒 岩石内部の水平な構造面(層理面を除く)の姿勢を示す。
節理の走向傾斜 (Strike and dip of joint)	傾斜節理 (Inclined joint)		適当な長さの実線を走向と平行に配置し、一辺が実線の中央部と重なるように傾斜側に黒塗りの長方形を付ける。実線の中点は地図上の測定位置に重ね、傾斜角は傾斜側に記す。種類の異なる節理を示す場合は、色を違えるか又は長方形を白抜きにする。	黒 傾斜した節理面(岩石中の変位がほとんどない割れ目面)と水平面との交線(走向)・交角(傾斜)を示す。
	直立節理 (Vertical joint)		走向を示す実線の中心に、一辺が走向線と平行になるように黒塗りの正方形を付ける。走向を示す実線の中点は地図上の測定位置に重ねる。種類の異なる節理を示す場合は、色を違えるか又は正方形を白抜きにする。	黒 直立した節理面(岩石中の変位がほとんどない割れ目面)と水平面との交線(走向)・交角(傾斜)を示す。

水平節理 (Horizontal joint)		塗りつぶした長方形を長軸が東西、中心が地図上の測定位置に重なるように配置し、その東西両側に長方形から離して同じ長さの実線を付け、さらに南北両側にも東西方向の線よりも短い同じ長さの実線を長方形から離して付ける。又は、丸印の内側に、塗りつぶした長方形を長軸が東西になるよう重ねて示す。いずれの場合も、種類の異なる節理を示すには、色を違えるか又は長方形を白抜きにする。	黒	水平な節理面(岩石中の変位がほとんどない割れ面)の姿勢を示す。	
複合節理 (Composite joints)		複数の節理を表現する場合は、測定位置において節理の走向線が端で接するよう重ねる。水平節理がある場合は、走向線の接点に円の中心を重ねる。また、各走向線が重なり記号が見ににくい場合は、走向線に付ける長方形記号を接点とは反対の端に移動させる。	黒	一つの地点で観察される複数の節理の姿勢を示す。	
へき開(劈開)の走向傾斜 (Dip and strike of inclined cleavage)	傾斜へき開(劈開) (Inclined cleavage)		適当な長さの実線を走向と平行に配置し、その両端の傾斜側に短い実線を垂直に付ける。また、その中点は測定位置に重ね、傾斜角は傾斜側に記す。	黒	傾斜したへき開面(劈開面)(岩石中に変形で生じた細密な面構造)と水平面との交線(走向)・交角(傾斜)を示す。
	直立へき開(劈開) (Vertical cleavage)		走向を示す実線の両端に、短い実線を直交させる。走向を示す実線の中点は測定位置に重ねる。	黒	直立したへき開面(劈開面)(岩石中に変形で生じた細密な面構造)と水平面との交線(走向)・交角(傾斜)を示す。
	水平へき開(劈開) (Horizontal cleavage)		測定位置に十字を配置し、各十字の先端に短い実線を直交させる。	黒	水平なへき開面(劈開面)(岩石中に変形で生じた細密な面構造)の姿勢を示す。
線構造 (Lineation)	傾斜した線構造 (Inclined lineation)		測定位置から傾斜方向に向かう適当な長さの矢印で、矢の先に傾斜角を記す。走向傾斜記号と併用する場合は、走向を示す線の中点から矢印を発するように配置する。種類の異なる線構造を示す場合は、矢の形を違える。	黒	傾斜した線構造(面構造上の線状要素)の方位と傾斜を示す。
	水平な線構造 (Horizontal lineation)		適当な長さの実線の両端に矢を付け、実線の中点を測定位置に重ねる。走向傾斜記号と併用する場合は、走向を示す実線の両端に矢を付ける。種類の異なる線構造を示す場合は、矢の形を違える。	黒	水平な線構造(面構造上の線状要素)の方位と傾斜を示す。
	垂直な線構造 (Vertical lineation)		十印を、その中心が測定位置に重なるよう配置し、その中心に黒塗りした小さな正方形を対角線が十字と一致するよう重ねる。種類の異なる線構造を示す場合は、正方形を白抜きにする。	黒	直立した線構造(面構造上の線状要素)の姿勢を示す。

線構造と二つの面構造との組合せ (Combination of a lineation and two foliations)		線構造と地層面や片理などの面構造を同時に示す場合は、測定位置に2種の記号を重ねて表示する。ただし、複数の面構造を同時に示す場合は、測定位置で複数の走向線の端が接するように置き、その接点に線構造の記号を配置する。	黒	複数の面構造・線構造を同時に示す。	
しゅう曲(褶曲) (Folds)	実在向斜 (Confirmed syncline)		しゅう曲(褶曲)の軸面と基準面との交線(軸跡)を実線で示し、その両側に直交し互いに向き合う矢印を付ける。向斜の種類を区別する場合は線の色を違えるか又は矢印の形を違える。	赤	向斜(面構造が折れ曲がり、その翼が下方に閉じている形態のうち、その内側をより上位の地層・岩体が占めるもの)の位置を示す。シンフォーム(面構造が折れ曲がり、その翼が下方に閉じている形態のうち、層序不明のもの)に用いてもよい。ただし、その旨を凡例に示す。
	実在背斜 (Confirmed anticline)		しゅう曲(褶曲)の軸面と基準面との交線(軸跡)を実線で示し、その両側に直交し互いに反対を向く矢印を付ける。背斜の種類を区別する場合は線の色を違えるか又は矢印の形を違える。	赤	背斜(面構造が折れ曲がり、その翼が上方に閉じている形態のうち、その外側をより上位の地層・岩体が占めるもの)の位置を示す。アンチフォーム(面構造が折れ曲がり、その翼が上方に閉じている形態のうち、層序不明のもの)に用いてもよい。ただし、その旨を凡例に示す。
	推定向斜 (Inferred syncline)		推定される軸跡を破線で示し、その両側に直交し互いに向き合う矢印を付ける。向斜の種類を区別する場合は線の色を違えるか又は矢印の形を違える。破線とすき間との比は 5:1。	赤	向斜の存在が推定される場合、その位置を示す。推定シンフォームに用いてもよい。ただし、その旨を凡例に示す。
	推定背斜 (Inferred anticline)		推定される軸跡を破線で示し、その両側に直交し互いに反対を向く矢印を付ける。背斜の種類を区別する場合は線の色を違えるか又は矢印の形を違える。破線とすき間との比は 5:1。	赤	背斜の存在が推定される場合、その位置を示す。推定アンチフォームに用いてもよい。ただし、その旨を凡例に示す。
	伏在向斜 (Concealed syncline)		伏在する軸跡を短い破線で示し、その両側に直交し互いに向き合う矢印を付ける。向斜の種類を区別する場合は線の色を違えるか又は矢印の形を違える。破線とすき間との比は 2:1。	赤	伏在する向斜の位置を示す。伏在シンフォームに用いてもよい。ただし、その旨を凡例に示す。
	伏在背斜 (Concealed anticline)		伏在する軸跡を短い破線で示し、その両側に直交し互いに反対を向く矢印を付ける。背斜の種類を区別する場合は線の色を違えるか又は矢印の形を違える。破線とすき間との比は 2:1。	赤	伏在する背斜の位置を示す。伏在アンチフォームに用いてもよい。ただし、その旨を凡例に示す。
	転倒向斜 (Overturned syncline)		軸跡を示す線に、地層の傾斜方向を示す矢印を先端が垂直に接するように適当な間隔で付け、その反対側にそれぞれの矢印を開いた口が接するようにU字型の線を付ける。向斜の種類を区	赤	転倒向斜(面構造が折れ曲がり、その翼が上方に閉じている形態のうち、その内側をより上位の地層・岩体が占めるもの)の位置を示す。

		別する場合は線の色を違えるか又は矢印の形を違える。			
転倒背斜 (Overturned anticline)		軸跡を示す線に、地層の傾斜方向を示す矢印を両端にもつU字型の線を直線部が直交するように付ける。U字は軸面の傾斜方向に開くようにする。背斜の種類を区別する場合は色を違えるか又は矢印の形を違える。	赤	転倒背斜(面構造が折れ曲がり、その翼が下方に閉じている形態のうち、その外側をより上位の地層・岩体が占めるもの)の位置を示す。	
向斜軸面の傾斜 (Dip of axial plane of syncline)		軸跡を示す線から傾斜方向側に短い実線を垂直に付ける。傾斜角が分かっていれば、短い実線の先にその角度を記す。	赤	向斜の軸面の傾斜方向、又は傾斜方向と角度が分かっている場合に使用できる。	
背斜軸面の傾斜 (Dip of axial plane of anticline)		軸跡を示す線から傾斜方向に短い実線を垂直に付ける。傾斜角が分かっていれば、短い実線の先にその角度を記す。	赤	向斜の軸面の傾斜方向、又は傾斜方向と角度が分かっている場合に使用できる。	
転倒向斜軸面の傾斜 (Dip of axial plane of overturned syncline)		U字を軸面の傾斜と逆方向に開くように置く。傾斜角がわかっている場合は、その先に角度を記す。軸面が直立している場合、U字の向きは問わない。	赤	転倒向斜の軸面の傾斜方向、又は傾斜方向と角度が分かっている場合に使用できる。	
転倒背斜軸面の傾斜 (Dip of axial plane of overturned anticline)		U字を軸面の傾斜方向に開くように置く。傾斜角がわかっている場合は、その先に角度を記す。軸面が直立している場合、U字の向きは問わない。	赤	転倒背斜の軸面の傾斜方向、又は傾斜方向と角度が分かっている場合に使用できる。	
向斜軸のプランジ (Plunge of synclinal axis)		軸跡を示す線にプランジ方向を示す三角矢印を付ける。プランジの角度を測定した場合は、地図上の測定位置から傾斜方向に向かう適當な長さの三角矢印を付け、矢の先にその角度を記す。	赤	向斜軸のプランジの方向、又はプランジの方向と角度が分かっている場合に使用できる。	
背斜軸のプランジ (Plunge of anticlinal axis)		軸跡を示す線にプランジ方向を示す三角矢印を付ける。プランジの角度を測定した場合は、地図上の測定位置から傾斜方向に向かう適當な長さの三角矢印を付け、矢の先にその角度を記す。	赤	背斜軸のプランジの方向、又はプランジの方向と角度が分かっている場合に使用できる。	
活向斜 (Active syncline)		向斜と同じ表現。ただし、色を違える。	赤紫等	第四紀後半に活動した向斜の位置を示す。	
活背斜 (Active anticline)		背斜と同じ表現。ただし、色を違える。	赤紫等	第四紀後半に活動した背斜の位置を示す。	
とう曲(撓曲) (Flexure monocline)	or 実在とう曲(撓曲) (Confirmed flexure or monocline)		地層の急傾斜部の終わりを実線で示し、地層の傾斜方向に向かう矢印を実線に接するように等間隔で配置する。線は断層と区別できるような色を用いる。急傾斜部の範囲を示す場合は、その始まりも実線で示し、矢印の始まりがこれと接するようにする。異なる種類の	赤	地層の急傾斜部を示す。

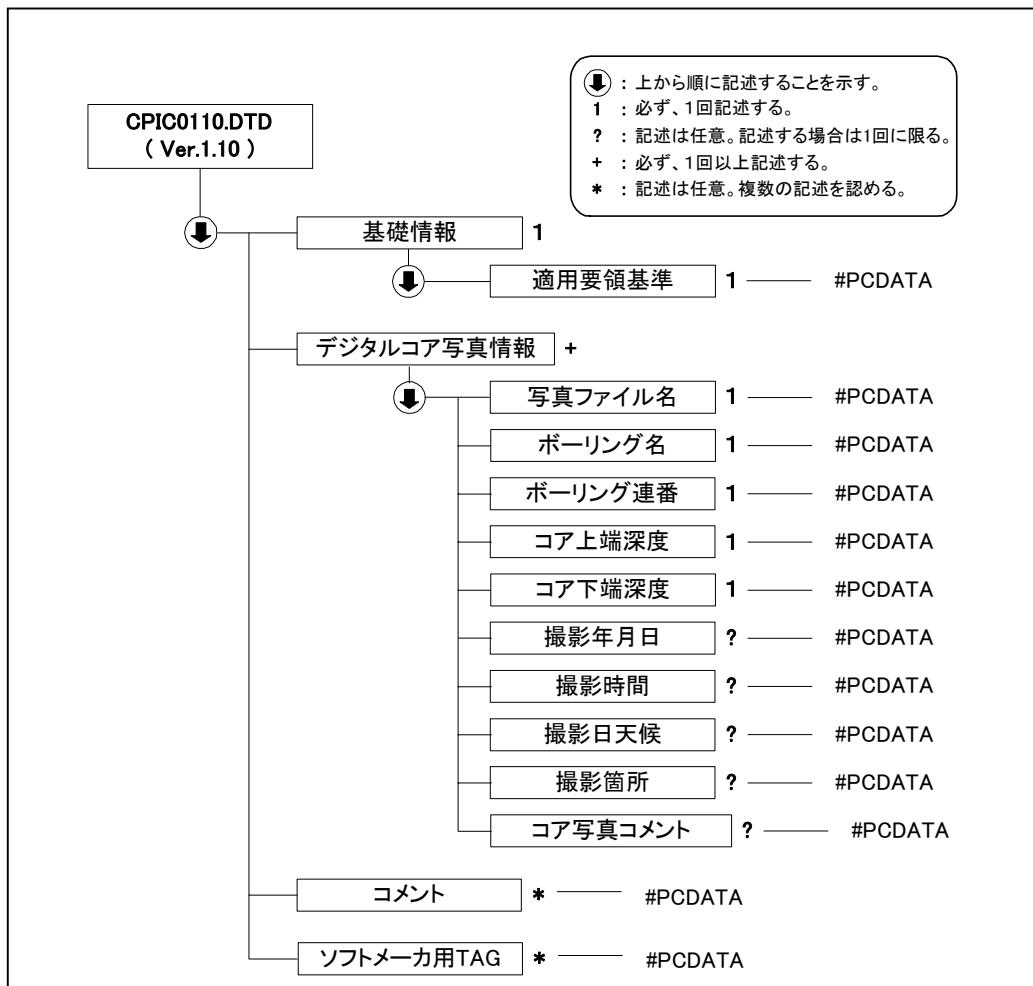
			とう曲(撓曲)を区別する場合は色を違えるか又は矢印の形を違える。		
	推定とう曲(撓曲) (Inferred flexure or monocline)		通常のとう曲(撓曲)を示す記号のうち、実線部を破線で示す。破線とすき間の比は 5:1。異なる種類のとう曲(撓曲)を区別する場合は色を違えるか又は矢印の形を違える。	赤	推定される地層急傾斜部を示す。
	伏在とう曲(撓曲) (Concealed flexure or monocline)		通常のとう曲(撓曲)を示す記号のうち、実線部を短い破線で示す。破線とすき間の比は 2:1。異なる種類のとう曲(撓曲)を区別する場合は色を違えるか又は矢印の形を違える。	赤	伏在する地層急傾斜部を示す。
	活とう曲(撓曲) (Active flexure or monocline)		とう曲(撓曲)と同じ表現。ただし、色を違える。	赤紫等	第四紀後半に活動したことが確実なとう曲(撓曲)を示す。
火口縁、カルデラ縁、又は潜在円頂丘(Vent rim, caldera rim, or outline of cryptodome)	確実境界 (Confirmed boundary)		実線で地形の縁をなぞる。地形の傾斜方向に短い実線でけば(毛羽)を付けることができる。	赤	火口縁、カルデラ縁、又は潜在円頂丘外縁の位置を示す。
	推定境界 (Inferred boundary)		破線で地形の縁をなぞる。破線とすき間との比は 5:1。地形の傾斜方向に短い実線でけば(毛羽)を付けることができる。	赤	火口縁、カルデラ縁、又は潜在円頂丘外縁の推定位置を示す。
	伏在境界 (Concealed boundary)		短い破線で地形の縁をなぞる。破線とすき間との比は 2:1。地形の傾斜方向に短い実線でけば(毛羽)を付けることができる。	赤	伏在する火口縁、カルデラ縁、又は潜在円頂丘外縁の位置を示す。
崩壊地形又はカール(Rims of slope failure or cirque)	確実境界 (Confirmed boundary)		実線で地形の縁をなぞる。地形の傾斜方向に短い実線でけば(毛羽)を付けることができる。	青	崩壊地形の縁、又はカールの縁を示す。
	推定境界 (Inferred boundary)		破線で地形の縁をなぞる。破線とすき間との比は 5:1。地形の傾斜方向に短い実線でけば(毛羽)を付けることができる。	青	推定される崩壊地形の縁、又は推定されるカールの縁を示す。
	伏在境界 (Concealed boundary)		短い破線で地形の縁をなぞる。破線とすき間との比は 2:1。地形の傾斜方向に短い実線でけば(毛羽)を付けることができる。	青	伏在する崩壊地形の縁、又は伏在するカールの縁を示す。
他の記号 (Miscellaneous)	地点とその番号 (Particular locality and its number)	5 ●	塗りつぶした小円を対象とする地点に置き、参照番号を添える。	黒	何らかの目的で示すことが必要な地点がある場合に、その地点を示す。参照番号は目的とする内容が分かる記述の中で参照できるよう英数字等で示す。

化学分析試料採取地点 (Sampling point for chemical analysis and its number)		白抜きの円に十字の組合せで示し、必要なら試料番号などを添える。	赤	化学分析した試料の採取地点を示す。
年代測定試料採取地点 (Sampling point for radiometric dating and its number)		白抜きの円に×印の組合せで示し、必要なら試料番号などを添える。	赤	年代測定した試料の採取地点を示す。
鉱産地 (Locality of mineral deposit)		三角形と頂点から底辺に伸びる垂線で示し、鉱産物の種類を示す文字記号を添える。必要なら参照記号(英数字)を添える。	黒	鉱物・鉱石の産地とその種類を示す。
稼行鉱山 (Working mine)		頭を上にしたハンマーをたすき掛けにした記号で示し、鉱産物の種類を示す文字記号を添える。	黒	稼行している鉱山の位置を示す。露頭で稼鉱している場合はその中央に、坑道を掘って稼鉱している場合は、その坑口に置く。ただし、坑口が多数ある場合は、坑口を示す記号をそこに配し、鉱山の事務所など鉱山を代表する位置に鉱山の記号を置く。
休廃止鉱山 (Closed mine)		稼行鉱山の記号を180°回転させる。必要なら参照記号(英数字)を添える。	黒	稼行を休止している鉱山、又は廃棄された鉱山の位置を示す。露頭で稼鉱している場合はその中央に、坑道を掘って稼鉱していた場合は、その坑口に置く。ただし、坑口が多数ある場合は、坑口を示す記号をそこに配し、鉱山の事務所など鉱山を代表する位置に鉱山の記号を置く。
稼行坑口 (Working adit)		口を下に向けたコの字の底部外側に短い実線を水平に付ける。必要なら参照記号(英数字)を添える。	黒	稼行している坑道の出入り口を示す。記号の向きは坑道の方向に一致させる。ただし、鉛直方向の場合は、図画下辺に直立させる。
休廃止坑口 (Closed adit)		稼行坑口の記号に×印を組み合わせる。必要なら参照記号(英数字)を添える。	黒	稼行を休止している坑道、又は廃棄された坑道の出入り口を示す。記号の向きは坑道の方向に一致させる。ただし、鉛直方向の場合は、図画下辺に直立させる。
石材 (Building stone)		上下反転させた白抜きのL字記号。必要なら参照記号(英数字)を添える。	黒	建築・土木用岩石を切り出している場所を示す。
稼行採石場又は採土場 (Working quarry or sand pit)		頭を上にしたハンマーを右に傾けた記号。必要なら参照記号(英数字)を添える。	黒	稼行している採石場又は採土場の位置を示す。
休廃止採石場又は採土場 (Closed quarry or sand pit)		稼行採石場又は採土場を示す記号を180°回転させる。必要なら参照記号(英数字)を添える。	黒	休止又は廃棄された採石場又は採土場の位置を示す。
掘削井 (Borehole)		赤の円。必要なら参照記号(英数字)を添える。傾斜井についてはその終点により小さな円を配し始点となる円との間を直線で結ぶ。可	赤	坑井の位置を示す。

		能なら始点から終点までの深さを単位で記入する。		
石油生産井 (Producing oil well)	●	塗りつぶした小さな円。必要なら参照記号(英数字)を添える。	赤	石油を採取している坑井(石油井)の位置を示す。
ガス生産井 (Producing gas well)	○	白抜きの小さな円と、その外側八方に放射する短い線とを組み合わせる。必要なら参照記号(英数字)を添える。	赤	炭化水素ガスを採取している坑井(ガス井)の位置を示す。
石油・ガス井 (Producing oil and gas well)	●○	塗りつぶした小さな円、その外側八方に放射する短い線とを組み合わせる。必要なら参照記号(英数字)を添える。	赤	石油・炭化水素ガスを採取している坑井の位置を示す。
休廃止石油・ガス井 (Closed or abandoned oil and/or gas well)	○○	白抜きの小さな円に - を組み合わせる。必要なら参照記号(英数字)を添える。	赤	一時的に閉せん(閉栓)又は廃止した石油井、ガス井、又は石油・ガス井の位置を示す。
空坑井 (Dry well)	⊕	白抜きの小さな円に十字を組み合わせる。必要なら参照記号(英数字)を添える。	赤	石油又はガスのゆう出(湧出)が見られなかった石油・ガス井の位置を示す。
油渓 (Oil seep)	○	白抜きの小さな円からその直上に線を延ばす。必要なら参照記号(英数字)を添える。	赤	石油が地表にしん出(滲出)している位置を示す。
ガス渓 (Gas seep)	↑	上向きの矢印。必要なら参照記号(英数字)を添える。	赤	炭化水素ガスが地表にしん出(滲出)している位置を示す。
油・ガス渓 (Oil and gas seep)	↑○	白抜きの小さな円からその直上に矢印を延ばす。必要なら参照記号(英数字)を添える。	赤	石油・炭化水素ガスが地表にしん出(滲出)している位置を示す。
水井戸 (Water well)	●	塗りつぶした小さな円。必要なら参照記号(英数字)を添える。	青	水を採取している坑井の位置を示す。
熱水井 (Hot water well)	↑	必要なら参照記号(英数字)を添える。	赤	熱水を採取している坑井の位置を示す。
水蒸気井 (Steam well)	↑↑	必要なら参照記号(英数字)を添える。	赤	水蒸気を採取している坑井の位置を示す。
噴気孔 (Fumarole)	☰	必要なら参照記号(英数字)を添える。	赤	火山ガスを噴出する孔の位置を示す。
温泉 (Hot spring)	山	必要なら参照記号(英数字)を添える。	赤	温泉法に基づく温泉のうち、泉源温度が25 以上のものの泉源位置を示す。自然ゆう出(湧出)か否かは問わない。
鉱泉 (Mineral spring)	山	必要なら参照記号(英数字)を添える。	赤	温泉法に基づく温泉のうち、泉源温度が25 未満のものの泉源位置を示す。自然ゆう出(湧出)か否かは問わない。
ゆう水(湧水) (Cold spring)	山	必要なら参照記号(英数字)を添える。	青	自然水が地表にゆう出(湧出)している場所を示す。
化石 (Fossil)	×	化石の種類を示す文字記号を添える。必要なら参照記号(英数字)を添える。	黒	化石の産出地点、又は産出地点と化石の種類を示す。
遺跡 (Ruins)	●●	必要なら参照記号(英数字)を添える。	黒	地質学的目的で表示する必要がある場合に使用できる。

付属資料5 コア写真管理ファイル

1 コア写真管理ファイルの構造図



2 コア写真管理ファイルの DTD

コア写真管理ファイルの DTD(CPIC0110.DTD)を以下に示す。なお、DTD ファイルは、NN - C A L S のホームページ(<http://www.nncals.jp/>)から入手できる。

```
<!ELEMENT COREPICTURE (基礎情報, デジタルコア写真情報+, コメント*, ソフトメーカー用 TAG*)>
<!ATTLIST COREPICTURE DTD_version CDATA #FIXED "1.10">

<!--*****基礎情報*****-->
<!-- 基礎情報 -->
<!--*****デジタルコア写真情報*****-->
<!ELEMENT 基礎情報 (適用要領基準)>
  <!ELEMENT 適用要領基準 (#PCDATA)>

<!--*****デジタルコア写真情報*****-->
<!-- デジタルコア写真情報 -->
<!--*****撮影年月日*****-->
<!ELEMENT デジタルコア写真情報 (写真ファイル名, ボーリング名, ボーリング連番, コア上端深度, コア下端深度, 撮影年月日?, 撮影時間?, 撮影日天候?, 撮影箇所?, コア写真コメント?)>
  <!ELEMENT 写真ファイル名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT ボーリング名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT ボーリング連番 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT コア上端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT コア下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 撮影年月日 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 撮影時間 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 撮影日天候 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 撮影箇所 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT コア写真コメント (#PCDATA)>

<!--*****コメント*****-->
<!-- コメント -->
<!--*****ソフトメーカー用 TAG*****-->
<!ELEMENT コメント (#PCDATA)>

<!ELEMENT ソフトメーカー用 TAG (#PCDATA)>
```

3 コア写真管理ファイルの XML 記入例

コア写真管理ファイル(COREPICTURE.XML)の記入例を以下に示す。なお、サンプル XML ファイルは、N N - C A L S のホームページ(<http://www.nncals.jp/>)から入手できる。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE COREPICTURE SYSTEM "CPIC0110.DTD">

<COREPICTURE DTD_version="1.10">

<基礎情報>
  <適用要領基準>農村振興土木 200504-01</適用要領基準>
</基礎情報>

<デジタルコア写真情報>
  <写真ファイル名>C0001001.JPG</写真ファイル名>
  <ボーリング名>T001</ボーリング名>
  <ボーリング連番>0001</ボーリング連番>
  <コア上端深度>0.00</コア上端深度>
  <コア下端深度>5.00</コア下端深度>
  <撮影年月日>1999-04-01</撮影年月日>
  <撮影時間>14:30</撮影時間>
  <撮影日天候>晴れときどき曇り</撮影日天候>
  <撮影箇所>つくば研究所実験棟</撮影箇所>
  <コア写真コメント>○○○○にて調査</コア写真コメント>
</デジタルコア写真情報>

<デジタルコア写真情報>
  <写真ファイル名>C0001002.JPG</写真ファイル名>
  <ボーリング名>T001</ボーリング名>
  <ボーリング連番>0001</ボーリング連番>
  <コア上端深度>5.00</コア上端深度>
  <コア下端深度>10.00</コア下端深度>
  <撮影年月日>1999-04-01</撮影年月日>
  <撮影時間>14:35</撮影時間>
  <撮影日天候>晴れときどき曇り</撮影日天候>
  <撮影箇所>つくば研究所実験棟</撮影箇所>
  <コア写真コメント>○○○○にて調査</コア写真コメント>
</デジタルコア写真情報>

<デジタルコア写真情報>
  <写真ファイル名>C0001003.JPG</写真ファイル名>
  <ボーリング名>T001</ボーリング名>
  <ボーリング連番>0001</ボーリング連番>
  <コア上端深度>10.00</コア上端深度>
  <コア下端深度>15.00</コア下端深度>
  <撮影年月日>1999-04-01</撮影年月日>
  <撮影時間>14:40</撮影時間>
  <撮影日天候>晴れときどき曇り</撮影日天候>
  <撮影箇所>つくば研究所実験棟</撮影箇所>
  <コア写真コメント>○○○○にて調査</コア写真コメント>
</デジタルコア写真情報>

<デジタルコア写真情報>
  <写真ファイル名>R0001001.JPG</写真ファイル名>
  <ボーリング名>T001</ボーリング名>
  <ボーリング連番>0001</ボーリング連番>
  <コア上端深度>0.00</コア上端深度>
  <コア下端深度>15.00</コア下端深度>
  <撮影年月日></撮影年月日>
  <撮影時間></撮影時間>
```

<撮影日天候></撮影日天候>
<撮影箇所></撮影箇所>
<コア写真コメント>デジタルコア写真整理結果。C0001001～C0001003 の写真ファイルを使用。
</コア写真コメント>
</デジタルコア写真情報>

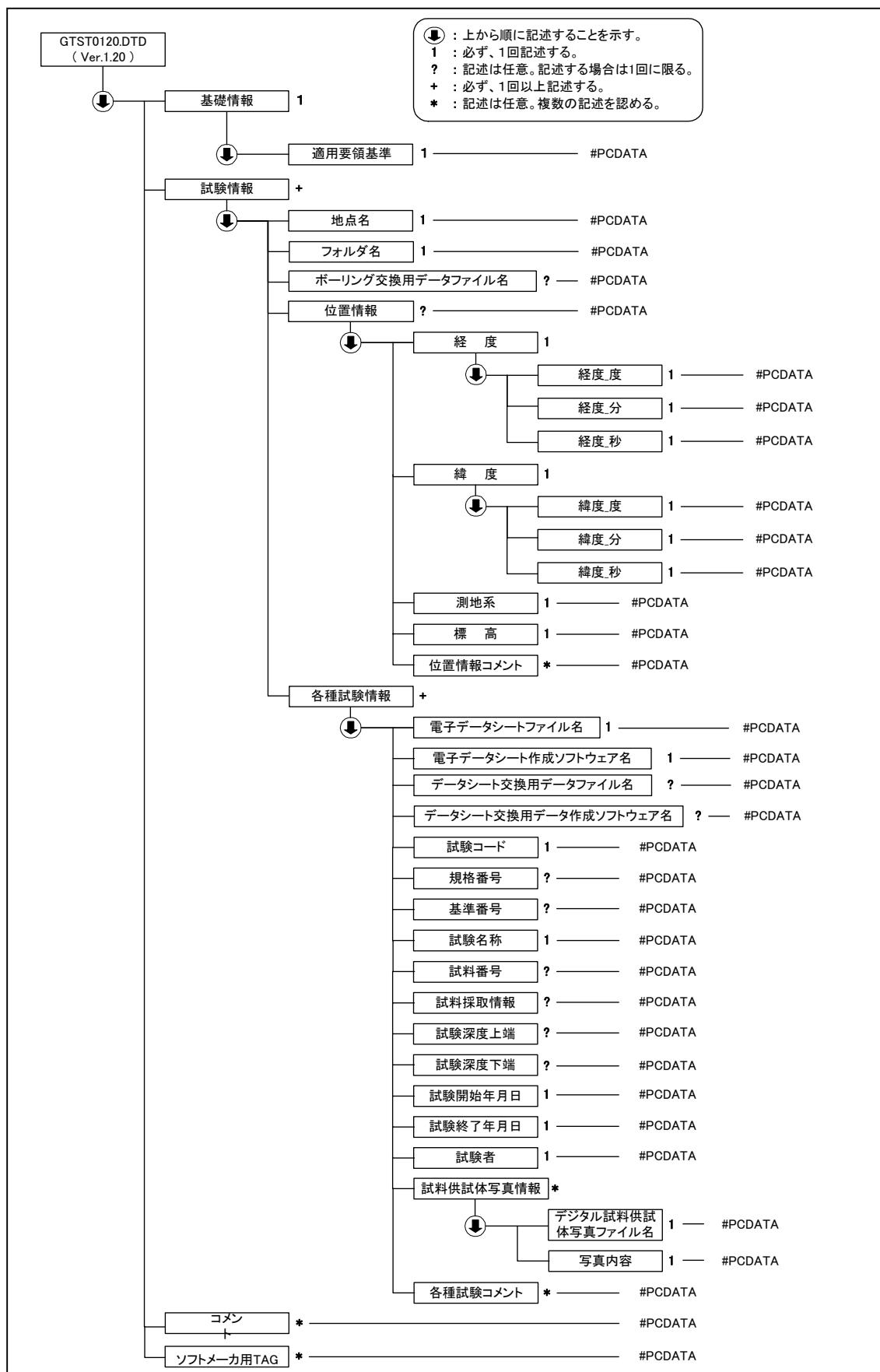
<コメント>デジタルコア写真、デジタルコア写真整理結果の管理ファイルの例。</コメント>

<ソフトメーカー用 TAG></ソフトメーカー用 TAG>

</COREPICTURE>

付属資料6 土質試験及び地盤調査管理ファイル

1 土質試験及び地盤調査管理ファイルの構造図



2 土質試験及び地盤調査管理ファイルの DTD

土質試験及び地盤調査管理ファイルの DTD(GTST0120.DTD)を以下に示す。なお、DTD ファイルは、N N - C A L S のホームページ(<http://www.nncals.jp/>)から入手できる。

```
<!ELEMENT GRNDTEST (基礎情報, 試験情報+, コメント*, ソフトメーカ用TAG*)>
<!ATTLIST GRNDTEST DTD_version CDATA #FIXED "1.20">

<!--*****基礎情報*****-->
<!-- 基礎情報 -->
<!--*****適用要領基準*****-->
<!ELEMENT 基礎情報 (適用要領基準)>
  <!ELEMENT 適用要領基準 (#PCDATA)>

<!--*****試験情報*****-->
<!-- 試験情報 -->
<!--*****位置情報*****-->
<!ELEMENT 試験情報 (地点名, フォルダ名, ポーリング交換用データファイル名?, 位置情報, 各種試験情報+)>
  <!ELEMENT 地点名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT フォルダ名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT ポーリング交換用データファイル名 (#PCDATA)>
<!--*****位置情報*****-->
<!-- 位置情報 -->
<!--*****各種試験情報*****-->
<!ELEMENT 位置情報 (経度, 緯度, 測地系, 標高, 位置情報コメント*)>
  <!ELEMENT 経度 (経度_度, 経度_分, 経度_秒)>
    <!ELEMENT 経度_度 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 経度_分 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 経度_秒 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 緯度 (緯度_度, 緯度_分, 緯度_秒)>
    <!ELEMENT 緯度_度 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 緯度_分 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 緯度_秒 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 測地系 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 標高 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 位置情報コメント (#PCDATA)>

<!--*****各種試験情報*****-->
<!-- 各種試験情報 -->
<!--*****試料供試体写真情報*****-->
<!ELEMENT 各種試験情報 (電子データシートファイル名, 電子データシート作成ソフトウェア名, データシート交換用データファイル名?, データシート交換用データ作成ソフトウェア名?, 試験コード, 規格番号?, 基準番号?, 試験名称, 試料番号?, 試料採取情報?, 試験上端深度?, 試験下端深度?, 試験開始年月日, 試験終了年月日, 試験者, 試料供試体写真情報*, 各種試験コメント*)>
  <!ELEMENT 電子データシートファイル名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 電子データシート作成ソフトウェア名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT データシート交換用データファイル名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT データシート交換用データ作成ソフトウェア名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 試験コード (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 規格番号 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 基準番号 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 試験名称 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 試料番号 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 試料採取情報 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 試験上端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 試験下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 試験開始年月日 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 試験終了年月日 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 試験者 (#PCDATA)>

<!--*****試料供試体写真情報*****-->
<!-- 試料供試体写真情報 -->
<!--*****-->
```

```
<!ELEMENT 試料供試体写真情報 (デジタル試料供試体写真ファイル名, 写真内容)>
<!ELEMENT デジタル試料供試体写真ファイル名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 写真内容 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 各種試験コメント (#PCDATA)>

<!--*****コメント*****-->
<!-- コメント -->
<!--*****コメント*****-->
<!ELEMENT コメント (#PCDATA)>

<!ELEMENT ソフトメーカー用TAG (#PCDATA)>
```

3 土質試験及び地盤調査管理ファイルの XML 記入例

土質試験及び地盤調査管理ファイル(GRNDTST.XML)の記入例を以下に示す。なお、サンプル XML ファイルは、N N - C A L S のホームページ(<http://www.nncals.jp/>)から入手できる。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE GRNDTEST SYSTEM "GTST0120.DTD">
<GRNDTEST DTD_version="1.20">

<基礎情報>
  <適用要領基準>農村振興土木 200504-01</適用要領基準>
</基礎情報>

<試験情報>
  <地点名>B-1</地点名>
  <フォルダ名>BRG0001</フォルダ名>
  <ボーリング交換用データファイル名>BRG0001.XML</ボーリング交換用データファイル名>
  <位置情報>
    <経度>
      <経度_度>135</経度_度>
      <経度_分>35</経度_分>
      <経度_秒>58.2000</経度_秒>
    </経度>
    <緯度>
      <緯度_度>34</緯度_度>
      <緯度_分>59</緯度_分>
      <緯度_秒>53.2000</緯度_秒>
    </緯度>
    <測地系>0</測地系>
    <標高>93.25</標高>
    <位置情報コメント></位置情報コメント>
  </位置情報>
  <各種試験情報>
    <電子データシートファイル名>TS001001.PDF</電子データシートファイル名>
    <電子データシート作成ソフトウェア名>データシート簡易作成 LT2.0</電子データシート作成ソフトウェア名>
    <データシート交換用データファイル名>TS001001.XML</データシート交換用データファイル名>
    <データシート交換用データ作成ソフトウェア名>データシート簡易作成 LT2.0</データシート交換用データ作成ソフトウェア名>
    <試験コード>A0111</試験コード>
    <規格番号>JIS A 1202-1999</規格番号>
    <基準番号></基準番号>
    <試験名称>土粒子の密度試験</試験名称>
    <試料番号>L001</試料番号>
    <試料採取情報>0</試料採取情報>
    <試験上端深度>1.00</試験上端深度>
    <試験下端深度>1.80</試験下端深度>
    <試験開始年月日>2001-01-11</試験開始年月日>
    <試験終了年月日>2001-01-11</試験終了年月日>
    <試験者>○○ ○○</試験者>
    <試料供試体写真情報>
      <デジタル試料供試体写真ファイル名>S0010011.JPG</デジタル試料供試体写真ファイル名>
      <写真内容>試験前試料状況</写真内容>
    </試料供試体写真情報>
    <各種試験コメント></各種試験コメント>
  </各種試験情報>

<各種試験情報>
  <電子データシートファイル名>TS001002.PDF</電子データシートファイル名>
  <電子データシート作成ソフトウェア名>データシート簡易作成 LT2.0</電子データシート作成ソフトウェア名>
  <データシート交換用データファイル名>TS001002.XML</データシート交換用データファイル名>
```

<データシート交換用データ作成ソフトウェア名>データシート簡易作成 LT2.0</データシート交換用データ作成ソフトウェア名>
<試験コード>A0131</試験コード>
<規格番号>JIS A 1204-2000</規格番号>
<基準番号></基準番号>
<試験名称>土の粒度試験</試験名称>
<試料番号>L001</試料番号>
<試料採取情報>0</試料採取情報>
<試験上端深度>1.00</試験上端深度>
<試験下端深度>1.80</試験下端深度>
<試験開始年月日>2001-01-11</試験開始年月日>
<試験終了年月日>2001-01-11</試験終了年月日>
<試験者>○○ ○○</試験者>
<試料供試体写真情報>
<デジタル試料供試体写真ファイル名>S0010021.JPG</デジタル試料供試体写真ファイル名>
<写真内容>試験後試料状況</写真内容>
</試料供試体写真情報>
<各種試験コメント></各種試験コメント>
</各種試験情報>

<各種試験情報>
<電子データシートファイル名>TS001003.PDF</電子データシートファイル名>
<電子データシート作成ソフトウェア名>データシート簡易作成 LT2.0</電子データシート作成ソフトウェア名>
<データシート交換用データファイル名>TS001003.XML</データシート交換用データファイル名>
<データシート交換用データ作成ソフトウェア名>データシート簡易作成 LT2.0</データシート交換用データ作成ソフトウェア名>
<試験コード>A1216</試験コード>
<規格番号></規格番号>
<基準番号>JGS 0511-2000</基準番号>
<試験名称>土の一軸圧縮試験</試験名称>
<試料番号>L001</試料番号>
<試料採取情報>0</試料採取情報>
<試験上端深度>1.00</試験上端深度>
<試験下端深度>1.80</試験下端深度>
<試験開始年月日>2001-01-11</試験開始年月日>
<試験終了年月日>2001-01-11</試験終了年月日>
<試験者>○○ ○○</試験者>
<試料供試体写真情報>
<デジタル試料供試体写真ファイル名>S0010031.JPG</デジタル試料供試体写真ファイル名>
<写真内容>試験前供試体状況</写真内容>
</試料供試体写真情報>
<試料供試体写真情報>
<デジタル試料供試体写真ファイル名>S0010032.JPG</デジタル試料供試体写真ファイル名>
<写真内容>試験後供試体状況</写真内容>
</試料供試体写真情報>
<各種試験コメント></各種試験コメント>
</各種試験情報>
</試験情報>

<試験情報>
<地点名>S-1</地点名>
<フォルダ名>S1T0001</フォルダ名>
<ボーリング交換用データファイル名></ボーリング交換用データファイル名>
<位置情報>
<経度>
<経度_度>135</経度_度>
<経度_分>46</経度_分>
<経度_秒>23.1500</経度_秒>
</経度>
<緯度>
<緯度_度>35</緯度_度>
<緯度_分>2</緯度_分>

```
<緯度_秒>16.8000</緯度_秒>
</緯度>
<測地系>0</測地系>
<標高>102.00</標高>
<位置情報コメント></位置情報コメント>
</位置情報>
<各種試験情報>
  <電子データシートファイル名>TS000001.PDF</電子データシートファイル名>
  <電子データシート作成ソフトウェア名>データシート簡易作成 LT2.0</電子データシート作成ソフトウェア名>
    <試験コード>B1521</試験コード>
    <規格番号></規格番号>
    <基準番号>JGS 1521-1995</基準番号>
    <試験名称>地盤の平板載荷試験</試験名称>
    <試料番号></試料番号>
    <試料採取情報></試料採取情報>
    <試験上端深度></試験上端深度>
    <試験下端深度></試験下端深度>
    <試験開始年月日>2001-02-12</試験開始年月日>
    <試験終了年月日>2001-02-12</試験終了年月日>
    <試験者>○○○○</試験者>
    <各種試験コメント></各種試験コメント>
  </各種試験情報>
</試験情報>

<ソフトメーカー用 TAG></ソフトメーカー用 TAG>

</GRNDTEST>
```